

2019 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



次

- ・ 2019年度院外からの研修……………146

会長を退任いたすことになりました ～創立以来 40 年間 有難うございました～

社会医療法人栄光会・会長/社会福祉法人栄光会・理事長
栄光病院・名誉ホスピス長 下稲葉康之

創立以来 これまでの40年を顧みますと

* あの古ぼけた「亀山病院」に足を踏み入れて 40 年。栄光病院が生まれ・育ち、そして「**キリスト信仰に基づいた医療・看護・介護**」を目指しつつ、今日の「栄光会」に至りました。この間、幾多の苦難・課題を前に立ちすくむこともありましたが、実に数多くのパートナーの皆様に応えられ、また、志を同じくするスタッフ共々に懸命に励んで参りました。

そして、あの当時の「亀山病院」から現在の「栄光会」の姿は、期待は勿論、とても想像も出来ないことでした。その軌跡は、まさに「**奇跡の軌跡**」です。「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方である」（聖書）を思い起こしています。感謝以外にありません。そして栄光会は、これからも、この御方の守り・導きを仰ぎつつ、邁進していくことになります。

* また、栄光会は「ホスピス」とは不可分の関係を持ちながら、今日に至りました。「ホスピス」の理念が栄光会の単なる特徴に止まらず、医療・看護・介護の基本的な理念となり、そしていつしか運営・経営の枢要な位置を占め、その役割を果たすことになりました。また、九州・日本のホスピス緩和ケア領域で、オピニオンリーダーとしての役割をも担うことにもなりました。これからも、更なる高嶺を目指して精進して参ります。

* はからずも、2019年度「**日本福音功労賞**」（日本福音振興会）および「**第48回医療功労賞**（福岡県）」（読売新聞社主催 後援：厚生労働省など）を受賞致しました。これは、ホスピス病棟における、「全人的視点に基づいた、患者さんご家族の喜びと幸せを願い、仕える医療・看護・介護」が医療界のみならず、キリスト教界からも評価されたことで、大変嬉しく、また感謝しております。改めて、関係各位の皆様にご心から感謝してご報告いたします。

* この40年間、栄光会に関わって来て、「主イエスから託された務め」を凡そ果たし終え、その「務め」を次世代に託す時が到来したと判断しました。これからは、「**名誉会長**」として、専ら「**相談役**」的な役割に徹する積りです。

これまで関係各位の皆様には、公私共に本当にお世話になりました。言葉に尽くせません。この紙面を借りて衷心より御礼申し上げます。また、これからも「社会医療法人/社会福祉法人栄光会」を、これまでも増して温かく見守って下さり、ご援禱・ご支援下さいますように伏してお願い致します。この40年の長きに亘り、賜りました数々の温かいご支援に、今一度、心より感謝申し上げます。有難うございました。

2020年度に向けて

社会医療法人 栄光会 理事長

青戸 雄司

2020年度は、法人として基本的業務をしっかりと確立し、「地域包括ケアシステム」の円滑な運用を図るとともに、経営安定の確かな枠組みを構築することに全力を傾注してまいりました。その甲斐あってか、栄光会始まって以来の好業績を残すことができました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大（パンデミック）という未曾有の世界的危機により、2020年4月7日には緊急事態宣言が福岡県にも発令されました。当然、当院も大きな影響を受けることになりました。

健診センターの閉鎖、通所リハビリの休止に始まり、外来受診者の減少、病棟への家族・保護者等の立入制限等による入院患者数の減少等、医療事業部及び介護事業部共に大きな影響を受けることとなりました。5月14日には緊急事態宣言は解除となりましたが、尚、感染の第二波第三波の怖れがあるために今後とも感染予防対策の徹底を継続してまいります。

2020年度の経営（財政面）に関しては、かなりの損失を覚悟しなければなりません。それでも、出来る限り損失を抑えることが重要であります。

そのための対策として以下のように考えております。

- 1) 病棟稼働率90%を堅持する
- 2) 各部署の減収の抑制を図る
- 3) 経費を徹底的に削減する
- 4) 設備投資は原則として本年度は停止する

新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底することが第一であるのは論を待ちませんが、感染症終息後（アフターコロナまたはウイズコロナ）の安定的な経営を意識した部署運営を職員一同一丸となって進めて行く所存です。

おかげさまで、2020年度は栄光会創立40周年を記念する年となります。

40年間、目まぐるしく変わる医療保険制度や介護保険制度の変遷の中で、いろいろな苦難を乗り越えて今日まで栄光会が存続発展できましたのも、ひとえに皆様のお支えがあったからに他なりません。心から感謝申し上げます。栄光会は創立以来、キリスト信仰を土台として、患者さん、利用者さん、ご家族の皆様の全生涯にわたり、その幸せと生きがいに貢献したいとの思いから、からだと心を診る医療・看護・介護にひたすら励んでまいりました。また、地域の皆さんと共に、総合的に保健・予防・医療・介護事業活動等を行ってまいりました。これから我が国では「超高齢・多死・人口減少社会」というこれまでに経験したことのない社会問題に直面します。40年という一つの節目の年を迎え、栄光会のいままでの歩みをふりかえると共に、今後の栄光会のあり方をしっかりと見据えつつ、確かなビジョンをもって、これからの厳しい医療・介護環境の荒波を乗り切ってまいる所存です。これからも、栄光会は

地域の皆様の健康を守り・支えるために日々精進し、皆様から必要とされる病院・施設づくりに励んでまいります。

すべての企画と事業が、神のお導きのもと、またご栄光のために、そして病む人・老いた人・そのご家族の方々の幸せと喜びと生き甲斐のために、豊かに祝用されますようにと心から願いつつ。

また、栄光会に連なる関係者の皆様のますますのご健勝を祈念しますと共に、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

2020年度に臨んで

社会医療法人 栄光会 総院長

折田 泰彦

藤江、下稲葉、折田が「ホスピスを持つ基督教病院を！」と祈り始めて40年が経過しました。

当時の栄光会（栄光病院）の建院の精神は「ホスピスの心を」ということでした。

以来、「これらのわたしの兄弟たちに、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたし（キリスト）にしたのです。」という聖書の言葉が病院を導く聖句となり、キリストに仕えるように患者さんの尊厳を尊んで仕えるということが、当然のように病院を導く理念となりました。

これはマザーテレサを奉仕の人生に導き、その生涯を貫く聖句としても知られています。

そのように仕えれば、患者さんの感謝で癒されるという「癒し、癒される」との言葉が標語となり職員的心を支えています。

患者さんは「ここが痛い等の身体的訴え」と同時に、患者さん自身も気づいていない「人格を尊重して！という根源的訴え」を持っています。それを捉え損じると栄光会は患者さんから見放されます。

そこで、栄光会はこの二つのニーズに応えようという明確な目標を持っています。

そのため、最新の医療技術や知見、設備の導入及びそれに見合った人材育成に取り組むのみならず、尊厳を尊んでほしいというニーズに応えるため、「心の面」の教育に配慮しています。

そのため、週三回の朝礼や、学会、研修会などへの出席を奨励しています。

発足当時は他の施設への転院などはスムーズにいかない時代でしたので、自己完結型の療養施設の必要を感じ、次第にそれが増え、別図のような栄光会というグループ（総勢500人弱の職員）に発展してきました。今年度から、栄光会こどもクリニックと亀山クリニックが合併して「栄光会ファミリークリニック」として、新しくオープンしました。

これらすべての施設に「ホスピスの心を」というのが私ど

もの目標です。もちろんこれらのためには、自助努力以外に、神様の守り、各地の協力牧師やその教会の祈り、地域の方々や、医師会、大学病院、金融関係などのご理解と協力なしにはできなかったことでしょう。

今後に向けて：日本の医療環境は、日本経済や新型コロナの例を引くまでもなく、グローバル化の波に翻弄されているという事実は否めません。今まで、上のような①患者サービスに注力したことが、②病院経営、③働きやすい職場という、企業の三大基本要件の残り二つを引っ張ってきました。

一方、栄光会は、40周年を経て世代交代の時期に差しかかっています。故藤江前会長、下稲葉会長、いずれ折田も、「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」の状態です。

けれども、今後のことは次の世代が神様に祈りながら考え、切り拓いていくことです。

これまでそうであったからこそ守られたように、これからも基督教病院としての精神、「ホスピスの心を」を堅持しつつ時代の荒波を乗り越え、地域の皆様や時代の要請に応えて、未来に向かって柔軟に対応して欲しいと願っています。



社会医療法人 栄光会
社会福祉法人 栄光会
概要

栄光会創立の精神・理念・基本方針

栄光会創立の精神

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし(キリスト)にしてくれた
ことなのである。 ～ 聖書 ～

栄光会理念・基本方針

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の
医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の
権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

■ 社会医療法人栄光会の概要（２０２０年４月現在）

【栄光病院】

外来

２４時間、いつでもみなさんが最善の診療が受けられるような診療体制を整え、院内の各科や地域の医療関係機関との連携を図って、一人ひとりの患者さんを総合的に診療しています。また、同時に地域医療の充実と向上に努めています。

- 総合診療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 外科
- 脳神経内科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 肛門科
- ホスピス外来（相談）

在宅医療・訪問看護・在宅ホスピスケア(在宅医療センター、訪問看護ステーション)

高齢化社会の到来や患者さんご本人の要望などで在宅医療・訪問看護の必要性は高まるばかりです。当法人ではいち早く専従・専任のドクター・看護師チームを組んで２４時間・３６５日いつでも訪問できる体制をとりました。具体的には９０年代後半には訪問看護ステーションを開設し、２００６年４月には栄光会傘下の「亀山クリニック」について『在宅療養支援診療所』の認可を得るとともに、２０１０年４月には「栄光病院」が『在宅療養支援病院』としての認可を得、病院及び両クリニックとの連携強化を行いました。そして、２０１３年４月には「在宅医療センター栄光」をオープンし、より一層充実した在宅医療を推進しています。２０１８年６月には、「栄光会訪問看護ステーション」を栄光病院敷地内に移転し、病院との連携をさらに強化しております。

健康診断・ドック・栄養相談(健診センター)

２０１２年７月に健診センターが稼働を開始し、日頃の健康管理によって病気を未然に防ぎ、病気を早期発見するため、高血圧・ガン・心臓病などの成人病予防の各種成人病検診、人間ドック、内視鏡検査、

健康・予防意識の向上を図る働きが強化されています。今後、健康に関するデータを情報システムによって把握・管理し、さらに充実した予防医療の取り組みを行っていきます。

リハビリテーション

体力回復や術後の機能回復について、パワーリハビリ機器を完備したリハビリテーションルームの運用に加えや病棟・ベッドサイドでの訓練も行っています。専門のスタッフが一人ひとりの患者さんに合ったプログラムでバックアップします。

救急医療

栄光病院は二次救急告示病院として、地域住民のみなさま方の急な発熱・痛みや苦しみ、突発的な事故などにも対応できる設備やスタッフで24時間・365日体制の医療を行っています。またその実績が認められ、2009年12月、社会医療法人として認可されています。

オープンシステム（開放型病院）

地域医療の向上・充実のため、医師会との協力のもとに、開放型病院として取り組んでいます。今後はさらに機能を充実させ地域医療を担う病院として、地域の皆様の期待に応えていく所存です。

【クリニック】

●亀山クリニック

診療科目：内科・呼吸器内科・アレルギー科

●栄光会こどもクリニック

診療科目：小児科

亀山クリニックは患者さんに信頼される身近なかかりつけ医として地域に根ざした医療を実践するとともに、栄光病院における専門医療・検査・入院などとの連携を密にしています。また在宅療養支援診療所として患者さんやご家族の要望に応えるため在宅ホスピスなどの在宅医療を強力に推進しています。2015年1月に波多江 Dr. が院長に就任してからはなお一層在宅医療が強化されています。

栄光会こどもクリニックは2013年9月に栄光会クリニック博多の森から名称・診療科目を変更し、小児科を中心とした診療を行っています。

【介護保険事業】

介護は医療・看護と一体でなければならないという理念のもとに、亀山クリニックに併設する「医療介護施設かめやま」を中心として、２０００年４月介護保険法施行とともに、次頁の通り関連事業に着手しています。

【関連事業】

- 栄光会ケアプランサービス（居宅介護支援事業所）
- 栄光会訪問看護ステーション（訪問看護、訪問リハビリテーション）
- 亀山クリニック 栄光会通所リハビリテーション（デイケア）
- 介護付き有料老人ホーム「かめやま」
- 栄光会ヘルパーステーション（訪問介護）

【栄光病院の施設概要】

栄光病院は、その源流を昭和初期 炭鉱付属として診療を始めた亀山病院に求められます。地域住民の皆様からの厚い信頼を受けてきた伝統を受け継ぎ１９８６年４月、キリスト教主義の病院として その名も福岡亀山栄光病院に改め、現在の医療介護施設かめやまの地に新築・移転しました。その後 １９９９年９月には特別医療法人の認可を受け（それと同時に病院名を栄光病院に改名しました）、２００５年１１月には現在の地に新築・移転オープンしました。さらに２００９年１２月には救急医療の実績が認められ新たに社会医療法人として発足、つねに患者さんのニーズにお応えすべく最善の医療機器や各種施設を完備しています。

●許可病床数 １７８床

●看護単位 外来 ・ ６病棟

【内訳】 緩和ケア病棟 A ・ B ・ C ３病棟（７１床）

看護配置 ７ ： １

地域包括ケア病棟（４５床）

看護配置 １３ ： １

障害者施設等入院基本料病棟（２８床）

看護配置 １０ ： １

回復期リハビリテーション病棟（３４床）

看護配置 １５ ： １

- 救急指定病院 24時間受診可
- 健診センター
- 重症患者管理施設
 - 心拍、呼吸、血圧監視装置
 - 人工呼吸器、除細動器
 - 心臓ペースメーカー(体外式)
- 消化器内視鏡室
- 気管支鏡検査
- リハビリテーション施設
 - 各種リハビリテーション施設
 - 各種理学療法機器(含 電気ハリ)
 - パワーリハビリ機器
- 手術部及び中央材料室
- MRI
- 16列マルチ・スキャンCT
- X線透視撮影装置
- マンモグラフィー
- 迅速血液ガス・電解質測定装置
- 心臓超音波装置
- 腹部超音波診断装置、その他

社会医療法人栄光会の沿革

昭和の初頭	亀山病院(炭鉱付属病院)としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院(キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転)
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
平成 2年 9月	緩和ケア病棟認可(西日本初 全国で5番目)
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可 在宅医療・訪問看護及びデイケア(通所リハビリテーション)スタート
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 栄光病院 認可(福岡県では初、全国で3番目)
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
平成12年 7月	開放型病院認可
平成13年12月	病院機能評価 V. 3 受審(平成14年2月 認定)
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会「聖ヨゼフの園」(北九州市八幡西区)譲受
平成15年 8月	診療所 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院竣工、移転 及び 亀山クリニック開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入所者生活介護「かめやま」開設
平成19年 2月	病院機能評価 V. 5 更新・受審(平成19年3月 認定)
平成20年 1月	下稲葉 康之 理事長、藤江会長 就任(藤江会長は平成25年12月末で退任)
平成20年 3月	病院機能評価 付加機能 緩和ケア受審
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認定(福岡県では4番目)
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 1月	病院機能評価 V. 6 更新・受審(平成24年4月 認定)
平成24年 4月	栄光病院新館 竣工(ホスピス病棟、健診センター 他)
平成24年 5月	ホスピス新病棟稼働、病棟再編成
平成24年 7月	健診センター稼働
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設(栄光会クリニック博多の森を小児科に)
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 発足
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ(経営理念)』上梓
平成27年 8月	特別養護老人ホーム「こころ」開業
平成29年 1月	病院機能評価 3rdG Ver:1.1 更新・受審(平成29年4月 認定)
平成29年 7月	社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉康之、理事長 青戸雄司 就任 社会医療法人 栄光会 栄光病院 院長 井上裕 就任
平成30年 5月	ケアプランサービス・訪問看護ステーション 移転(栄光病院敷地内へ)
平成30年 9月	介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
平成30年12月	住宅型有料老人ホーム「安息」 閉鎖

■ 社会医療法人栄光会の歴史

『 私たちは「こころ」も「からだ」もともに癒され
幸せに生きる医療・看護・介護”を目指しています 』

社会医療法人 栄光会 はキリスト教の精神に基づいて、健康管理、日常診療、救急医療、在宅医療、終末期医療(ホスピスケア)などの医療とともに、介護事業も強力に推進し、人間の全生涯にわたり、地域に開かれた医療・看護・介護を目指して取り組んでいます。悩みや痛み、苦しみを共にし、「こころ」も「からだ」も癒される医療・介護の充実と、同時に患者さん・ご利用者・ご家族など一人ひとりの幸せと生きがいに応えることを目指しています。

炭鉱病院からキリスト教病院に

社会医療法人 栄光会 栄光病院は昭和の初め、志免町亀山に炭鉱付属の亀山病院としてスタートしました。時代は移り変わり、エネルギー革命によって石炭が石油へと転換されると、炭鉱は閉山。亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。'70年代～'80年代の亀山病院は、老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中'86年4月、旧病院を 現医療介護施設亀山 の地に新築移転しました。当時、院長であった藤江良郎医師(前会長)は、下稲葉康之医師(現会長・兼名誉ホスピス長)、折田泰彦医師(現総院長)らと共に、キリスト教病院として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発させたのです。

それは、これまでの診療に加え、まだ「ホスピス」という言葉になじみのない頃に、終末期医療に真正面から取り組む全国的にも珍しい存在の病院でした。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表4～5人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか?」。地域の方からの素朴な質問です。栄光病院の藤江前会長、下稲葉理事長(兼名誉ホスピス長)、折田総院長の3人をはじめ、スタッフの10%程はクリスチャンで、栄光病院の医療精神はキリストの癒しを礎としています。一方、地域には仏教徒や無宗教の方もたくさんおられます。栄光病院は、宗派や信仰の有無に関係なく、24時間診療や訪問看護にあたっています。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように栄光病院を中心とする栄光会各施設は創立の時から、このような地域の方々の理解と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

人と人のふれあいを通して

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科など 150 床からスタートしました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に 178 床に増床し、その内、24 床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、'90 年 3 月、念願のホスピス病棟が完成し、'98 年 5 月には 36 床に増床、'05 年 11 月、病院の移転を機に 50 床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、'12 年 6 月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、ホスピス病棟 71 床という全国で最大の病床規模を有する病院になりました。栄光病院では旧病院時代の'82 年から終末期医療に取り組んでいます。告知を受けている、いないにかかわらず、終末期の患者さんにとって、いたずらな延命医療より心と身体を共に癒すケアを目的にして安らかな生活を送ることを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式や前夜式（お通夜の事です）・お葬式も執り行っています。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さんの人生をトータルに考えると、医療の中で「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

そして、未来へ。

栄光病院は'99 年 9 月、特別医療法人として、医療の安定性及び永続性を確保するため新設された法人として、福岡県では 1 番目、全国で 4 番目の認可を得ました。

同じ'99 年には開放型病院の認可を受け、地域の開業医の先生 100 数名以上が賛同登録するなど病診連携が順調に進んでいます。数年前より紹介率は 20%を超える状況となっています。

'01 年には、病院の質的レベルの評価を受けるために、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(V.3)の審査を受け、'02 年 2 月に無事認定を得ました。その後'07 年には「病院機能評価」の初めての更新を受け(V.5)、翌年 緩和ケア病棟 50 床について「病院機能評価付加機能」として評価をいただきました。更に'12 年 1 月には 2 度目の更新(V.6)を無事執り行うことができました。

'03 年には、旧病院から同じ志免町内ではあるものの約 0.7km 西方の地に、新病院建築を計画し、'05 年 11 月無事竣工、移転しました。また旧病院の 1F は亀山クリニックとして、その上階には老健施設「グロリア」や介護付有料老人ホーム「かめやま」などを('06 年 4 月竣工)を併設 運用するようにしました(この施設を総称して法人内では「医療介護施設 亀山」と称しています)。以上により医療(ホスピスを含む)、看護(訪問看護)、介護を 3 本柱とする、より地域に密着した病院及びその関連施設を完成させたことになりました。その後、'11 年には新たに住宅型有料老人ホーム「安息」の稼働とリハビリテーション機能の強化を目的とした通所リハビリテーションの拡充も行って

います。

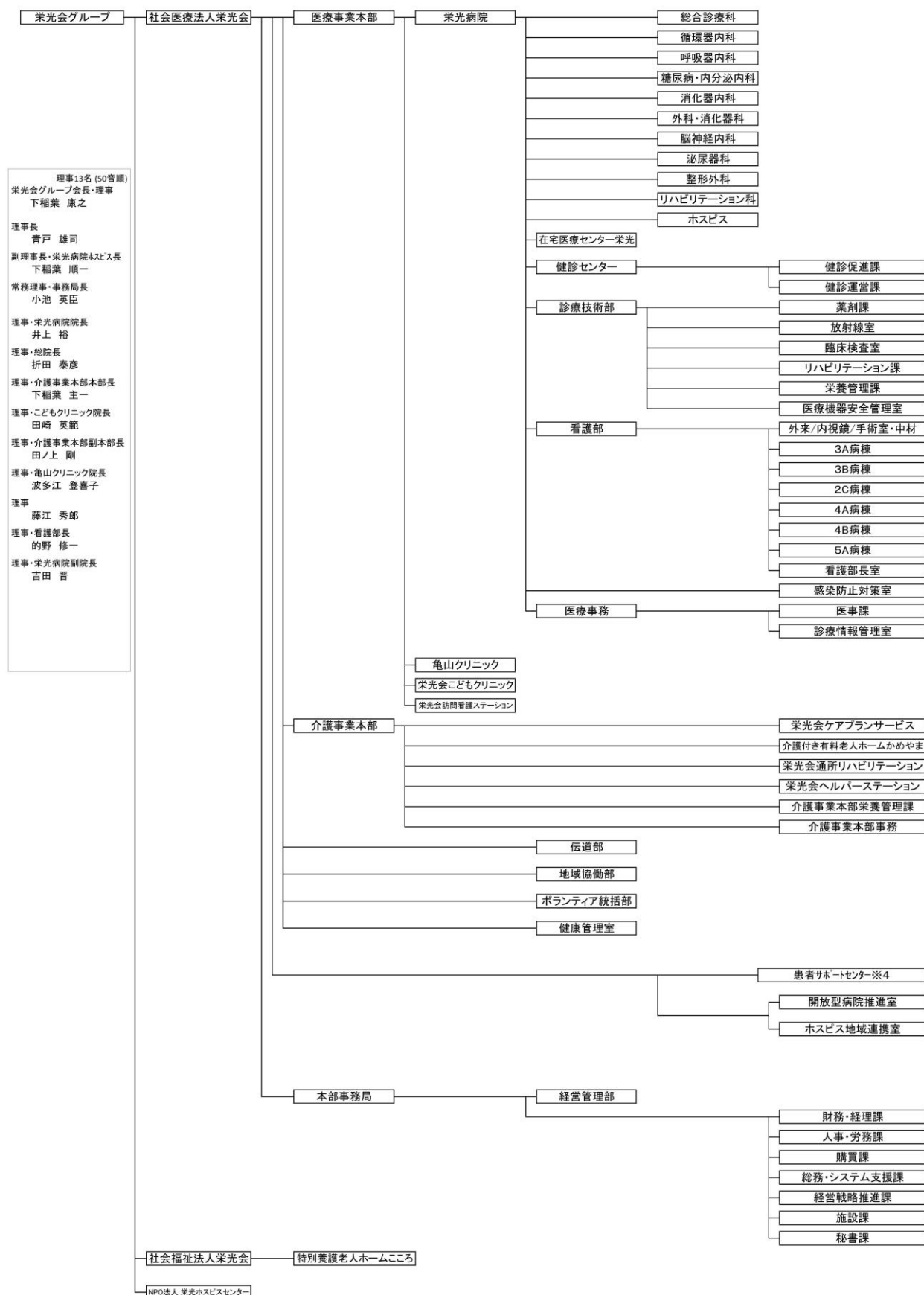
一方、'09 年 12 月には社会医療法人としてより一層公益性の高い法人格の認可も受けました。これは 24 時間 365 日の救急医療の実績が認められたことによるものです。

その後、病院においては'11 年度より新病棟の建築に入り('12 年 4 月竣工)、同年 6 月より病棟再編による新体制、同年 7 月より新健診センターがスタートするなど大きな変化の年となりました。また、'13 年 4 月には、「在宅医療センター栄光」がオープンし、在宅医療に一層注力しています。また、「栄光会クリニック博多の森」が小児医療に特化する事となり同年 9 月より「栄光会こどもクリニック」としての運営が始まりました。更には福岡県による'14 年事業としての特別養護老人ホーム申請(80 床、内ショートステイ 10 床)が認められ、その名も特別養護老人ホーム「こころ」としました。その後も着々として計画は進んでおり、'14 年 5 月には社会福祉法人 栄光会が発足し、その理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉理事長が兼務で就任しました。その後'14 年 9 月には特別養護老人ホーム「こころ」が着工し、予定通り'15 年 7 月には竣工、同年 8 月より開業の運びとなりました。職員数も社会医療法人・社会福祉法人合すると 500 名を超える大所帯となりました。栄光会グループとしては、産婦人科を除く全ての人生ステージに対応する医療・看護・介護の体制を持ったことになりました。

今後、地域医療を担う医療機関としての機能を一層向上させ、市中の大規模病院や診療所との連携をさらに密にすることによって、地域住民のみなさまが安心して暮らせる地域医療圏完結型の医療体制を構築し、在宅医療と介護・福祉を統合した患者さん・利用者の方々・ご家族のトータルな支援ができる体制を築き上げたいと思っています。

これからも、建院の理念であるキリスト教精神を堅持しつつ患者さん・ご利用者本位の医療・看護・介護を目指して進んでいきます。

■ 栄光会グループ組織図 (2020. 04. 01. 現在)



■ 栄光会グループ 職員状況 (2020. 04. 01. 現在)

会長	1	薬剤師	4
理事長	1	放射線技師	5
総院長	1	チャプレン	1
副理事長・ホスピス長	1	管理栄養士	5
院長	3	歯科衛生士	1
副院長	1	臨床工学技士	1
医師・常勤	1 2	事務職員	1 8
医師・非常勤	2	医事課	1 6
事務局長	1	クラーク	1 2
看護部長	1	診療情報管理士	2
看護師	1 8 6	医療介護施設 事務職員	1 2
准看護師	7	夜間管理・常勤	1
保健師	1	送迎職員	3
ケアワーカー	8 9	生活サポーター	2
ケアマネージャー	9	宿直	4
相談員	6	休職中	2 1
理学療法士	2 0	派遣職員	3
作業療法士	1 1		
言語聴覚士	6	栄光病院	3 4 7 (再掲)
音楽療法士	1	医療介護施設かめやま	7 0 (再掲)
助手	3	栄光会こどもクリニック	6 (再掲)
臨床検査技師	5	特別養護老人ホームこころ	5 6 (再掲)
合 計			4 7 9

■ 外来診療予定表【栄光病院】(2020.04.01.現在)

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合	①	原	呉屋	布 巻	原	青 戸	安藤俊	原/ 安藤俊	豊 永	豊 永	青 戸	原/ 安藤俊	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		斎 藤		鶴 田		手 越	
	③												
外 科		井 上		井 上		井上/ 斎 藤		斎 藤		斎 藤		井上/ 斎 藤	
専門・ 予約 外来	循環器	折田加				畑島	折田義		林 谷				
	呼吸器				安藤俊					安藤俊		高 尾 (第1土曜) 秦 (第3土曜)	
	糖尿病		豊 永			豊 永			福永 (再診のみ /15時迄)				
	神経内科	鶴 田		大 野		呉 屋		大 野		呉 屋			
	整形外科		山 口	本 村				黒 木					
泌尿器科												九大	
ホスピス 外来/相談		下稲葉康 吉 田 下稲葉順 (柴 田) (福 永) (渡 辺)		下稲葉順 (柴 田) (福 永) (渡 辺)		下稲葉順 (福 永) (渡 辺)		下稲葉康 吉 田 下稲葉順 (福 永) (渡 辺)		下稲葉順 (福 永) (渡 辺)	福 永 15:00~	下稲葉順 (柴 田) (福 永)	

※注) 表中の表示について「/」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前9時～午後5時00分(昼休み12時30分～13時30分)となっています。なお、午前中の受付は12:00までとなっておりますのでご注意ください。また、午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。ただし、急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後(13:30-17:00)にお願いいたします。(緊急はその限りではありません)

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください

■ 外来診療予定表【亀山クリニック】(2020.04.01.現在)

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療	波多江	波多江	波多江	—	真柴	—	波多江	波多江	波多江	—	波多江	—

※ 月・木曜日午後の総合診療は、16:00~17:30

■ 外来診療予定表【栄光会こどもクリニック】(2020.04.01.現在)

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
小児科	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—

社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 坂本 久美子

こころ方針

おもてなしの心で 入居者さまお一人お一人の

幸せと生きがいのある生活をサポートします

概要

2015年8月1日開設し、今年5年目を迎えます。

今後の日本の高齢者介護におけるケアの考え方、どのようにすれば安心して過ごし、生きていてよかったとっていただけるのか、いつも自分自身に問いかけながら施設づくりをおこなっております。

入居70名 + (短期入所) ショート10名の定員80床の全室個室型のユニットです

要介護3から要介護5までの方が入居対象です。

2020年度 目標

「地域に貢献できるユニットケア施設」として貢献する

2019年度は「看取りができる施設」としての礎を構築することに力を注ぎました。年間死亡者22名中20名の看取りに対応しました。

今年度もタイムリーな入所判定会議の開催により、入居を待っておられる方に少しでもはやく御入居していただけるよう努力していきたいと考えております。

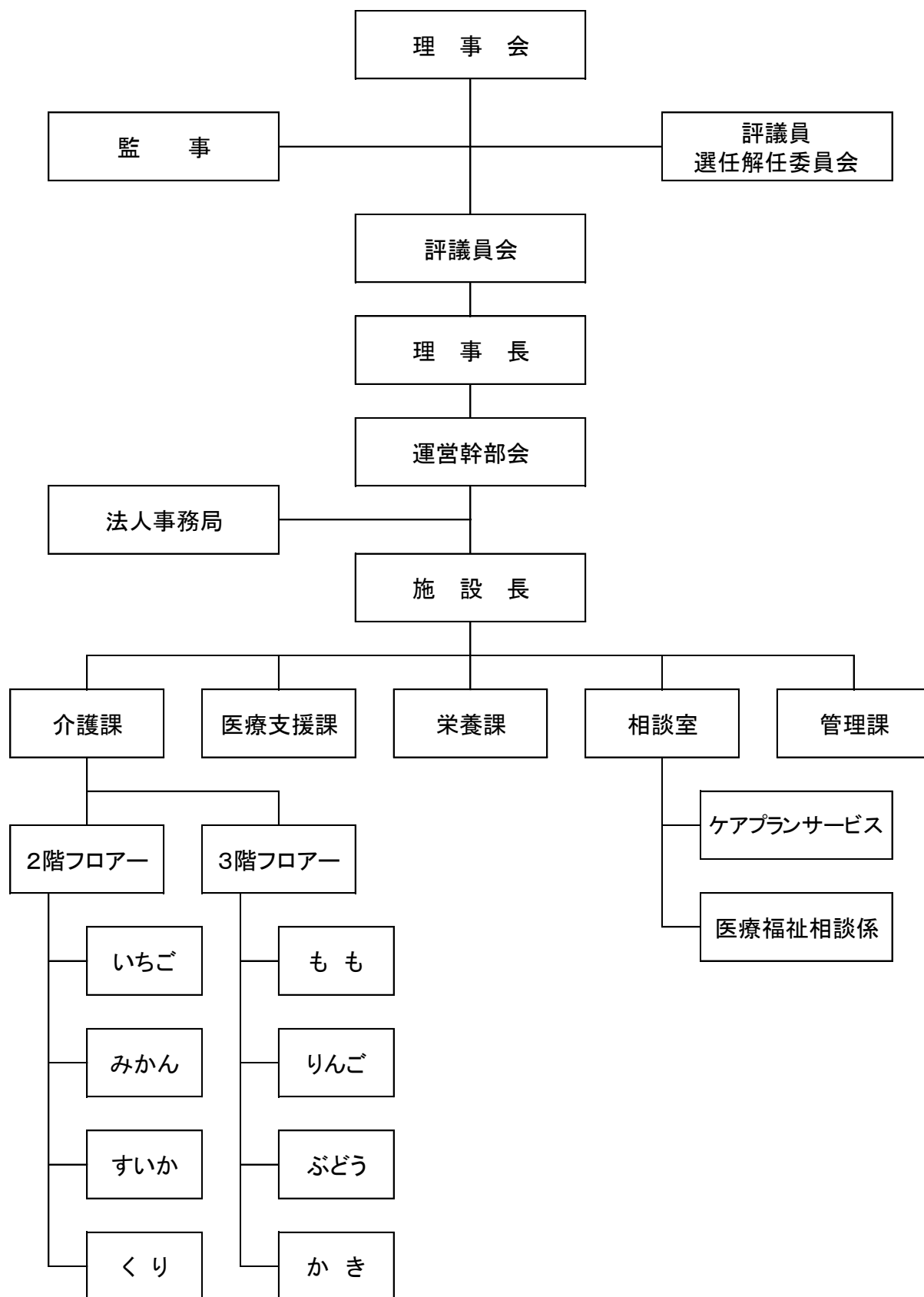
開設時から179名の入居があり、施設看取りは65名になりました。

全国の特養の要介護3以上の方の受け入れが始まり5年目です。

過去の特養とは比較にならないほど入退居者の人数が増えております。

施設での看取りについては、隣接している栄光病院がありホスピスマインドを持って、これからも入居者、ご家族がこころに来て良かったと思ってもらえるよう「看取り体制」を構築していきたいと思っております。

今年度の目標である地域貢献については、地域の方々に利用していただける、地域交流室には、ピアノ、プロジェクターを設置し地域の子供さん方のハロウィンや高校生のボランティア、粕屋地域のマルシェ、聖歌隊の演奏等たくさんの方に利用をして頂いています。高齢者と子供達が自然に触れ合える空間作りをしていけたら一番良いと考えます。志免町は子供の人口が一番増え、施設の前は小学校の通学路でもあり大変良い環境に恵まれております。残念ながらコロナの為に活動に支障がでてはおりますが、これからも地域に根ざした特養であり続けられるよう努力いたします。



社会医療法人 栄光会 現況

地域連携室

■ 患者サポートセンター

センター長 井上 裕
副センター長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成

○前方支援（看護師）

副センター長：鎌倉 富雄、古賀 悦子（2019年6月17日より配属）

緒方 千代、小玉 衣里（2019年5月より産休、2020年3月退職）

○後方支援（MSW）

課長代理：松尾 宗忠、斉藤 直子（2019年2月より産休）

矢羽田 有希子（2019年6月より産休）

黒田 優子（2019年4月より派遣、10月より正社員として勤務）

新開 真由美（派遣看護師：2019年11月～2020年1月勤務）

クラーク：小林 美穂（派遣）

2. 業務内容

- ・入退院支援
- ・医療福祉相談（患者相談）
- ・地域医療連携（病病連携）
- ・広報活動 その他

2019年度を振り返って

前方と後方支援の看護師とMSWがそれぞれの専門性を活かし、一連の入退院支援の中で、それぞれの役割と連携を強化でき、一つの流れと纏まりが定着してきた一年であった。その一方で、産休等のスタッフの欠員が重なりマンパワー不足となったことで、十分な退院支援の介入が出来ず、またスタッフが疲弊し体調不良を起こすなど多忙な一年となった。関連部署の協力により何とかそれを乗り切ることができた。

改めて部署内でも組織、チーム力の大事さを痛感させられたことから、患サポスローガンを立案することとなり、新たな気持ちで団結することができた。

「患者さん・ご家族に寄り添った入退院支援を目指そう！

～患サポの心は一つ！いつも笑顔でつなげよう～

2020年度に向けて

入退院支援の質の向上を目指し、患者さんご家族に寄り添った介入と、病床稼働率の維持や病病連携による広報活動により、病院経営に貢献できるように努めていきたい。

2020年度も患サポ内の体制については、人員の動きが流動的にあるため、段階的に検討する必要がある。スタッフの健康を守りつつ、より効率的でスムーズな体制づくりを目指し、関連部署との更なる連携、協力を図っていきたいと考えている。

2016年度～2019年度 相談受付延べ件数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
月	延べ件数	延べ件数	延べ件数	延べ件数
4 月	364	311	250	254
5 月	381	299	309	253
6 月	353	319	290	258
7 月	317	303	293	305
8 月	334	322	319	320
9 月	286	267	234	326
10 月	338	294	257	416
11 月	293	300	216	400
12 月	290	275	203	372
1 月	290	298	204	353
2 月	346	282	195	326
3 月	341	311	242	357
計	3933	3581	3012	3940

※2018年度は9月より、入院相談を別に集計しております。

2019年度 入院相談件数

	4A	4B	5A	お断り キャンセル	その他 (ホスピス等)	計
4 月	21	6	13	14	1	55
5 月	21	3	18	12	2	56
6 月	17	3	11	9	1	41
7 月	30	4	13	9	0	56
8 月	26	5	14	14	0	59
9 月	23	8	11	7	0	49
10 月	23	3	13	6	1	46
11 月	16	4	15	4	0	39
12 月	25	4	13	10	1	53
1 月	16	6	16	12	1	51
2 月	28	1	9	10	1	49
3 月	20	5	11	7	0	43
計	266	52	157	114	8	597

職場紹介

1. 職員構成

室長：下稲葉順一 顧問：工藤涼子 師長：西尾雅代 事務：田中陽子

2. 業務内容

- ・ホスピス 110 番としてホスピスに関する問い合わせ対応
- ・ホスピス相談日程調整
- ・ホスピス相談後、ホスピス病棟のご案内
- ・ホスピス外来予約など対応
- ・ホスピス病棟入院計画および紹介元の医療機関連携室と連絡調整

2019年度を振り返って

ホスピス相談件数（下記表参照）は、入院以外で在宅医療を希望するケースが増加している。今年度、在宅医療センター栄光にホスピス医師が専属として在宅ホスピスケアを提供できるように整備がされた。さらに当院ホスピス病棟をバックベッドとして訪問診療の依頼に対し、紹介元医療機関へ退院前カンファレンスの調整をし、各医療機関へ医師が出向き患者さん・ご家族のみならず、入院中の担当医師を始め関連スタッフと面識を深めることが、さらに在宅医療への依頼件数増加の要因として考えられた。

また、紹介元の基幹病院から化学療法中の併診として当院ホスピス外来フォローの依頼も引き続き多い。

入院調整に関しては、前年に比較し空室状況及びケア提供の必要度によりホスピス病棟に連日複数名の入院受け入れが続く期間もあった。

ますます外来フォローの患者さんの人数が増えているため、病状急変により緊急入院となるケースが今後も続くと考えられる。

年度末においては、ホスピス担当医師2名の退職に伴い、入院受け入れの調整が難しかった。

また、本年度の年次計画として各医療機関連携室と、『顔の見える連携』作りの交流会は、新型コロナウイルスの影響により開催準備にとどまり開催できなかったことは残念であった。

2020年度に向けて

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、感染防止対策を考えながら細やかな点にも配慮した連携が求められる。業務内容は、より複雑化することが予想されるが、栄光病院の培ってきたケアを継続し、患者さん・ご家族の気持ちに、さらに寄り添う対応を心掛けていきたい。

年度統計

〈ホスピス相談件数/入院判定〉２０１８年度

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
相談日に直接入院	２	０	２	３	１	１
入院希望	３５	３１	２１	２３	２６	２５
外来フォロー	４	１５	１５	６	１４	１４
在宅ケア	２	１	４	５	２	２
連絡待ち	１４	９	１６	１１	１５	１０
合計	５７	５６	５８	４８	５８	５２

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
相談日に直接入院	３	１	６	５	６	４	３４
入院希望	２４	２５	２６	３２	２０	３５	３２３
外来フォロー	９	１０	１１	１２	７	４	１２１
在宅ケア	２	１	３	１	１	２	２６
連絡待ち	１７	１６	８	１５	２２	１８	１７１
合計	５５	５３	５４	６５	５６	６３	６７５

〈ホスピス相談件数/入院判定〉２０１９年度

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
相談日に直接入院	２	１	１	２	４	５
入院希望	２３	２２	１９	３０	２４	１９
外来フォロー	４	１４	１６	１３	４	１０
在宅ケア	４	２	４	５	３	１
連絡待ち	１２	１４	２２	１８	２１	１８
合計	４５	５３	６２	６８	５６	５３

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
相談日に直接入院	５	３	２	０	３	５	３３
入院希望	２６	２２	２２	２２	２２	２７	２８９
外来フォロー	５	５	１３	１２	６	４	１０２
在宅ケア	２	５	５	６	４	２	４２
連絡待ち	２１	１５	１２	１３	１９	１３	１９２
合計	５９	５０	５４	５３	５４	５１	６５８

医療事業本部

荣光病院

職場紹介

1. 職員構成

職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医

青戸 雄二 : 総合内科専門医

安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医

豊永 雅恵

布巻 直美

鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医

手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2019年度を振り返って

年度末に COVID19 流行もあり、院内感染対策チーム・呼吸器科と連携して発熱者の診療にあたった。玄関先での検温や発熱者受診時のゾーニング、防護具の着用、手洗いの徹底といった院内感染予防策を行った。

当院では院内感染の発生はなく、PCR 検査まで施行した例は全例陰性であった。

2020年度に向けて

COVID19 終息後も院内感染予防を継続しつつ、上記診療内容の診療を行う。

現在、病状安定している方には適宜電話再診を行っているが、ウイルスとの共生社会に備えてオンライン診療の体制の充実を図っていく。

年間統計

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	355	383	282	303	317	264	316	350	506	581	320	267	4,244
再診	1,371	1,281	1,231	1,360	1,296	1,200	1,372	1,280	1,394	1,359	1,232	1,189	15,565
計	1,726	1,664	1,513	1,663	1,613	1,464	1,688	1,630	1,900	1,940	1,552	1,456	19,809

職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、折田が循環器内科出身、医療環境も潤沢であるということで、循環器内科の外来部門と病棟部門にたくさんの患者さんを抱えていました。急性心筋梗塞は、当時大学病院もすぐには受け入れてくれず、自院で、I V C Rで対応するか久留米の新古賀病院に頼み込むということで対応していました。心臓カテーテル検査の施設を導入するかどうかの決断を迫られて、多額の費用と人員を必要とすることから断念し、現在に至っています。幸い、冠動脈C Tもできるようになり、大学その他の施設もすぐ急性心筋梗塞を取ってくれるようになり、今は対応できるようになっています。外来は非常勤医師で週三日対応しています。

2. 職員構成

1) 外来部門

医 師：折田加奈子	月曜午前
畑島 皓	水曜午前
折田義也	水曜午後
林谷俊児	木曜午後
折田泰彦	月曜午後&随時

2) 病棟部門

急性期でなくて、対応できそうな患者さんのみ受け入れ、内科の先生方が担当しています。循環器内科の常勤医が待たれるところです。

3. 診療内容

心臓カテーテル検査とR I 検査以外は、心エコー、ホルターE C G、トレッドミル、頸動脈エコー等ほとんどの検査を臨床検査室の助けを借りて行っています。

2019年度を振り返って

九大循環器内科からの先生方が、引き続き診療していただき、愚息と嫁にも助けてもらっています。時々救急来院される患者さんは九大や済生会福岡病院などにお世話になっています。

2020年度に向けて

年度初頭から新型コロナの影響で他科同様、循環器の患者さんも減り、深刻な打撃を受けました。急性の循環器疾患も受け入れることができるように循環器内科の常勤医のリクルートが必要だと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4A病棟医長）

2019年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。

非常勤医師は土曜日の午前の診療で、禁煙外来も行っています。

当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、本年度は1例でした。肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、この5年間は年0～1例で、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となっています。

入院診療は4A病棟で行いました。本年度の入院総数は136例で、昨年度より約23例減少し、4A病棟が地域包括ケア病棟となったため、在院日数の増加による延べ人数の減少と考えます。疾患別では肺炎（細菌性、非定型、誤嚥性）が43例と最も多く、全体の32%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が9例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っています。新規症例は減少傾向です。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が5例、気管支喘息発作は2例と少なく、吸入ステロイドを主体とした外来治療が定着したためと考えています。肺癌は7例、治療後の経過観察、ホスピス目的の入院が主でした。呼吸器疾患以外では心不全が9例、尿路感染症が6例、その他の疾患（めまい、脱水症、廃用症候群等）が47例で、呼吸器疾患以外の一般内科診療も全体の35%と多岐に渡って行いました。

2020年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指します。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者様のQOLを重視した治療を御家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。また医療の質の向上のために、病棟のスタッフ、リハビリテーション課向けの勉強会をスタッフの意見を取り入れながら行っていきます。

今後の診療報酬改定に向けて、地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門・病棟部門： 常勤医師 豊永 雅恵

2. 診療内容

看護師(糖尿病療養指導士)・管理栄養士とチームを構成し、医師による診察の他、看護師による保健指導、外来教育(糖尿病カードシステム)、フットケア指導・胼胝処置、栄養士による食事指導など、多職種と連携して専門外来として厚みのある診療を行っています。

また、予防医学として合併症の定期検査も重要で、眼底写真・ABI・頸動脈エコー・心エコー・負荷心電図検査等を組み、また癌の合併も多く、腹部エコー・CT・消化管内視鏡検査等にも必要に応じ組みます。PCI 治療・CABG 手術や癌の手術に繋がったケースもあります。

近年、透析患者が増加し、年間医療費が1兆6000億円と、少子高齢化が進む中で社会保障の運営が厳しくなる懸念があり(粕屋地区の透析導入率は高い)、中でも糖尿病性腎症が原疾患の第1位であり、腎臓専門医に紹介する前の早期の、血糖の厳格管理を含めた進行予防が重要で、専門チームによる外来透析予防指導(栄養指導・保健指導)を行っています。

食習慣・生活習慣の変化や高齢化などにより糖尿病患者は年々増加し、全ての患者が糖尿病専門施設にかかることは現実的に困難ですが、患者自身は合併症の定期検査や重症化防止に専門施設での診療を望んでおり、その実現化のため、全国的に“糖尿病地域連携パス”の取り組みが進んでいます。普段は、かかりつけ医で診療を受けながら、半年～1年に1回は専門施設で治療の見直しや合併症検査、生活指導を受けるといえるものです。当院も、この“地域連携パス”に組み、登録医の先生方よりご紹介頂き、何名かのパスを進行中です。

病棟では、糖尿病教育入院・血糖コントロール入院(整形外科・眼科の術前コントロールを含む)を行っており、教育入院は2週間コースの他、軽症者・働き盛りの患者向けの1週間コース、病状や患者の理解度によりますが、最短で2泊3日コースもあります。看護師・栄養士・薬剤師・運動療法士とチームを構成し、患者への“個人指導”を特徴としています。

2019年度を振り返って

- ・糖尿病地域連携セミナー(症例検討を含む)を2回、開催しました。

「高齢者糖尿病の治療」「ガイドラインに沿った～かかりつけ医から専門医への紹介基準」

- ・済生会福岡総合病院循環器内科と連携し、「Kasuya Diabetes & Heart Conference」を開催。

- ・登録医の先生方との連携診療を充実させるべく、病院の無料巡回バスが設けられました。(現在新型コロナウイルス感染症対策のため運行開始延期中)

- ・新たに、スタッフ1名が日本糖尿病療養指導士に合格し、CDEは6名となりました。

(更に2名が一時試験通過したが、COVID-19感染拡大により二次試験は次年度へ延期。)

- ・第57回日本糖尿病学会九州地方会で、外来看護師(糖尿病療養指導士)が「糖尿病透析予防指導後

の患者の療養行動からみた指導内容の改善点」を発表しました。他3名が参加。

2020年度に向けて

糖尿病地域連携パスや外来透析予防指導は、地域により、取り組みの進行度に差が大きく、粕屋地区の糖尿病患者様の診療充実のため、登録医の先生方のご理解・ご協力を得て、更に拡げていきたいと考えています。また、糖尿病教育入院の充実と、医師会等のご支援を仰ぎながら、地域連携セミナーの開催(COVID-19感染拡大を考慮し、紙面・Web・メール等)を継続していきたいと思います。院内においては、勉強会(・学会)・資格取得などでレベルアップをはかりたいです。

職場紹介

1. 職員構成

消化器内科部長兼内視鏡センター長： 中里 貴浩
炎症性腸疾患 IBD 専門外来担当： 松井 敏幸(福岡大学筑紫病院)

2. 診療内容

- ・消化器内科業務は、ほとんどが内視鏡センターでの検査です。
- ・センターでは、最新機器を用い、健診経鼻から拡大内視鏡を用いた精密検査や、ESD などの特殊治療まで幅広く検査を行っています。
- ・検査室 2 室を、医師 1 名、内視鏡技師 2 名、看護師 1 名、洗淨員 1 名で運営しています。
- ・オリンパス ELITE システム 2 台、ファイリングシステム Solemio QUEV、上部 5 本(290Z、HQ290、XP290N 3 本)、下部 2 本(PCF290ZI、PCF-PQ260L)、ERCP 1 本(JF260V)
- ・2016 年 4 月に始まった松井先生の IBD 専門外来は、2020 年 3 月末までとなりました。

2019 年度を振り返って

- ・健診上部内視鏡の増加に伴い、年間検査数が過去最高の 3 千件越えとなりました。
2008 年 4 月の開所以来、総計 2 万 4 千件を越えています。
関係各位の皆様には大変感謝致します。
- ・胃瘻造設後の転院先で、横行結腸誤穿刺が判明し、開腹手術された方がいらっしゃいました。再発防止のため、以後胃瘻造設は、全例 X 線透視下に行っています。
- ・スタッフ 1 名が、内視鏡技師試験に合格し、認定内視鏡技師は 4 名となりました。

2020 年度に向けて

- ・COVID-19 感染拡大の影響で、不急の検査の先送りや、受診の抑制が続いており、消化管がんの発見遅れが危惧されます(5 月 18 日現在)。
- ・内視鏡センターでは、感染対策を可及的に行い、必要な検査は継続していきます。

診療実績

- ・2019 年度は、3071 件(上部 2601 件、下部 469 件、ERCP 1 件)の内視鏡検査を行い、食道がん 4 例、胃がん 11 例、大腸がん 12 例を発見しました。
- ・治療は、大腸ポリペクトミー 125 件、止血術 11 件、ESD 1 件、PEG 11 件、消化管異物除去などその他 16 件を行いました。胃瘻交換は 69 件施行しました。

職場紹介

1. 職員構成

院長： 井上 裕

部長： 斎藤 純

2019年度を振り返って

本年度の外科スタッフは常勤医2名体制であり、病棟入院患者は5A回復期リハビリ病棟と合わせ常時20名程度が外科常勤医の受け持ち患者である。栄光病院外科は2017年3月をもって手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止した。その後3年が経過し消化器系疾患（急性期疾患および術後リハビリ）および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。

外科診療を充実させるため2019年度に工夫したこと

- 1) 消化器センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。
- 2) 糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティング（年2回）を開催し密な関連を保つとともに患者さんのスムーズな入退院に努めている。
- 3) 2018年4月から患者サポートセンターを設置したが、入退院を一元化することでよりスムーズな診療を行えるようになった。

今後の展望

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 整形外科専門医が不在ななか外科系医師二名で整形外科リハビリ診療を行っているが、整形外科専門医の週3回外来診療と密に連携を取りながら診療を一層充実させていくつもりである。

職場紹介

1. 職員構成

常勤医： 大野 雅治、呉屋 五十二

非常勤医：鶴田 裕子（外来のみ）

2. 診療内容/業務内容

神経疾患（脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など）を中心とした診療、病院の需要に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図・神経伝導検査施行、NST 回診（呉屋医師）、訪問診療（大野医師）

担当病棟：神経難病センター、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟

2019年度を振り返って

4B病棟（神経難病センター）での受け入れは、より神経難病患者に限定的となり、病棟の本来の存在意義に沿うものとなった。一方で稼働率は年度後半で低迷傾向であった。

レスパイト入院の件数は前年度より増加した。

2019年度も回復期リハビリテーション病棟での脳血管障害を診療できる専従医不在の状態が解消されず、主に呉屋医師がこれに携わった。

神経伝導検査・筋電図検査は前年度より増加した。

2020年にむけて

診療の質の向上

4B病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査（特にMRI）や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2019年 年間統計

脳神経内科外来患者数：2591

訪問診療：7件（ALS 1、MSA 3、PSP 1、SCD 1、AD 1）

*ALS：筋萎縮性側索硬化症、MSA：多系統萎縮症、PSP：進行性核上性麻痺

SCD：脊髄小脳変性症、AD：アルツハイマー病

検査件数：CT 313、MRI 187、エコー 128、脳波 30、神経伝導検査・筋電図 32

レスパイト入院：10名、36件

4B病棟稼働率（月別平均、%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
91	93	93	96	94	86	89	92	90	88	83	82	90

職場紹介

1. 職員構成

会長・名誉ホスピス長：	下稲葉 康之	ホスピス医：	福永頼子
副院長・ホスピス主監：	吉田 晋	(同)	牧 誉将(2020.3.31 退職)
ホスピス長：	下稲葉 順一	(同)	吉武 淳(2020.3.31 退職)
ホスピス医長：	柴田 冬樹	(同)	田畑 香(2020.4.1 入職)
在宅ホスピス医長：	渡辺 啓太郎		

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3A病棟24床、3B病棟24床、2C病棟23床 計：71床
入院目的：疼痛などの症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO 法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピスセミナーの開催(年1~2回：医療者・一般の方対象)
栄光ホスピトラ発行(年3回)
栄光ターミナル口腔ケア研修会開催、グリーフカウンセリングなど
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生(医学部クラス)などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
医学部生、ホスピス緩和ケアの研修を希望する医師などを適宜受け入れ
 - 4) 学会活動など
日本死の臨床研究会（九州支部事務局）、
NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会(九州支部事務局)、日本緩和医療学会

2019年度を振り返って

昨年度(2019年度)は、4月より吉武医師を迎えましたが、ホスピス病棟担当医師5名体制(1名欠員状態)は変わらずの年度でした。以下に直近5年間(2015年度~2019年度)のホスピス病棟関連の統計を示させて頂きましたが、昨年度は当院ホスピス病棟が3病棟、71床となって以来、最も入退院患者数が多い年度となりました。しかも、生存退院患者・予定外入院患者の割合がいずれも3割程度と増加しており、その上で平均病床利用率が約90%を維持していたことを考えると、病棟業務が多忙で多様化した年度であったと考えます。その原因の一つは診療報酬において緩和ケア病棟入院料Iの条件をクリアするために、ホスピス病棟においても在宅復帰率が求められたことが考えられます。この在宅復帰患者増加を可能にしたのは、昨年度より渡辺医師が在宅医療センター栄光へ異動

し、在宅ホスピス体制が充実したことがあげられます。また同時にホスピス外来 follow up となっている患者さんが増加したことも、入退院数が増加した要因だと考えます。多忙で多様化する業務において、この一年、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』を込めてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

2020年にむけて

昨年度末で2名の医師が退職しましたが、今年度(2020年度)4月より田畑医師が入職、また吉田医師が再度ホスピス病棟へ配属となりました。1名欠員状態は変わりませんが、何とか患者さん・ご家族また地域のニーズにこれまで同様応えていけるように、『こころ』を込めて励んでいく所存です。

今年度における最大の問題・課題は、新型コロナウイルス感染症対策となるでしょう。感染防止などの安全対策のため、ご家族の面会を制限したり、これまで当たり前に行ってきた病棟行事を中止したりせざるを得ない状況となっています。必要不可欠なこととは理解しつつも、本当に断腸の思いです。患者さんとご家族を『つなぐ』ことに力を注いできた私たちが、『分断』することを余儀なくされているからです。

ただこのような時期だからこそ、栄光病院が長年培ってきた、ホスピスの『こころ』を、『寄り添う力』を発揮すべき時だと思っています。そして、その思いは、患者さん・ご家族に必ず伝わると信じています。

私たち栄光病院ホスピススタッフは、私たちがこれまで大事にしてきた、栄光ホスピスの『こころ』を、栄光ホスピスの『理念』＝『全人的ケア』を再確認し、『感染対策』と『質の高いホスピスケアの提供』という2つの課題にしっかりと対峙していきたいと思っています。

2015～2019年度統計

年度	入院 患者 数	退院 患者数	死亡 退院 患者数	生存 退院 患者数	予約外 入院数	日数別の 退院患者数			平均 病床 利用 率	平均 在院 日数	ホス ピス 相談
						0-30 日	31-60 日	61日 以上			
2015 年度	555 名	563 名	475 名 〈84%〉	88 名 〈16%〉	181 名 〈33%〉	343 名 〈61%〉	115 名 〈20%〉	104 名 〈19%〉	92.0%	42.7 日	612 名
2016 年度	565 名	561 名	483 名 〈86%〉	76 名 〈14%〉	133 名 〈24%〉	323 名 〈57%〉	128 名 〈23%〉	110 名 〈20%〉	92.9%	42.8 日	675 名
2017 年度	583 名	588 名	504 名 〈86%〉	84 名 〈14%〉	149 名 〈26%〉	357 名 〈61%〉	119 名 〈20%〉	112 名 〈19%〉	88.4%	42.8 日	692 名
2018 年度	587 名	585 名	478 名 〈82%〉	107 名 〈18%〉	160 名 〈27%〉	364 名 〈62%〉	124 名 〈21%〉	97 名 〈17%〉	83.6%	37.0 日	667 名
2019 年度	645 名	653 名	481 名 〈74%〉	172 名 〈26%〉	189 名 〈29%〉	405 名 〈62%〉	135 名 〈21%〉	113 名 〈17%〉	89.9%	36.0 日	658 名

『がん治療の過程で切れ間のない緩和ケアの提供のために』

職場紹介

1. 職員構成

医師 3名（内科 1名、脳神経内科 1名、緩和ケア 1名）

看護師 4名（看護師長 1名 副主任 1名 パート 2名）

2. 業務内容

＊訪問診療（内科・神経難病・緩和ケア）

これからの時代は、病気を抱えていても病院だけでなく自宅や施設でも生活できるような地域環境が必要であり、緩和ケアにおいては、栄光病院の在宅医療センター栄光はホスピス病棟もある在宅医療部門であり、がんの症状や精神的苦痛に特化した症状緩和を自宅でも提供できるように設立されている。

また、自宅療養中に入院が必要な体調、精神的苦痛や介護困難になった場合は栄光病院のホスピスも使用できる体制としている。

療養場所の制限がないことは患者・家族にとって重要なことであり、できるだけ地域で暮らすことのできる環境や安心感を提供することに繋がる。

それぞれの職種間の機能の届かないところを患者家族の地域での生活の安心感のために、在宅医療が補完することが重要である。

内科一般及び神経難病患者の訪問診療については、それぞれの担当医師により月1～2回の訪問を行っている。

強化型在宅療養病院として、毎月1回のカンファレンスを旧亀山クリニック（現栄光会ファミリークリニック）、福岡みなと在宅医療クリニックと連携して行っている。

2019年度を振り返って

栄光病院の在宅医療センター栄光：緩和ケアは、1. 緩和ケア病棟の退院支援（当院、他院や他院緩和ケア病棟を含む）、2. がん治療病院の症状緩和や療養について院外に出向いての面談、3. 施設療養の支援を軸に置いた在宅療養を行っている。

ホスピスにおいては、2019年度の新規患者数は99件。往診を含めた自宅訪問数は1053件/年であった。

また、自宅看取りは43件で自宅療養困難で当院ホスピス入院後死亡は51件であった。

在宅医療のみが正解ではなく、病状が厳しく、残された時間が短くても入院することが本人や家族にとって安心できる対応であれば入院も勧めている。

院外へのアプローチは退院前カンファレンスと院外の緩和ケアチームとしてがん治療病院の症状緩和に介入し、2019年度に21件院外で活動している。

また、他の2例の緩和ケア病棟の在宅診療依頼を受け、バックアップベッドは紹介元の病院のまま2例とも自宅看取りとなったが、栄光病院のホスピス病棟だけでなく他の緩和ケア病棟の在宅医療にも

協力している。

神経難病患者に対して自宅療養をサポートする訪問診療は、ご家族の介護負担を考慮し、栄光病院の神経難病センターにケアマネージャーを通して、計画的なレスパイト入院の調整もスムーズである。神経難病は長期にわたり療養が必要となるが、今年度は2名入院後看取りがあった。

一般内科における訪問診療は主に連携先である現栄光会ファミリークリニックより行っている。

2020年にむけて

基本的には2019年度の関わりを継続してゆくこととなるが、がん治療病院の当科の認知度の向上やCOVID19の影響で旅立ちの近い状況でも病院の面会制限もあり自宅療養を望む傾向が強まっており、2020年度開始の4月、5月は訪問、往診件数は120件と過去最高を記録している。また、4月、5月の自宅看取りも16件と去年度を上回っている。

6月も往診依頼のペースは落ちておらず、医療スタッフの疲弊に配慮が必要になっている。

当院はがん治療のすべての場所に関わってきている経験から、がん治療病院、施設、緩和ケア病棟や在宅医療がスムーズに協働しあえるような関係構築の一助になれるように、様々な医療機関にこれからも出向き、相互理解を働きかけていく。

2018～2019年 年間統計

2018年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
訪問件数	25	39	39	41	34	36	43	32	28	25	20	54	416	34.7
往診件数	2	7	13	12	7	8	9	4	7	7	4	12	92	7.7
新規件数	1	3	6	6	4	2	7	3	3	1	2	7	45	3.8
看取り数	0	2	3	4	2	2	3	0	2	3	1	1	23	1.9

2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
訪問件数	86	64	80	105	91	91	92	69	76	91	100	109	1054	87.8
往診件数	34	7	20	23	9	13	18	7	16	16	21	17	201	16.8
新規件数	12	7	10	9	4	9	7	3	9	8	8	7	93	7.8
看取り数	5	1	6	2	3	6	1	3	2	2	6	3	40	3.3

職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、①地域医療②救急医療③ホスピス④健康管理（健診）の4本の柱を掲げてスタートしました。今もこれは変わりませんが、④の健診は開院当時、一般外来の中で行っていました。当時の藤江院長と折田副院長がそれを担っており、様々な健診の基礎を作りました。

平成24年（2012年）ホスピス病棟の増築増床（現2C病棟）に伴ってその一階に新たな健診センターが働きを開始しました。1親切・2快適・3迅速・4正確・5テラーメイド・6安全をキーワードに受診者の数も増加の一途をたどっています。

2. 職員構成

1) 健診運営課

医師：折田 泰彦、川端 隆史

看護師：吉村 敦子(外来所属)

事務：檜山 典子、椎橋 涼子、小納谷 知佳(産後休暇中)、畑田 雅代

2) 健診促進課

事務：高倉 誠一

3. 診療内容／業務内容

健診・ドックは一般健康人が対象です。日本人の死因はがんが30%、動脈硬化（心臓病・脳卒中）が30%を占めています。いずれも無症状で進行しますので、その早期発見と早期治療を目指します。各種がん検診、企業健診などがそうです。時代の要請に応じてドックも各種オプションを備えています。

事務職員は、各種健康組合などとの折衝、各企業への営業、電話での健診の予約、事前のご案内の送付、診察介助、検査の場所へのご案内、健診が終わると検査結果のまとめ、パソコンへの打ち込み、料金の計算・受領、報告書の送付等、多岐に亘る仕事をこなしています。

2019年度を振り返って

「端境期」を埋めるために職員健診をそこに挿入し、最小限の時間と労力で健診を行なおうという、以前からの努力が定着し、健診促進課の営業努力が実り、健診者の数が過去最高になりました。

2020年にむけて

年度初頭から新型コロナの影響で、4・5月は休診となり、深刻な打撃を受けました。6月初頭から、職員と受診者の体温測定・マスク着用、待合室の天窓常時開放、椅子の間隔・隔離、視力・聴力測定時の測定者のフェイスガード着用などを行い、健診終了時及び必要に応じ適宜、機器や椅子のアルコール清拭などを行なっています。

休診の部分を取り返すための努力を関係各課との調整を図りながらやって行く所存です。

2013～2019年度 統計

月別受診者数

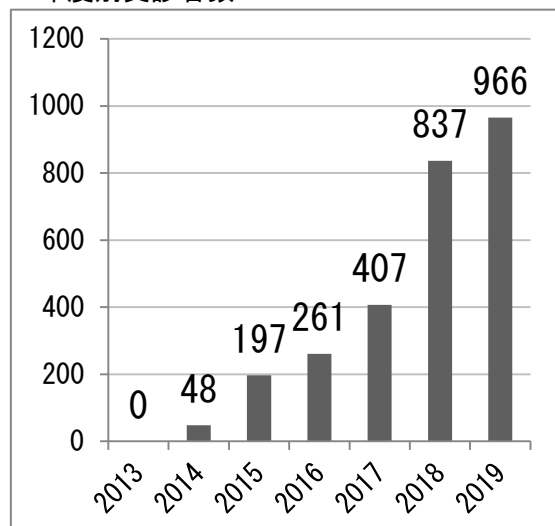
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	61	151	229	183	106	135	261	186	150	157	134	151	1904
2014	96	183	261	211	147	216	249	275	134	145	205	226	2348
2015	167	225	269	259	200	234	338	417	355	228	230	245	3167
2016	200	273	265	236	202	263	325	494	254	194	212	196	3114
2017	269	300	350	303	202	266	329	324	520	223	158	289	3533
2018	233	336	329	338	333	265	613	1022	462	251	209	337	4728
2019	286	332	465	514	448	383	836	1122	444	294	267	335	5726

健診別実績

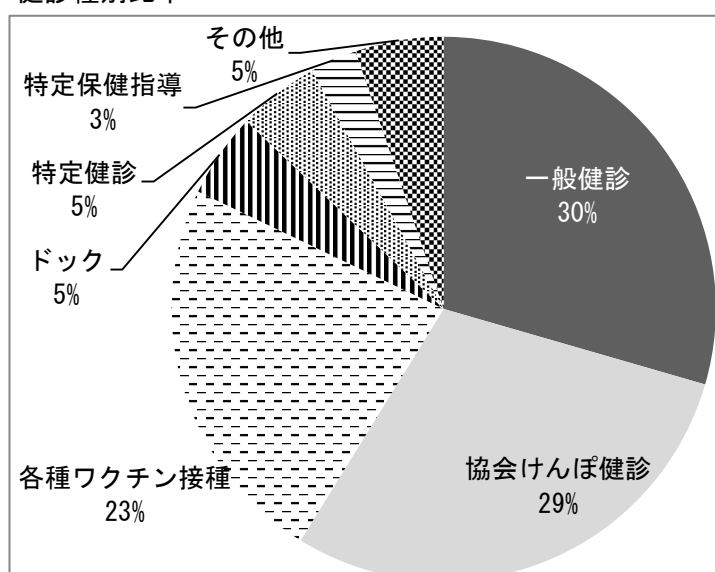
	協会 けんぽ 健診	特定 健診	一般 健診	ドック	各種 がん検診	その他	特定保健 指導	各種 ワクチン 接種
2013	550	231	779	173	133	4	34	0
2014	707	299	937	162	151	2	42	48
2015	1168	279	959	241	219	36	67	198
2016	1126	222	1055	233	44	83	90	261
2017	1273	222	1178	232	37	96	88	407
2018	1474	239	1237	253	34	273	63	1155
2019	1676	278	1684	286	14	300	159	1330

インフルエンザ予防接種（企業）

年度別受診者数



健診種別比率



2019年度 栄光病院 健康教室 実績

実施日 月 日	タイトル	講師	参加者数		
			合計	男性	女性
4	13 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 (ケアビクス普及指導員)	10	3	7
	27 脂質異常症予防食 ～コレステロール値をあげないための食事療法～	管理栄養士 三好 いずみ	11	3	8
5	18 筋肉をつけるお話し ～運動効果を上げる栄養素とは～	理学療法士 楠 壘 管理栄養士 三好 いずみ	10	2	8
	25 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)		停電の為に中止	
6	15 知って納得！備えて安心！介護保険	ケアマネジャー 江頭 晃	7	0	7
	29 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)	7	0	7
7	20 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)	6	0	6
	27 し・め・じ・の心臓だけじゃない 糖尿病の新たな合併症	糖尿病内科医師 豊永 雅恵	12	5	7
8	3 脳卒中と高血圧	薬剤師 野村 扶	10	4	6
	31 『野菜と果物』の重要性とは？	管理栄養士 三好 いずみ	8	2	6
9	7 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)	7	0	7
	28 痛みと超音波エコー検査)	臨床検査技師 松崎 明美	6	1	5
10	12 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)	4	0	4
	19 誤嚥性肺炎ってなあに？ ～「食べる」を楽しむために～	言語聴覚士 八木 智大	3	0	3
11	16 この時期お伝えしたいこと	健診センター医師 川端 隆史	9	1	8
	30 サルコペニア&フレイルを予防して健康寿命をのばそう！	外来 糖尿病チーム 田羽田 裕子 糖尿病療養指導士 桐島 あず香 糖尿病療養指導士	15	2	13
12	14 食事で！認知症予防・改善	管理栄養士 三好 いずみ	9	1	8
	21 いろんなレントゲン装置のお話し	放射線技師 小嶋 健嗣	5	0	5
1	11 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)	8	2	6
2	8 二人に一人ががんになる時代・・・『ホスピス緩和ケアのことを知ろう』	緩和ケア認定看護師 雨森 優子	6	1	5
	29 『骨トレで骨粗しょう症予防』 ～骨を強くするための簡単な運動～	理学療法士 長谷川 裕介		院内感染防止対策の一環として中止	
3	14 ケアビクス♪ ～音楽に合わせて行う有酸素運動～	保健師 藤江 富由美 ケアビクス普及指導員)		同上	
	21 『加齢と病気』	内科専門医 原 一生		同上	

実施回数20回 / 参加延べ人数 153名 (男性27名・女性126名)

診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 4名

調剤助手 2名

2. 業務内容

院内入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する服薬指導

各種委員会等への参画

2019年度を振り返って

2019年2月よりほぼ1年間、3名の薬剤師で業務を行ってきました。その中で調剤助手2名の助けにより効率的で迅速な調剤業務が達成できています。服薬指導や委員会活動などさらに充実した病棟での薬剤師の業務拡大を進めていく必要があり、薬剤師の人員確保とスキルアップが課題となっています。12月からは新しい調剤システム導入により正確かつ効率的になり、病棟活動に時間を費やしやすくなりました。今後さらに電子カルテ導入などオンライン化が望まれます。

2020年にむけて

コロナ禍の中で薬剤課も分散出勤など新たな業務形態で新年度が始まりました。遅ればせながら、外来院外処方箋様式について、処方医薬品名を銘柄指定から一般名処方による記載に変更する準備を進めています。これにより、後発医薬品の使用促進が期待できるほか、医薬分業の推進、わずかではありますが保険点数の加算が見込まれ、一般的になりつつあります。

2019年 年間統計

院内処方箋枚数（内服・外用薬） 平均 2,432 枚／月

注射箋枚数（院内・外来） 平均 558 枚／月

職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2019年度を振り返って

昨年度を振り返ってみると、全体的には2018年度を上回る結果となった。新型コロナウイルスの影響が心配された3月も、MRIとマンモグラフィーの件数減少だけであった。3月のMRI件数の減少に関しては、外部の検査依頼に依存している影響が大きい。今年度は、MRIの外部依存の割合を下げる努力をしたいと思う。マンモグラフィーは、上半期に撮影者が不在だったことと、3月に新型コロナウイルスの為、健診が止まったことが主な原因である。新型コロナウイルスが落ち着いて、健診が通常通り稼働すれば例年通りの数に戻ると考えられる。

2018～2019年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	664	788	708	760	647	642	733	675	726	682	573	583	8181
2019年度	695	718	843	861	820	611	718	761	735	617	507	609	8495

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	299	334	289	314	293	321	311	291	307	280	293	292	3624
2019年度	317	272	312	348	309	283	348	333	293	303	326	307	3751

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	80	111	136	121	80	94	82	81	100	69	71	114	1139
2019年度	80	79	112	109	102	84	98	81	75	79	80	71	1050

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	11	18	29	27	6	19	24	21	24	13	6	6	204
2019年度	12	22	27	30	10	18	20	25	18	9	8	11	210

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	13	17	32	30	19	32	22	24	26	18	16	23	272
2019年度	23	7	0	1	2	28	21	15	31	20	16	13	177

■ 臨床検査室

技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成

臨床検査技師 技師長 今坂 正生 他 4 名
 クラーク 1 名（パート）

2. 業務内容

- 1). 検体検査 血液、尿、糞便等の分析
- 2). 生理検査 心電図、超音波、呼吸機能、脳波、トレッドミル、眼底カメラ、脈波

3. 検査機器

血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、心電計
 24 時間ホルター心電計、トレッドミル、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計
 無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24 時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2019 年度を振り返って

2019 年度は検体検査、生理検査共に件数が増加した。健診の受診者数増加が主な要因と思われる。また、常勤技師 1 名の退職に伴い夜間診療や休日出勤を 3 名で担うこととなり、担当技師は本当にご苦労様でした。来年度は常勤の技師が 1 名増となる予定である。

その他としては、9 月に心電計 3 台を更新、オンライン環境が向上した。1 月には超音波診断装置を 1 台更新した。

2015～2019 年度 統計

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
血液検査	4,026	4,113	3,581	3,976	4,208
尿、便検査	7,268	7,321	7,190	7,987	8,876
生化学・免疫（院内）	7,289	7,350	6,998	7,057	7,317
血液・生化学・免疫（外注）	12,249	11,779	11,596	11,403	12,130
細菌検査	364	352	332	315	257
病理・細胞診	601	511	481	447	372
心電図（負荷含む）	3,487	3,668	3,783	3,981	4,706
ホルター心電図	65	69	38	38	59
肺機能	258	228	213	315	324
腹部エコー	1,433	1,333	1,238	1,337	1366
表在エコー	552	492	437	570	537
心エコー	516	471	360	386	420
脳波	46	33	27	20	37
眼底カメラ	131	129	138	256	297
血圧脈波	88	74	45	142	177
その他	21	29	23	23	14

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也
主任 理学療法士 長谷川裕介 他 理学療法士 11名 作業療法士 12名 言語聴覚士 6名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 整形外科外来診察同行 義肢・装具業者との業務調整
- 4) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施
- 5) 看護部研修講義（移乗・身体介助方法について）
- 6) すこやかライフフェア展示、認知症予防
- 7) 栄光病院健康教室講義
- 8) 志免町委託事業 うきうきルーム出向

2019年度を振り返って

病棟稼働率が高く、それに伴いリハビリの介入量も年間を通じて多く、近年で最も高い実績となりました。本年度より、訪問リハビリの業務を病院スタッフが兼務する体制をスタートさせました。これにより、訪問リハと入院リハの情報共有・業務連携が円滑になりました。今後も、在宅リハ（訪問・通所）との連携を強化していく予定です。
また、リハビリテーションリフトを導入し、重度な後遺障害の患者さまへ安全により積極的なリハビリを提供することができるようになりました。

2019年度 年間統計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	3,643	4,025	3,922	4,222	4,055	3,855
	外来	415	368	490	486	465	513
OT	入院	2,667	2,729	2,763	2,971	2,934	2,794
	外来	67	54	79	70	72	101
ST	入院	1,762	1,780	1,765	1,818	1,714	1,552
	外来	60	56	81	60	37	57

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	4,001	3,829	3,935	3,802	3,640	4,242
	外来	585	558	495	503	415	318
OT	入院	2,847	2,663	2,881	2,725	2,721	2,922
	外来	131	111	69	58	72	72
ST	入院	1,775	1,526	1,650	1,523	1,457	1,690
	外来	74	45	70	54	50	49

■ 栄養管理課

課長代理 馬場 ひとみ

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名

委託側：（日清医療食品株式会社）チーフ 村山 智江

管理栄養士1名 栄養士3名 調理師5名 調理員3名 食器洗浄パート6名

1日実働人数 8～9名

2. 業務内容

1) 給食管理：入院患者、付添食、職員食

2) 栄養管理：入院患者

3) 栄養指導：入院患者、外来患者、特定健診

4) 栄光病院健康教室講義

5) すこやかライフフェア展示

2019年度を振り返って

- ・（病院の食事）盛り付けにも気を配り、視覚でも楽しめる、満足感のある食事の提供に努めた。
- ・（衛生管理）衛生的に安全で、安心できる食事の提供に努めた。マニュアルの見直しや他部署への協力依頼も含め、院内感染防止委員会などにも議題を挙げ、衛生管理の改善が見られたと考えている。
- ・（栄養サポート）入院時の栄養評価、NST回診により、低栄養状態を早期発見・改善し在宅へ導いた。栄養指導、栄養相談の件数は、新型コロナウイルス対策で年度後半は減少したが、年度前半は概ね目標件数を達成した。
- ・（地域活動）健康教室・特定保健指導を行うことで、健康意識の向上、介護予防・健診の重要性を知っていただいた。

2019年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	11012	12037	11461	11693	11077	9992	9751	10225	11286	10698	9849	11142
特別食	2314	2225	1669	1904	2286	2613	2822	2398	2293	2476	2111	2297
合計	13326	14262	13130	13597	13363	12605	12573	12653	13579	13174	11960	13439

栄養指導件数（単位：件）

※入院にはケア病棟の栄養相談を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	9	9	7	13	10	6	10	11	9	6	6	11
外来	28	26	27	35	25	22	29	23	18	21	19	23
糖尿病 透析予防指導	7	7	6	9	10	5	11	4	5	5	6	7
合計	44	42	40	57	45	33	50	38	32	32	31	41

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者さんが安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

室長：的野 修一（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2019年度を振り返って

2019年度は年度初めに作成した年間計画に沿って業務を進めてきたが、今年度はポータブルエコーの老朽化及び故障に伴う廃棄、修理調整、および在宅医療で使用するポータブルエコー（タブレット型）の導入に伴う機種選定から購入までの調整を行った。また今年度は酸素流量計の老朽化に伴いその点検機器を購入、より正確な流量等を測定することが可能となり点検精度を上げることができた。さらに、機器ごとの適正在庫の見直しを行うことで修理を行うもの、廃棄するものの選定を一部行うことができた。

今後もすべての機器について適正在庫の見直しを行っていく。

2020年度にむけて

2020年度は昨年同様年間計画に基づく業務を進めていくことになるが、2年に1回の輸液ポンプをはじめとするポンプ類のバッテリー交換の年となる。使用頻度も高い機器であることから、計画的に交換を行い、今後も各部署に医療機器を安全にタイムリーに供給できるよう、保守点検等の業務を進めていきたいと思う。

看護部

2019年4月1日看護部はそれまで15年間受け継がれてきた「看護部理念」を刷新し、新たな理念のもとスタートを切ることになりました。もちろん元看護部長、前看護部長と受け継がれてきた理念も素晴らしいものでありましたが、私は栄光会看護部がこれから目指してほしい姿を「優」という一字に込めました。「優」は「人」べんに「憂」と書きます。つまり人が憂（悩み、悲しみ、痛み、苦しみ）を背負うとき人は優しくなれるのです。私は栄光会看護部のスタッフには患者さんの「憂」を覚悟を持ってともに背負い、常に寄り添う一人の「人」であってほしいと願っています。そのような思いの中で、2019年度は ①活気ある職場、元気の出る職場づくり。②人財育成と自己啓発の促進。③安全で質の高い看護の提供を目標としました。3つの目標のもと各部署ともそれぞれに目標を設定ししっかり取り組んでもらったと思っています。結果として自己啓発の一環として2018年度から開始したeラーニングの視聴率向上、外部研修参加率の向上等、達成できたものも多くありますが、残念ながら2020年度に持ち越すものもあり、その一つとして今年度も看護要員のうち10%を超える退職者を出したことがあげられます。退職理由は様々ですが、ぜひ栄光会でと入職したスタッフが志半ばで去っていくのは残念であり、申し訳ない思いでいっぱいです。来年度は更にこの離職率が少しでも下がるような取り組みをしていきたいと思っています。最後に一年間それぞれの部署をしっかりとマネジメントしてくれた看護師長をはじめとするリーダー、そしてそれぞれの役割を十分に果たしてくれたスタッフに心から感謝する次第です。

2020年度に向けて

2020年3月、2019年度の終わりに新型コロナウイルス感染症が流行し、2020年度に入ってもまだその影響は多方面に及んでおり、当院でも玄関での来訪者の検温、手指消毒、また入院患者の家族の面会制限等、患者家族に対し申し訳ないという思いの中、コロナウイルスを絶対に院内に入れない取り組みを継続しています。今、日本中、いや世界中の医療従事者が自らの感染リスク、家族への感染リスクという不安を抱えながら、また時には医療従事者への心無い誹謗中傷もある中、それでも自分の手にゆだねられた患者家族のためにと、新型コロナウイルスと戦いながら与えられた業務を全うしようと頑張っています。そんな医療従事者を現場へと駆り立てる原動力は何でしょう、それは間違いなく医療従事者としての「誇り」と「使命感」ではないでしょうか。この状況はまだまだ続いていくはずですが、私たち栄光会看護部も世界中の仲間がともに戦っていることを覚えつつ、「誇り」と「使命感」をもって、栄光会を訪れる患者家族のために頑張っていきたいと思っています。

栄光会看護部 理念

優

～やさしさ～

“人の^{うれい}憂を背負える^{やさ}優しい看護師であれ”

人が^{うれい}憂を背負うと書いて、“^{やさしい}優”と読む。

私たちは、患者さんの“^{うれい}憂”(悩み、悲しみ、痛み、苦しみ)を覚悟を持って共に背負い、常に寄り添う看護師でありたいと思います。

栄光会看護部基本方針

- 1:私たちは、安全、安心、安楽な看護の提供に努めます。
- 2:私たちは、看護の専門性を追求し、知識、技術の向上に努めます。
- 3:私たちは、協調と信頼のもと、チーム医療の推進に努めます。
- 4:私たちは、地域包括ケアに貢献する、看護の提供に努めます。
- 5:私たちは、やりがいを持って、働き続けられる職場づくりに努めます。
- 6:私たちは、組織の一員として、積極的な経営参画に努めます。

2019年4月1日 栄光会 看護部

2019 年度 看護部目標

1:活気ある職場、元気の出る職場作り

- ・ ワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善・業務遂行に取り組む
- ・ 部署間・部署内職員相互のコミュニケーションの円滑化に取り組む

2:人財育成と自己啓発の推進

- ・ e－ラーニング受講率及び院内、院外研修参加率向上に取り組む
- ・ 次を担う看護管理者の育成に取り組む

3：安全で質の高い看護の提供

- ・ 基準・手順・記録の見直しによる、看護の効率化に取り組む
- ・ 患者のニーズに合わせた入退院支援の確立に取り組む

2019 年 4 月 1 日 栄光会 看護部

<2019 年度重点項目>

- 1：管理者研修 ～谷副部長・神信師長・堤師長
師長・主任・副主任 管理者育成
- 2：主任会 ～下稲葉副部長・雨森師長代理・倉田師長代理
師長会の下部組織として
- 3：多様な働き方の検討 ～波多野師長・西尾師長・末永師長
WLB 及び夜勤専従・短時間勤務等の検討
- 4：適正人員配置（コメディカルとの協力）～的野・谷副部長・下稲葉副部長
看護師の負担軽減に係る業務の検討等
- 5：人事考課（部門別資格等級基準）検討・研修 ～関師長・中村師長・鎌倉師長
部門別資格等級基準の見直し等

2019年度看護要員推移

社会医療法人 栄光会 栄光病院 看護部長 的野 修一

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
看護要員数 (月初値)	216	211	212	212	211	215	215
入職者数 (2日～翌月1日)		2	1	4	5	2	2
法人内異動数 (2日～翌月1日)			+1				
退職者数	5	1	2	5	1	2	2

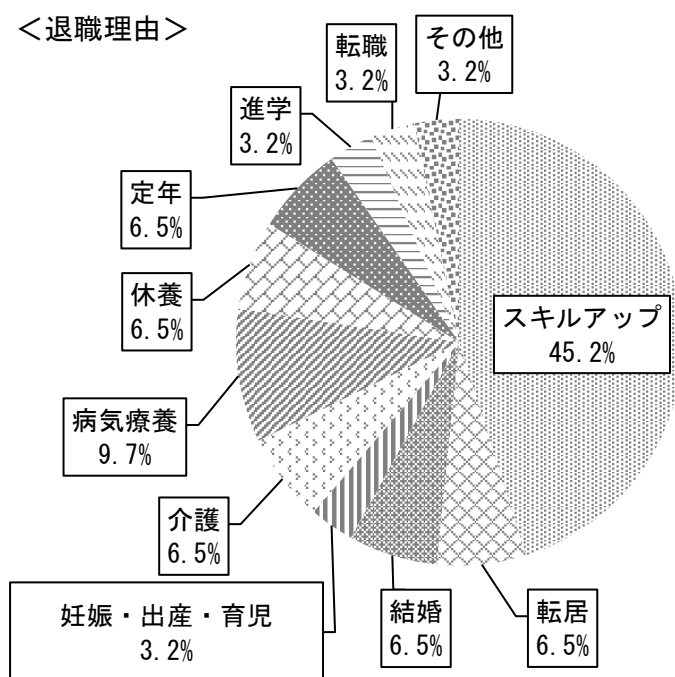
	11月	12月	1月	2月	3月	3月末日の 看護要員数	計
看護要員数 (月初値)	215	215	212	210	209	210 (注2)	
入職者数 (2日～翌月1日)	1	2	3	1	2 (注1)		25
法人内異動数 (2日～翌月1日)			-1				
退職者数	1	5	4	2	1		31

(注1) 2020年 4月1日の入職者は含まれない

(注2) 2020年3月31日の退職者は含まれない

<退職率 16.4 %>

<退職理由>



■ スキルアップ

✕ 転居 2人

■ 結婚 2人

■ 妊娠・出産・育児 1人

・ 介護 2人

■ 病気療養 3人

◇ 休養 2人

■ 定年 2人

＝ 進学 1人

□ 転職 1人

※ その他 1人

職場紹介

1. 職員構成

師長代理: 倉田 正子

主 任: 田羽田 裕子

他看護師 18 名

(うち消化器内視鏡技師 4 名、福岡糖尿病療養指導士 2 名)

ケアワーカー 1 名 クラーク 1 名

2. 診療内容/業務内容

総合診療科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病内科

I B D、ホスピス、消化器外科、肛門科、整形外科、泌尿器科

3. その他の外来部門

中材、消化器内視鏡センター、(健診センター)

2019年度を振り返って

[外来目標]

1. 患者に寄り添った視点での関わりを心掛け、安心・安全な看護を提供する。
2. 入院・外来・地域それぞれを繋ぐ架け橋となる外来看護に努める。
3. 思いやりの心をもって相手を尊重し風通しの良い職場づくりに努める。
4. 業務の効率化と安全性・経済性を考え業務改善に努める。

[行動計画]

- ・インシデント、クレーム発生時は事案の検討会の開催。情報の共有と改善を図る。
- ・朝礼でのスローガンの唱和。
- ・病棟、在宅ステーション、訪問看護、亀山クリニック、有料かめやま、特養ころなど関係各所への申し送りを徹底し、また、必要な情報が得られる様に働きかけ、情報の共有を図る。
- ・お互いに目配り心配りを心掛ける。
- ・京セラチームでチームごとに計画の立案・検討を実施する。

[評価]

検討会の開催は医療安全委員スタッフを中心として行った。検討会に参加出来なかったスタッフへも議事録に目を通す様、担当スタッフが呼びかけを自発的に行い、改善案に関しては各担当チームが主として調整を行った。KYT(危険予知訓練)も下半期は複数回行え、当初は不慣れだったが回数を重ねるうちに段々と活発なものとなっていった。

また各チームが取り組んだオーダリングの掲示板、申し送りメモ、専用ファイルの活用などで情報の共有化が成功し、どのスタッフが対応しても安心した看護の提供、継続看護へと繋げる事が出来る様になった。

連携については、まずは法人内での各勤務帯での受診情報や緊急入院となった旨の患者情報の報告の徹底、退院前カンファレンスへの出席、必要な情報交換を行うことで徐々に連携が浸透してきた。今

後もより良い看護が提供出来る様、お互いの強みを活かし連携を図っていく。

外来は曜日、時間帯、診療科など流動的に業務が集中し、煩雑さに追われるが、そんな中スタッフが各自お互いを気に懸け声掛けを行うことにより、異動してきたスタッフへの指導や、業務多忙時の連携などお互い助け合う場面が増えた。

各チームに関しても自主的にチームカンファレンスをそれぞれが開催し、問題が発生した時点で迅速に検討できたおかげで、安全性、経済性も踏まえた業務改善の具体策を立案し実行にうつすことが出来た。

前年度とメンバーを入れ替えた事により、共有を図りやすい土壌となり伝達共有をチーム間だけではなくスタッフ全員で行う事が出来たのだと思う。次年度は今年度得られた成果を継続出来る様、また新たな課題に向け検討改善に取り組んでいきたい。

職場紹介

1. 職員構成

師長：谷 幸子 主任：松藤 千代

看護師 23名 看護助手 2名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

主として悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者が入院の対象者となる患者とその家族に対し「いのちの質の向上をめざす全人的ケア」をモットーに、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアをめざす

2019年度を振り返って

次のような目標に向けて取り組んできた。

1. ワークライフバランス：業務改善を行い働きやすい環境

- ・日勤最終の看取り・夜勤前準備・申し送りについて業務整理を行った。
- ・夜勤の業務についてのアンケートを実施
- ・夜間緊急入院時のチェックリスト作成した

2. 教育：病棟のeラーニング受講、院内外の研修への参加率アップにむけて取り組み

- ・eラーニング視聴率は5～6月100%以降視聴率は落ちていた。
- ・伝達講習、eラーニングを題材にしたフリートーキングを行った。

3. 看護記録の効率化：記録の見直し、簡略化に向けて取り組む

- ・記録の事例検討、フリートーキングを行い記録の簡素化の意識付けを行った。
- ・入院記録のパソコン入力により、再入院時の記録を減らす事につながった。

4. 入退院支援：他部署と連携を図り患者、家族のニーズ、症状に合わせた療養の選択、提供に努める

- ・ケア病棟の入院基準の学習会を行った。
- ・カンファレンスで退院・今後の方向性についての話し合いが定着できた
- ・在宅に向けてのパンフレット作成

5. ケアの統一：部署間、部署内職員相互のコミュニケーションを図りチームケアに努める

- ・各チームで困っているケア、自信のないケアについて意見収集を行った。
- ・腰痛予防対策、バンテージ手技、褥瘡予防対策、こころのケアシートについて勉強会の実施

2020年度に向けて

1. 在宅

在宅に向けてプロトコルの統一

2. 教育

eラーニングの活用

3. 患者周囲の環境

各月目標を決め、患者周囲の環境整備を図る

4. 病棟の環境

スタッフが過ごしやすく、業務しやすい環境に改善していく

5. こころのケア

来年度もこの職場で働き続けたいと思える環境づくり

年間統計

病棟稼働状況

2019(H31)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数(目標23)	22.3	23.6	22.1	21.9	20.9	21.3	22	24	24.4	23.5	21.5	21.2
稼働率	93%	98%	92%	91%	87%	89%	92%	100%	101%	98%	90%	88%
のべ患者数	669	731	664	678	647	640	682	720	755	727	624	654
平均在院日数	38.4	47.7	35	32.1	24.4	30.2	23.4	83.4	61.9	44.4	36.7	30.1
転・入院患者数(転入数)	17	15(1)	16	24	24	20	30	8(2)	12(1)	16	17	20(2)
退院患者	17	15	21	18	27	20	26	9	12	16	19	20
(うち在宅移行)	4	3	5	2	4	7	5	3	4	5	5	5
在宅移行率	24%	20%	24%	11%	22%	35%	12%	33%	33%	31%	28%	25%
直近1年間平均在宅復帰率	11.5%	12%	13%	12%	14%	15%	16%	18%	21%	23%	25%	25%

訪問診療、訪問看護との連携により在宅での不安が軽減され、在宅で過ごす時間を持つ方が増え、緩和ケア病棟入院料Ⅰの基準である、直近1年間の在宅復帰率が15%以上を達成できた。

3 B病棟

師長代理 雨森 優子

職場紹介

1. 職員構成

看護師：24名（うち緩和ケア認定看護師1名） 看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

3 B病棟のミッションに沿ってがん終末期ケアをおこなう

3 B病棟ミッション

- 1) ホスピス病棟の基本理念（患者とその家族に対し『全人的ケア』をモットーに症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアを目指す）に沿ったケア提供を継続できる
- 2) 個々が経営参画の意識を持ちつつ、質の高いホスピスケアを提供できる
- 3) これまで培われた組織力を次世代に継承できる
- 4) 個々がプロフェッショナルとしてビジョンを持ち、お互い切磋琢磨することができる

2019年度を振り返って

2019年度病棟テーマ：更に育む

2019年度 3 B病棟目標・計画・実際

I. ワークライフバランス（以下、WLB）を充実させて積極的な経営参画に努めることができる

1) 個々のビジョンを支えあえるWLBの推進

- ①「ジョハリの窓」の活用方法を知る。
- ②WLBにエンタメを取り入れて発信。
- ③マグネットホスピタルのためのチーム活動を掲示

スタッフ個々のWLBが確立している中で、互いに刺激し合い、患者家族を巻き込みながら活動ができた。マグネットの様に人がひきつけられる場所として引き続き病棟が発展する活動を継続する

2) 経営改善を視野に入れた業務改善

- ①ホームページ改善についてのアンケートをまとめる。

他施設のホームページとも見比べて改善案を作成する。患者様からも意見を募っていく。

ホームページの進捗状況をスタッフヘフィードバックし引き続き活動する。

実績分析のマニュアルができたことで分析がしやすくなった。

II. 地域包括ケアに貢献できるよう他部署との更なる連携を図ることが出来る

1) スムーズな退院支援・退院調整におけるシステムの構築

- ①在宅プロトコル作成
- ②ホスピスCFで1ヶ月・3ヶ月評価のピックアップ

プロトコルを使用しての改善点がでている。来年度はホスピス3病棟合わせて1つのものを作成していく予定。ホスピスCFの場でNsの立場からの気になる点を積極的に掲げていくことで今後の方向性も見えてくるのではないかと。来年度実施する。

2) 生活の場に関わる部署との連携の強化・拡散

①のみにteaセッション実施。ケアプランサービスについて学び、他部署との連携図る。

②在宅療養資料のファイルの整理継続。退院指導パンフレットの見直し。

他部署との風通しがよくなり継続

Ⅲ. 知識技術の向上を行い安心安全安楽な看護を提供できる

1) 専門的・全人的な質の高いケアを提供できる人材育成の維持・促進

①eラーニング視聴日記掲載開始。毎月1日掲載予定。(eラーニング視聴率向上を目指す)

②ポートフォリオの評価へのアンケート用紙作成、配布予定。ポートフォリオの活用。

③トータルペイン項目カードを用いて診断カンファレンスへの参加継続。

eラーニング視聴の意識付けとなった。

渡辺式家族アセスメントシートの普段使いを今後定着させ、より専門的なケアを目指していく

2) 接遇の向上と倫理感を持った安心、安全、信頼できるケアの提供

①はぐくむ通信の作成・掲示

②5S活動(埃のないクリーンな環境づくり)

業務に活用しやすい内容で職業倫理を養う機会となった。クリーンな環境は継続。

2020年度に向けて

2020年度3B病棟テーマ: development ～育んできたものを発展させよう～

2020年度3B病棟目標

I. 働きやすい職場風土を土台とした積極的な経営参画に努めることができる

1. 働きやすい職場風土の維持・促進(鹿毛チーム)

2. 経営改善を視野に入れた業務改善(松元チーム)

Ⅱ. 他部署との連携力を活かした地域包括ケアシステムの構築

1. スムーズな退院支援・退院調整におけるシステムの発展(星チーム)

2. 他部署との連携力を活かした外出・泊におけるシステムの構築(永松チーム)

Ⅲ. 知識技術の向上を行い安心安全安楽な看護を提供できる

1. 専門的・全人的な質の高いケアを提供できる人材育成の維持・促進(平春チーム)

2. 接遇の向上と倫理感を持った安心、安全、信頼できるケアの提供(白水チーム)

年間統計

3 B病棟直近1年間平均在棟日数（目標30日以内）・直近1年間平均待機期間（目標14日以内）

2019 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均在棟日数	47.4	40.7	33	45.2	44.9	33.5	32.6	37.8	50.8	37.4	31.3	27.4
直近一年在棟日数	46.7	41.3	40.0	40.1	40.6	39.3	38.4	38.2	39.9	40.0	39.2	38.5
平均待機期間	2.4	2.3	2.9	5.4	4.2	2.2	2.6	2.7	4.2	6.0	2	2.4
直近一年待機期間								3.0	3.1	3.2	3.2	3.1

3 B病棟直近1年間在宅復帰率（目標15%以上）

2019 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
退院患者数	13	19	19	10	16	17	19	15	16	18	20	24
在宅退院患者数	4	8	3	3	3	3	6	2	6	2	2	5
在宅復帰率	31%	42%	16%	30%	19%	18%	32%	13%	38%	11%	10%	21%
直近1年 在宅復帰率	22%	22%	21%	22%	20%	21%	23%	24%	25%	25%	23%	23%

職場紹介

1. 職員構成

師長：神信美砂

主任：村勢加寿代

他看護師 2 名

（うち緩和ケア認定看護師 1 名、がん性疼痛認定看護師 1 名）

ケアワーカー 2 名、クランク 1 名

2. 業務内容

栄光病院ホスピスの基本理念である「患者とその家族に対し全人的ケアをモットーに、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアを目指す」に則って、ホスピスケアを提供している

2019 年度を振り返って

病棟目標：退院支援の手順を見直し、安心安全安楽な在宅移行を目指す

在宅復帰率 15% を目標とする

行動計画：①訪問看護ステーションに協力依頼し、1 日研修の同行訪問の実施

②退院支援チームを作り現状の退院支援の課題を抽出し、多職種と情報交換を行い在宅移行に必要な事項をまとめる

③病棟スタッフに退院支援についての学習会を開催し知識の共有をする

④退院支援の手順を作成し、スタッフに説明しながら手順通りに実施する

⑤在宅移行後に退院後カンファレンスの実施で評価する

⑥退院支援チームが在宅復帰する患者の退院に向けて介入していく

⑦退院支援の手順書の評価と修正、課題の検討をする

評価：ホスピス病棟からの在宅復帰率が 2017 年度・2018 年度と上昇していることから、患者・家族が自宅で過ごしたい思いを大切にしたいと考え、2019 年度取り組んだ。病院看取りが当たり前と考えていたため、在宅移行に関する知識や技術はほとんどない中での始まりとなった。しかし、退院支援チームが中心となり、情報発信や積極的なスタッフへのフォローで病棟の中で少しずつ浸透していった。

多職種や他部署との連携、社会資源の活用について今までにない視点でケア介入することのとまどいがあったが、視野が広がったと考える。看取りのケアが続くことでのストレスばかりではなく、自宅退院ができるケアを経験することができてスタッフのモチベーションや、やりがいにつながる事ができた。また、在宅復帰率も直近 1 年 15%以上を維持できており緩和ケア施設基準加算 I を 2019 年 8 月から取得した。

今年度はマニュアル的な見直しが主なことであったため、来年度以降は退院支援の質の向上につながる取り組みが必要である。

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定
看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師： 外科医師 2名（病院長・外科部長） 外科・整形外科他担当
内科医師 3名（内科部長・総合内科部長・糖尿病専門医） 呼吸器・消化器内科他
看護師：22名

師長： 中村 順子

退院支援師長： 末永 より子

主任： 岡崎 祥子

副主任： 藤田 皆奈 ・ 桐島 あす香 ・ 増山 明子

（糖尿病療法指導士2名、災害支援看護師2名）

看護補助者：7名

主任：佐藤 久美

（介護福祉士2名）

病棟クーク：1名

MSW：2名（病棟担当者）

2. 業務内容

住み慣れた地域における生活支援の体制を下支えする3つの受け入れ機能（①急性期からの受け入れ、②在宅や施設で療養している方の緊急時の受け入れ、③自宅等で生活されている方の緊急時の受け入れや糖尿病教育入院等）と、在宅復帰のための心身の準備・回復や在宅サービスの検討等、院内多職種協働・地域内多職種協働による「退院支援機能」を実践することで、地域において、切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2019年度を振り返って

<病棟目標>

I. 地域から選ばれる4A病棟を目指す

①環境整備の徹底

患者様の療養環境を整え、清潔で安全な環境のもと入院中の治療や看護ケアを提供できるようスタッフ全員で取り組んだ。

②面会者が心地よく患者様と過ごせる環境づくり

挨拶を心掛け、面会時に椅子を準備したり処置時間を工夫したり、笑顔を忘れないように心がけ対応することができた。

③患者様が大切にされていると感じて頂けるよう関わる

言葉遣いや対応・傾聴するなど心がけて実行しているが、まだ十分ではないので接遇の意識を向上していく必要がある。

④多職種との連携を密にして協力し合い退院まで導く

セラピストと連携し、退院時の目標設定に向け患者様に応じたADL向上のための病棟リハビリを実践していく事が出来た。また、MSWとの情報交換やカンファレンス、家族会（在宅関連のスタッフ参加）を開催し、各担当者が退院支援に取り組むことができた。

Ⅱ．職員満足度を上げる

①希望者全員がリフレッシュ休暇を取得できる

希望者11名は、休暇（7日～14日）を取得することができた。

②時間外勤務をしない

個人により退社時間に差はあるが、日々の残業として記録類、内服薬の処理、緊急入院の受け入れ対応等で時間外勤務をせざるを得ない状況。残務担当者制度での対応を再検討する。

③お互いの存在を認め合い、フォローし合う

新入職者に声をかける、フォローするように心がけるなど努力をしてきたが、十分ではなかった。スタッフ一人ひとりが、余裕を持てないことが多かった。

Ⅲ．4Aスタッフの一員としての品格を上げる

①私的な話は休憩室で行い、ナースステーションではしない

気を付けてはいるが、時に私的な話をしてしまうことがあり、お互いに業務中であることを意識する

②患者・家族には敬語を使う

T.P.Oに応じた使い分けが必要であるが、十分ではない場面があり基本に戻ることを意識づける必要がある。

③ナースステーション内の声が廊下や病棟に響かないようにする

業務連絡などでつい声が大きくなることも目立った、PHSでの連絡も処置中などで、タイミングよくつながらず、廊下でスタッフを呼ぶ声が聞かれた。

2020年度にむけて

<取り組むべき課題>

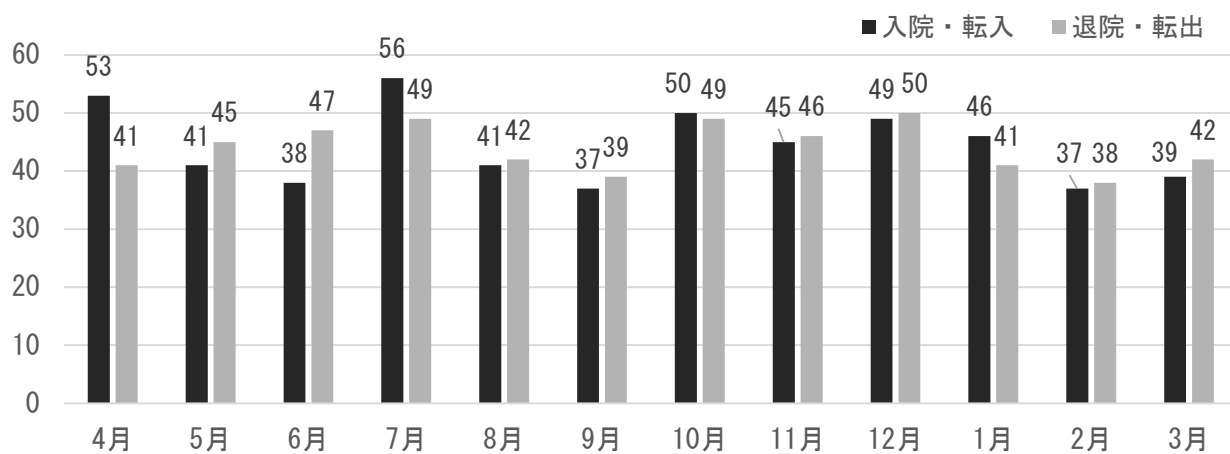
1. 時間外勤務を改善し退社できる職場環境づくり

⇒ 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る

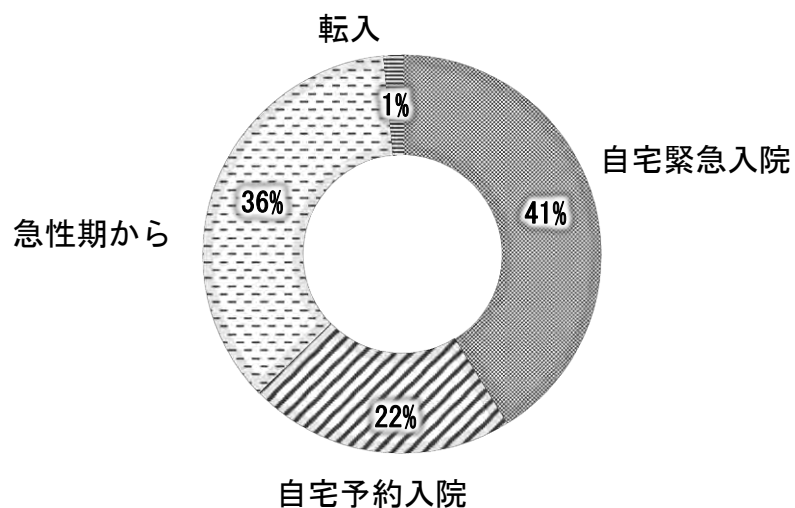
2. 新・退院支援体制の構築

⇒ スタッフ全員で退院支援に関わり選ばれる温かみのある病棟を目指す

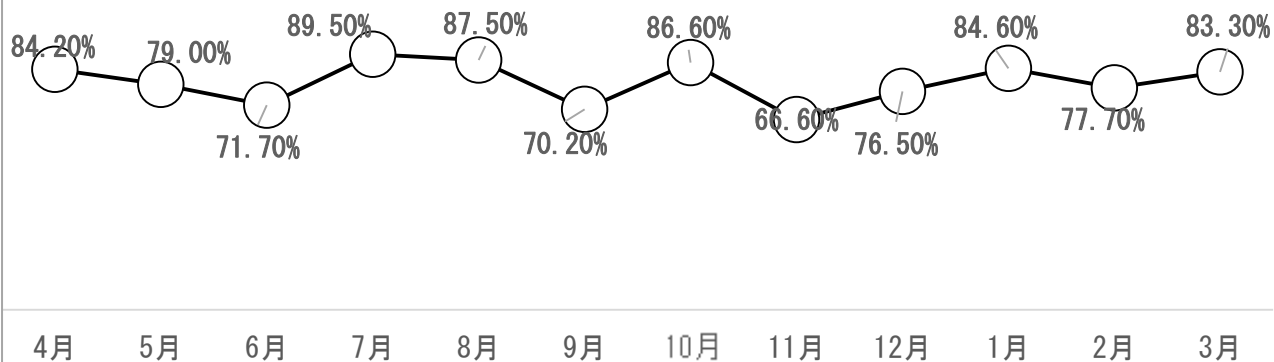
月ごとの入退院数

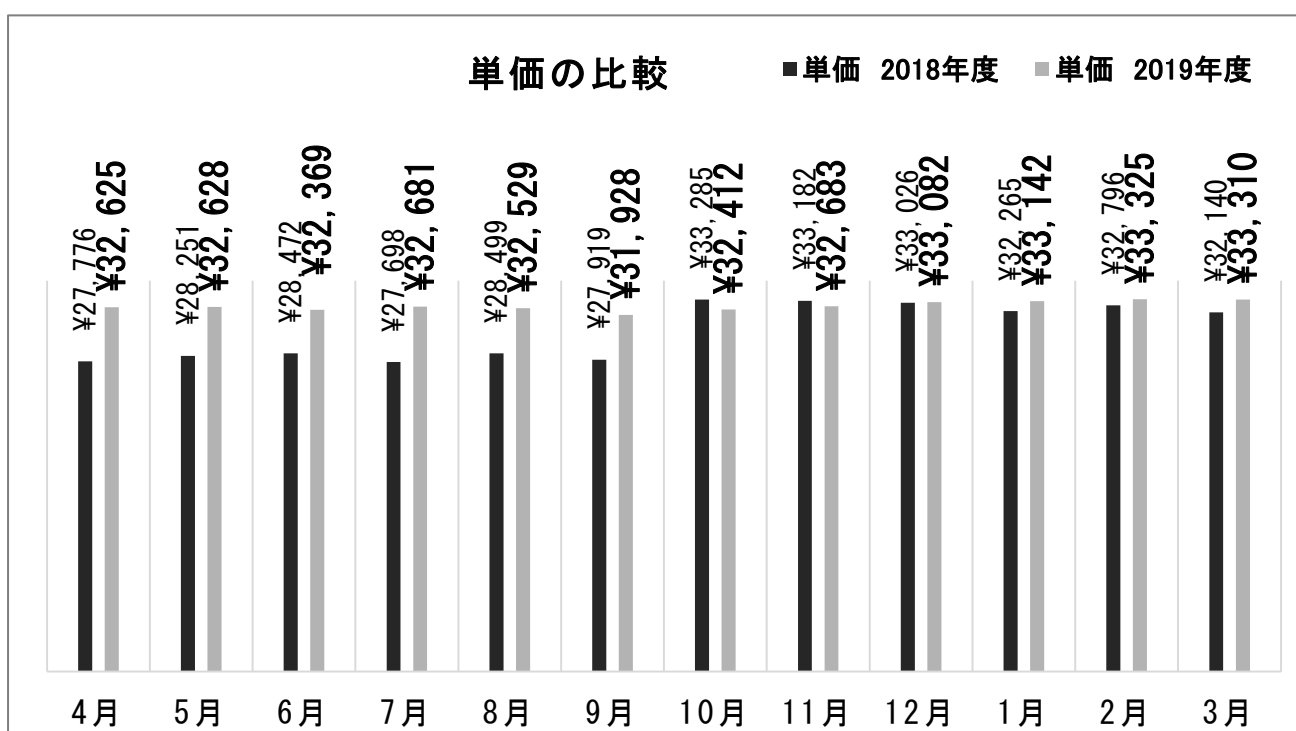
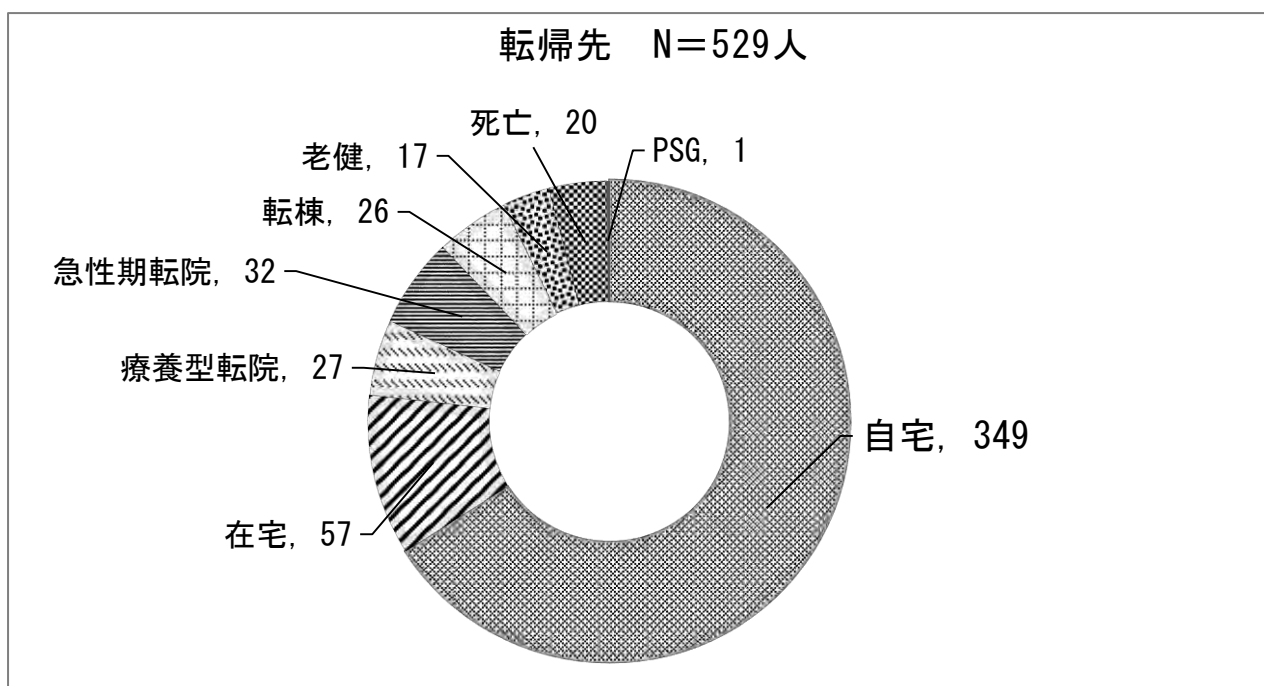


入院の内訳 N=532



在宅復帰率





職場紹介

1. 職員構成

病棟師長：波多野 智子

主 任：石田 美千代

看護師 18名 看護補助者 7名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

<病棟基本方針>

- ①地域の神経難病患者を主として受け入れていきます
- ②入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<入院患者状況>

神経難病患者を主に対象とする病棟。主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、①病状評価のための検査 ②身体機能維持・向上を目指したリハビリ ③症状マネジメント ④合併症治療 ⑤呼吸器装着、胃ろう造設・交換 ⑥レスパイトのための短期入院 ⑦在宅療養指導 ⑧医療依存度の高い患者の長期療養（看取りケア）などへの対応を行っている。

<病床数> 28床

2019年度を振り返って

【病棟目標】大目標：尊厳と安全を大切にするとする部署作りを全員で行う

1. 安心安全な看護の提供

<評価>

インシデントカンファレンス実施方法を検討し、タイムリーに全スタッフが部署内で起こっている事故報告を把握した。さらにSHEL分析・KYT（危険予知訓練）を毎月実施し、自己の看護実践につなげられるよう共有した。褥瘡新規発生数は10件／年であった。全介助レベルの患者が多い部署であるが、きめ細やかな観察と、リハビリスタッフと協力し患者にあったポジショニングや様々な工夫を行い、患者を守り心地よく生活できるケアの充実に努めた。

2. PNS看護体制を活用し、4Bの特徴を活かした看護の提供・業務改善に努める

<評価>

PNS看護体制実施2年目となった。アンケート調査・話し合いを行い、業務の効率性・教育支援・患者ケアへの影響などを検討し、次年度からはPNS体制の一部を活かした変更型の看護体制へ移行することとした。チームの協力と個々の成長がケアの質向上につながるよう検討していったプロセスは貴重なものとなった。

3. チームアプローチの充実

<評価>

内科カンファレンスを活用し、3か月ごと全患者の状況評価・方向性の確認を行った。在宅療養患者の訪問診療・訪問看護、家屋調査への同行を計画していたが、人員不足により一度も実践できなかった。次年度への課題とする。

4. 病棟稼働率93%の達成

<評価>

平均病棟稼働率は90%となった。入退院調整に伴う課題もあり、師長・主任・リハビリスタッフとで他施設（たたらリハビリテーション病院・三野原病院）への見学を行った。療養先の検討・調整で苦慮することもあり、他施設と顔の見える連携を持つことや、他施設の取り組みからヒントを得ることも多かった。

2020年度にむけて

<目指すべき医療・看護>

チームアプローチを基本として、
神経難病及び障害を持つ患者の療養生活におけるQOLの向上を目指す

1. 安心・安全・安楽な医療・看護・介護の提供

- ①神経難病（専門）病棟としてのノウハウの蓄積
- ②京セラチーム活動を通して看護・介護の質向上を目指す
- ③業務改善の推進

2. チームアプローチの充実

- ①クリニカルパスの作成・活用
- ②家屋調査・在宅療養患者の訪問同行

3. 意思決定支援の充実

- ①ACPについての理解を深める（勉強会・フリートーキングの実施）
- ②医療・ケアの希望（急変時対応を含む）についての用紙作成・活用

職場紹介

1. 職員構成

師 長：下稲葉 道一 主 任：古賀 直子
副主任：岩永 郷美 副主任：平山 好恵
看護師 19名（上記含む） ケアワーカー 7名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折術後など患者さんの急性期治療が終わり、リハビリテーションを集中的におこなう病棟となります。

在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供します。

2019年度を振り返って

2019年度よりチーム力を高めるため、病棟スローガン「一致団結」を掲げました。

多職種で連携し「在宅復帰」に向けて各職種の専門性を活かし、効率的なリハビリテーションを提供できるように取り組んで行きました。

病棟目標に Ⅰ. 他部署との連携 Ⅱ. 働きたい職場環境 Ⅲ. 業務効率の向上
を設定しました。

Ⅰ. について

多職種との連携強化のため、病棟専任医師・リハビリ職員・看護師・ケアワーカーで回復期リハミーティングを開始しました。アンケートで検討内容の議題を募り、問題解決や目標達成のために取り組みました。内容は、病棟回診、多職種カンファレンス、認知症患者への対応、食事介助についてなど多岐に渡る議題を話し合い、多くの成果があったと考えます。

しかし、連携不足と感じた部分がありましたが、コミュニケーション不足があり、コミュニケーション向上を次年度の課題にしていきたいと思えます。

Ⅱ. について

前年度、退職者が多かったため目標に設定しました。リフレッシュ休暇の取得促進、有給休暇の取得促進、残業時間の減少等の取組みを行いました。

前年度と比較すると、数値は改善し退職者の数も2名減少する結果となりました。

働きたい職場環境として、更に自己研鑽やモチベーション向上のための取組みを実施していきます。

Ⅲ. について

朝の申し送り廃止を実施しました。朝の多忙な時間を有効に使うことが出来るようになり、始業が

スムーズになりました。

またこの内容を、TQM 院内発表で 3 位の表彰も受けました。

その他の業務改善事項は実施できず、次年度の課題として取り組んで行きます。

2020 年度にむけて

病棟スローガン

『一致団結』

5 A 病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々にあった看護・支援をおこなう
2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効率的なりハビリを提供する

病棟目標

1. 他部署との連携強化：コミュニケーション向上
2. 業務効率の向上

年間統計

	平均病床率	在宅復帰率	重症者	重症者 3 点 以上改善	実績指数
基準値		70%以上	2 割以上	3 割以上	30 以上
2019 年度 実績	93.6%	83.0%	27.8%	56.3%	34.07

医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長 増田 こずえ

主任 上條 憲一 豊福 稔

副主任 森岡 直美

入院担当 2名 外来担当5名 計11名

2. 業務内容

- ・窓口業務
- ・診療報酬請求（作成・点検・総括・請求）
- ・外来：月平均2500件
- ・入院：月平均270件
- ・各種文書受付
- ・未収金管理
- ・他院からの問い合わせの対応等

2019年度を振り返って

■2014年7月より京セラ式病院原価管理手法の導入に伴い、診療報酬請求後のデータを病棟別・診療科別・医師別に集計を行うことを開始し現在も継続している。診療報酬請求後の査定率に関しても、毎月集計を行っている。査定内容については、医局の先生方に報告を行い、部署内でのミーティングや、勉強会を通して把握することに努めた。

■「診療報酬改定に沿った医事知識の習得」 「受付窓口での柔軟な対応」の両立

■未収金については、診療報酬の大きなプラス改定が望めない中、レセプトチェック強化や、コスト削減への注力も、未収金が増加になっては経営に影響を及ぼす可能性がある。

患者さんの背景を考慮しつつ、未収金を増加させないよう、他部署と連携し早期の対応を継続して行った。

2020年度にむけて

■「法人全体の収入増加ならびに患者満足度向上を支援し、法人の必要収益の確保をサポートする」ことを部署のテーマとし努力していきます。

診療情報の精度向上に努め、スタッフ間における情報共有の支援者として
業務の円滑な遂行を図る

職場紹介

1. 職員構成

課長代理 中牟田 美千代
室 員 中畑 順子

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC 退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2019年度を振り返って

本年度も記録の見直しや点検を行い、より正確で内容の充実した診療記録の向上に努めた。

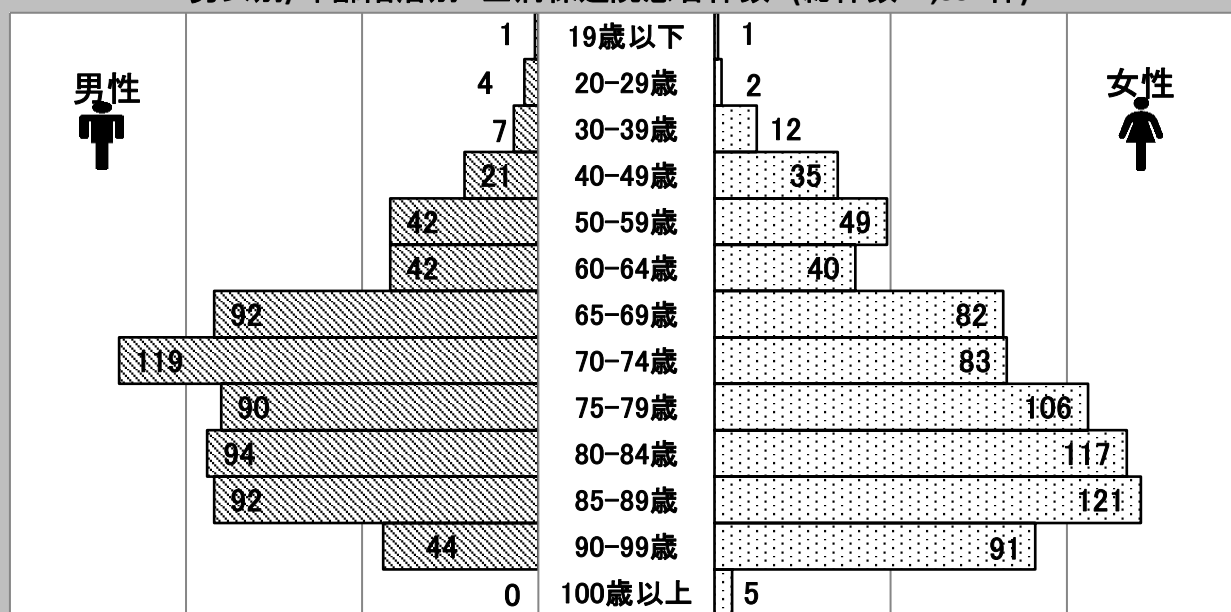
退院14日以内サマリー作成率は、先生方にご尽力いただき毎月90%以上を維持できている。

2016年1月より法制化された全国がん登録は、2018年分まで無事に提出を終えた。

DPC退院患者調査においては、本年度は大きな調査項目の追加・変更は行われなかったが、2020年度は介護情報と連結させるために、新たに生年月日・性別・氏名（カナ）を含む「Kファイル」が追加される。また地域包括ケア病棟入棟/退棟のADLスコアも新規に追加され、要介護度・要介護情報が入力必須となる。DPC退院患者調査は診療報酬改定の検証等に活用されており、毎年調査項目の見直しが行われるが柔軟に対応していきたいと思う。

また今後は、作成だけにとどまらず蓄積したデータを分析し情報提供できるような部署をめざしていきたい。

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数: 1,392件)



地域包括ケア病棟 疾病中分類別・上位疾病別 病名数

番号	順位	分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	インフルエンザ及び肺炎	51	10.1	1,113	21.8	79.9
2	2	糖尿病	37	7.4	582	15.7	64.4
3	3	腸のその他の疾患	34	6.8	438	12.9	75.7
4	4	外的因子による肺疾患	22	4.4	818	37.2	81.3
5	4	筋障害	22	4.4	1,124	51.1	81.2
6	6	脳血管疾患	20	4.0	670	33.5	78.0
7	7	その他の型の心疾患	19	3.8	820	43.2	87.5
8	8	股関節部及び大腿の損傷	18	3.6	825	45.8	85.4
9	9	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	16	3.2	598	37.4	75.3
10	10	内耳疾患	14	2.8	176	12.6	64.8
11	11	食道、胃及び十二指腸の疾患	13	2.6	236	18.2	74.9
12	11	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	13	2.6	558	42.9	79.0
13	13	代謝障害	11	2.2	246	22.4	84.3
14	14	尿路系のその他の疾患	10	2.0	308	30.8	86.4
15	14	胸部＜郭＞損傷	10	2.0	436	43.6	77.9
16	16	挿間性及び発作性障害	9	1.8	27	3.0	64.9

総退院件数：503件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① 錐体外路障害及び異常運動(G20-G26)	計	22	31.4
	男	4	22.2
	女	18	34.6
② 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症(G10-G14)	計	19	27.1
	男	7	38.9
	女	12	23.1
③ 神経系のその他の障害(G90-G99)	計	10	14.3
	男	0	0.0
	女	10	19.2
④ 神経系のその他の変性疾患(G30-G32)	計	3	4.3
	男	0	0.0
	女	3	5.8
⑤ 多発(性)ニューロパチ<シ>ー及びその他の末梢神経の障害(G60-G64)	計	2	2.9
	男	2	11.1
	女	0	0.0

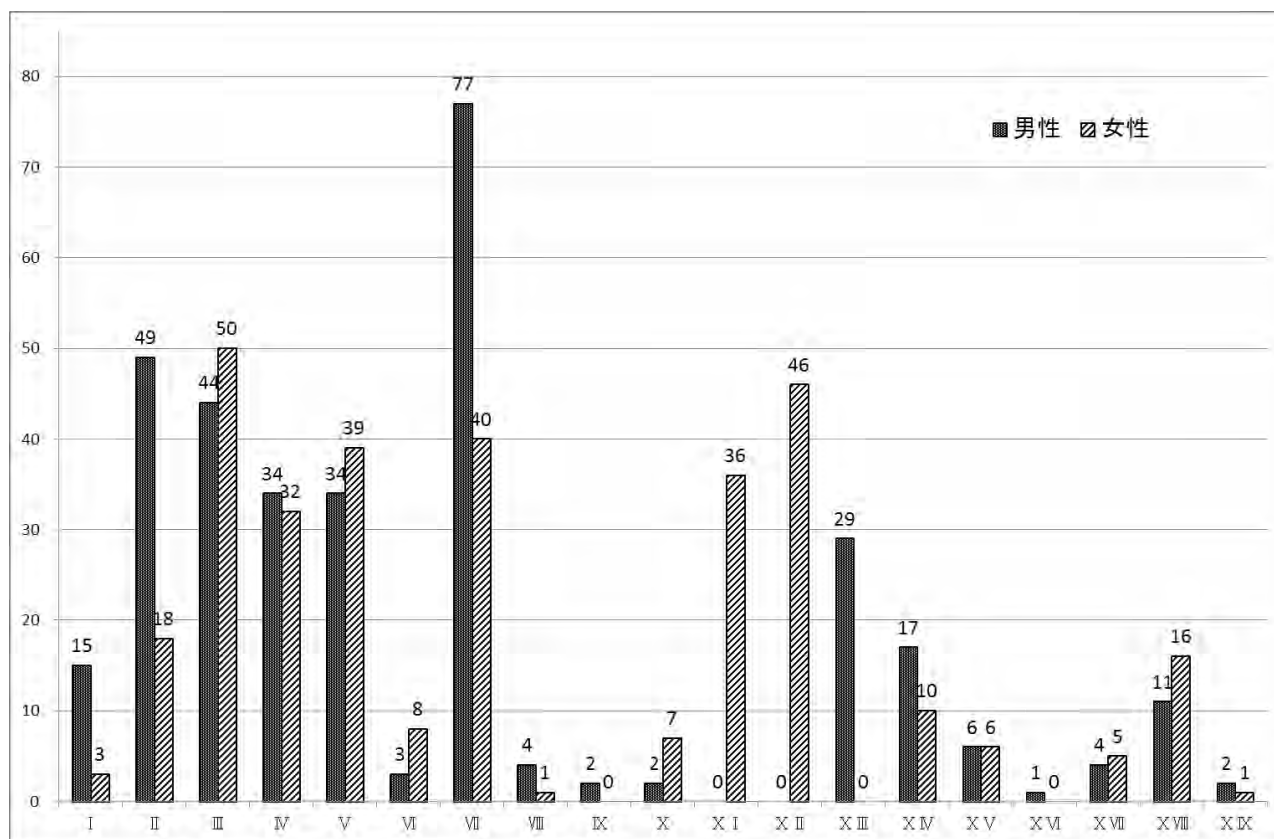
総退院件数	計	70	100.0
	男	18	25.7
	女	52	74.3

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① 脳梗塞(I63)	計	54	32.5
	男	37	42.5
	女	17	21.5
② くも膜下出血(G60)・脳内出血(I61)	計	34	20.5
	男	22	25.3
	女	12	15.2
③ 大腿骨骨折(S72)	計	28	16.9
	男	7	8.0
	女	21	26.6
④ 腰椎及び骨盤の骨折(S32)	計	11	6.6
	男	5	5.7
	女	6	7.6
⑤ 頭蓋内損傷(S06)	計	9	5.4
	男	5	5.7
	女	4	5.1

総退院件数	計	166	100.0
	男	87	52.4
	女	79	47.6

緩和ケア病棟 男女別・悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	口唇・口腔及び咽頭	15	3
II	食道・胃	49	18
III	小腸・結腸・直腸・肛門及び肛門管	44	50
IV	肝・肝内胆管・胆嚢・及び胆道	34	32
V	膵	34	39
VI	鼻腔・中耳・副鼻腔及び喉頭	3	8
VII	気管支・肺・縦隔及び胸膜	77	40
VIII	骨・関節軟骨	4	1
IX	皮膚の悪性黒色腫	2	0
X	中皮及び軟部組織	2	7
X I	乳房	0	36
X II	女性性器	0	46
X III	前立腺	29	0
X IV	腎盂・腎・尿管及び膀胱	17	10
X V	脳	6	6
X VI	甲状腺	1	0
X VII	部位不明確	4	5
X VIII	リンパ組織、造血組織及び関連組織/骨髓異形成症候群	11	16
X IX	その他	2	1

【診療圏別・男女別・退院患者件数】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	648	174	87	15	39	4	7	48	37	116	11	17	3
女	744	194	86	14	55	1	2	34	47	151	16	14	3
計	1,392	368	173	29	94	5	9	82	84	267	27	31	6
構成比(%)	100.0	26.4	12.4	2.1	6.8	0.4	0.6	5.9	6.0	19.2	1.9	2.2	0.4

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	那珂川市	朝倉市	久留米市	柳川市
男	1	4	18	12	1	1	3	12	12	5	2	2	1
女	9	10	23	15	2	—	2	26	6	3	1	2	—
計	10	14	41	27	3	1	5	38	18	8	3	4	1
構成比(%)	0.7	1.0	2.9	1.9	0.2	0.1	0.4	2.7	1.3	0.6	0.2	0.3	0.1

診療圏	八女市	小郡市	うきは市	三潞郡	北九州市	中間市	遠賀郡	飯塚市	嘉麻市	直方市	その他（九州内）	その他（九州外）	不定
男	—	1	—	—	3	—	—	—	—	—	8	3	1
女	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	10	6	—
計	1	2	1	1	5	2	1	1	1	1	18	9	1
構成比(%)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.3	0.6	0.1

亀山クリニック

栄光会こどもクリニック

栄光会訪問看護ステーション

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江 登喜子

医師 吉田 晋(在宅診療)、眞柴 温一(水)

看護師 小林 千恵、久保山 佳子、馬場 恵美子、石井 咲紀

医事課 南里 郁子、齋藤 修、深江 美幸

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科

在宅診療(在宅療養支援診療所)

2019年度を振り返って

以前から亀山クリニックの患者さんの約85%が60歳以上です。最近は、超高齢社会を反映し80歳以上の方が44%、90歳以上が17%と5年前に比べ約10%増加しています。100歳以上の方も数名いらっしゃいます。

一昨年頃より癌を発症される患者さんが多くなり、2019年度に当院で診断し治療のために他医療機関に紹介した方が15名でした。栄光病院と連携して行っているCTやエコー、内視鏡、MRIなどの精密検査を今後も適切なタイミングで患者さんにお勧めする事が重要だと痛感します。

また、訪問診療を希望される患者さんは毎年増加し、2019年度の訪問件数は約220件と5年前より約60件増加しています。そのため午後の診療までにクリニックに戻ることが困難になり3月より外来を午前のみ、午後は訪問診療のみに変更しました。また、2月末で吉田医師が栄光病院の緩和ケア病棟に戻ることとなり青戸理事長が週3回、訪問診療に携わることとなりました。

2020年度に向けて

2-3年前から検討されていた栄光会こどもクリニックとの合併が実現し2020年5月1日から「栄光会ファミリークリニック」として新しい歩みを始めました。

小児科と合併することにより子ども達の親、祖父母世代の方が内科受診を合わせて行うことができるようになり患者さんにとって便利になりました。

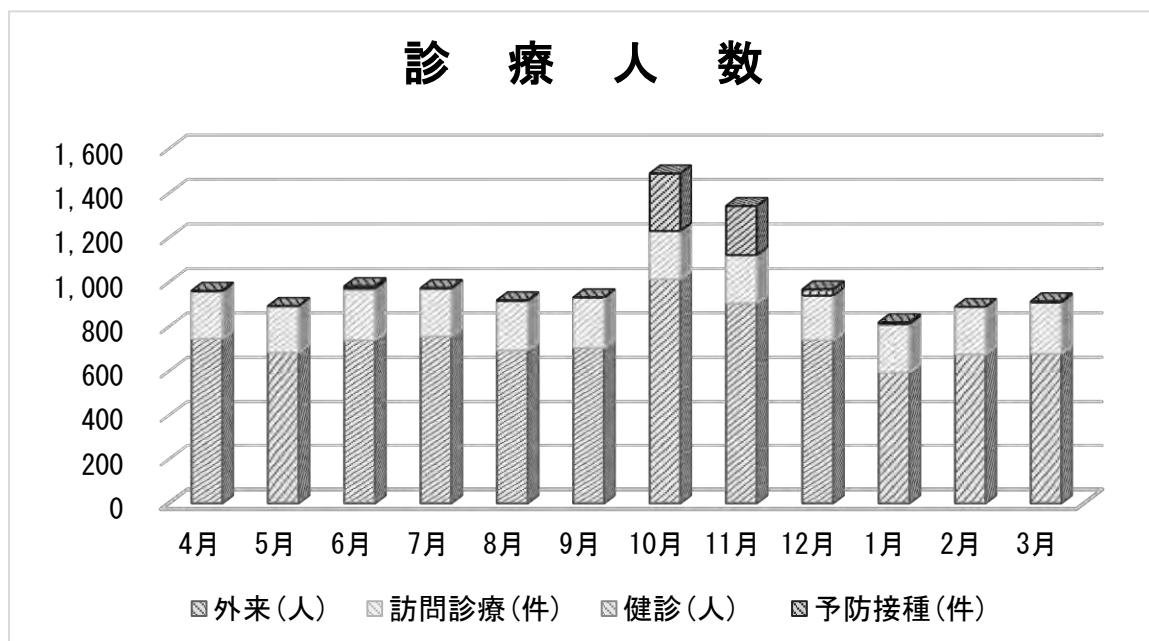
また、当院では生活習慣病などの慢性疾患だけでなく、「肺がん検診」「禁煙外来」「睡眠時無呼吸症候群」「免疫舌下療法」などの診療を行っていることを知って頂けます。特に、祖父母、曾祖父母世代で通院が困難になり困っている方々に当院の「訪問診療」をお勧めすることもできます。

今後も0歳から100歳以上の皆さんの人生その時々必要に寄り添うクリニックを目指したいと思っています。

年間統計

2019 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	745	683	739	757	694	704
訪問診療(件)	214	207	228	212	222	227
健診(人)	0	1	4	2	0	0
予防接種(件)	3	2	11	3	3	1
延べ件数(件)	962	893	982	974	919	932

2019 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	1,013	905	740	594	675	679	8,928	744.0
訪問診療(件)	218	217	200	218	212	230	2,605	217.1
健診(人)	0	0	0	0	1	0	8	0.7
予防接種(件)	258	221	28	8	1	5	544	45.3
延べ件数(件)	1,489	1,343	968	820	889	914	12,085	1007.1



職場紹介

1. 職員構成

院長（小児科医）	田崎英範
看護師長	1名
看護師	2名
医事課	2名

2. 診療科目

小児科

3. 診療時間

（月） 9：00～12：30・14：00～17：00

（火～金） 9：00～12：30・14：00～17：30

（土） 9：00～12：30

午前中の受付は12：00まで

うち（月～金）14：00～15：00は予防接種・健診の時間

休診 日祭日・年末年始・夏季

4. 診療内容

小児一般外来

予防接種（定期・任意）

発達相談

各種健康診断

夜間インフルエンザ予防接種（冬季約8回）

5. クリニック診療外業務

志免西小学校校医	志免西小学校定期健康診断（年2回） 志免西小学校就学前健康診断（年1回） 志免西小学校教諭との会議（年約8回） 教諭対象アナフィラキシーショック講習会（年1回） 保護者対象ミニ講話（年1回）
志免南保育園園医	志免南保育園定期健康診断（年2回）
博多の森保育園園医	博多の森保育園定期健康診断（年2回）
ワンダー保育園園医	ワンダー保育園定期健康診断（年2回）など

志免町1歳半健康診断（年約8回）

粕屋休日診療所出向（年約2回）

福岡市急患センター出向（年約2回）

院長紹介

出身：筑豊地方

大学：大分医科大学（現大分大学医学部）

職歴：大分医科大学付属病院

大分厚生連鶴見病院

国立成育医療センター

飯塚病院

など

資格：日本小児科学会専門医

2019年度を振り返って

1) 亀山クリニックとの合併

2020年5月に志免町別府の亀山クリニック（内科）と合併することが決定し、ソフト面ハード面共に準備を進めてまいりました。合併後の名称は「栄光会ファミリークリニック」（内科・小児科）となります。栄光会ファミリークリニック小児科の詳細は後述します。

2) 新型コロナウイルスの流行

新型コロナウイルスの流行により、当院でも感染予防対策を徹底しました。マスクやフェイスシールドの装着・手洗いの徹底・毎朝の検温・取っ手や椅子など環境の定期的な清拭・定期的な換気、など。2019年度現在では、新型コロナウイルスを疑う症例は経験しませんでした。

3) 任意予防接種の高接種率

スタッフの工夫や努力により、県下トップクラスの任意予防接種の接種率を達成しています。

4) 栄光病院との連携

栄光会こどもクリニックは、栄光病院のサテライトクリニックであることを活かし、医療情報・広報・機材・薬剤・人事などの共有や連携を進め、より安全で効率の良い医療を目指しています。栄光会ファミリークリニックになっても、同様の連携を続けていきます。

5) 風疹ワクチン第5期接種開始

全国的な風疹の流行に伴い、2019年度より、抗体価が低いと考えられる成人男性への風疹ワクチン（実質はMRワクチン）の定期接種が決定し、当院でも抗体検査・ワクチン接種を行ってきました。

栄光会ファミリークリニックの紹介

1. 開院日時 2020年5月7日(木)

2. 職員構成

院長(内科医)	波多江登喜子
副院長(小児科医)	田崎英範
看護師長	1名
看護主任	1名
看護師	5名
医事課	4名

3. 診療科目 内科・呼吸器科・アレルギー科・小児科

4. 場所 (旧) 亀山クリニック：志免町別府二丁目2番1号

5. 診療時間(内科・呼吸器科・アレルギー科)

(月～土) 8:30～12:30

午前中の受付は12:00まで

午後(13:30～17:00)は、訪問診療となっております。

外来診療はありません。

休診 日祭日・年末年始・夏季

診療時間(小児科)

(月・火・木・金) 8:30～12:30・14:00～17:30

(水・土) 8:30～12:30

午前中の受付は12:00まで

うち(月・火・木・金) 14:00～15:00は予防接種・健診の時間

休診 日祭日・年末年始・夏季

6. 小児科診療内容

小児一般外来

予防接種(定期・任意)

発達相談

各種健康診断

夜間インフルエンザ予防接種(冬季約8回)

※小児科診療は引き続き田崎英範(小児科医)が担当します

※内科診療内容は別頁を参照してください

職場紹介

1. 職員構成

管理者（師長） 関 恵美子

看護師 9 名（内 非常勤 1 名）

クラーク 1 名

訪問リハ 亀山クリニック訪問リハ兼務 2 名

病棟兼務 2 名

2. 利用者数

訪問看護ステーション利用者延べ人数 1,258 名（月平均 105 名）

介護保険；58.3 名（平均介護度 2.7 ）医療保険；46.6 名

年間訪問延べ件数；8,185 件（9542 単位） 月平均 682 件（795 単位）

年間新規利用者 113 名（介護 22 名、医療 91 名）

在宅看取り件数 34 名

亀山クリニック訪問リハ 延べ件数 197 件（448 単位）

3. 地域活動

①福岡県訪問看護ステーション連携強化事業のコーディネーター

②志免町地域ケア会議、多職種連携会議への参加

③他の医療機関への積極的な退院前カンファレンス参加

④他の医療機関からの同行訪問受け入れ

（済生会病院, 九州大学医学生, 福岡女学院看護大学, 久留米大学認定看護師養成講習, 福岡県看護協会養成講習会実習等） 福岡女学院看護大学実習受け入れ

2019 年度を振り返って

年間目標

＜地域包括ケアシステムの構築に向け、医療と介護をつなぐ キーパーソナルな役割を担い、多職種と連携しながら地域を支えていく。又、個々のスキル・質の向上に努め、小児から高齢者まで、幅広い年齢層へ対応できる部署となる＞

2019 年度は小児看護の研修や同行訪問を積極的に行い、医療的ケア児の受け入れを実施。また、ホスピスマインドを念頭に、温かいケアの提供を実施した。急変時の早期オンコール対応と在宅医療センターとの連携により、看取り件数の増加に繋がった。

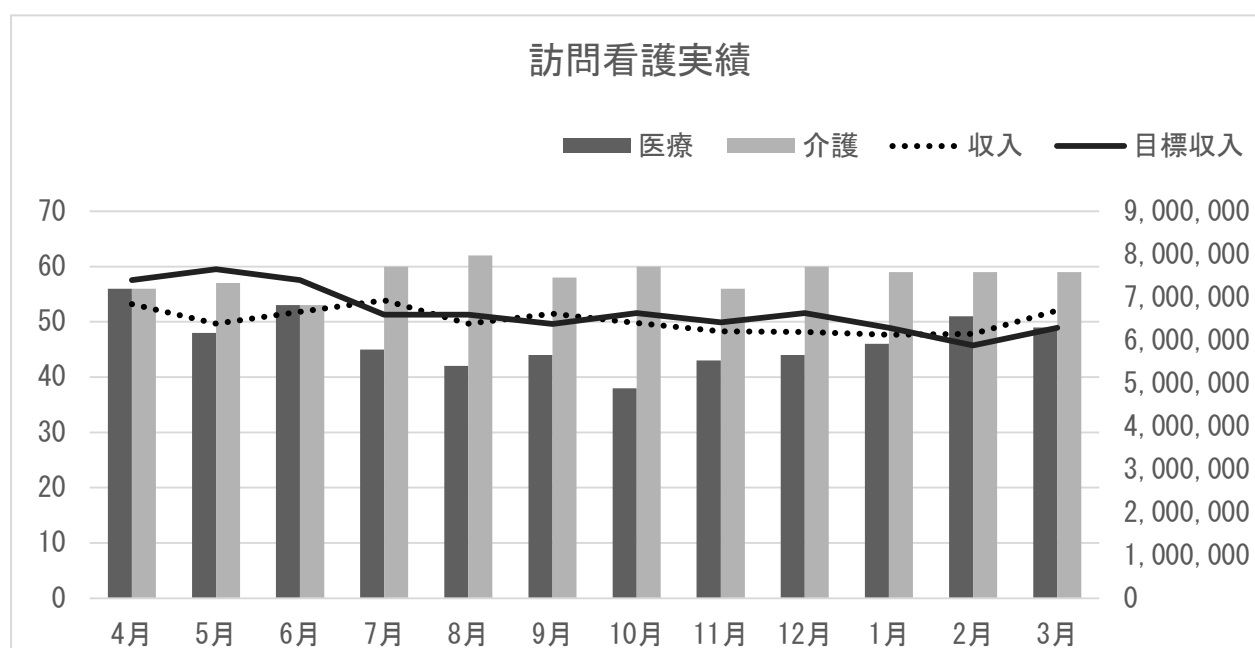
末期がんの利用者が多いのが、栄光会訪問看護ステーションの特色である為、栄光病院のホスピス病棟への研修を実施し、日々の申し送りを密に行い、利用者が安全・安楽に在宅療養が継続できるよう支援した。

必要な人員を確保し、高齢者や小児、癌の終末期の利用者をいつでも受け入れられる体制を作り、訪問看護の依頼をできるだけお断りしない様にと調整を図ってきたが、新規の依頼がかなり多く、一時的に介護保険の利用者をお断りせざるを得ない状況となった。今後も、高齢者社会、癌の発生率増加を鑑み、十分な人員確保は必須と考えている。

2020年度に向けて

1. 栄光会フィロソフィーを実践し、利用者が家族と共に安心して在宅療養が継続できるよう、温かいケアの提供を実践する
2. 法人内外との連携を強化し、高齢者や小児、癌の終末期の利用者をいつでも受け入れられる体制を構築する
3. 個々の目指す方向性や目標を持ち、それに向けて努力する。
4. 職場環境を良くし、チーム力を高める
5. 京セラ原価管理手法に基づき、効率的で質の高い運営を目指す

年間統計



介護事業本部

■ 介護事業本部

本部長 下稲葉 圭一
副本部長 田ノ上 剛

介護事業部 理念

関わる全ての人が癒し癒される介護を実践する

～ Action with passion for mission ～（使命の為に情熱を持って取り組もう）

《基本方針》

- ・利用者一人ひとりに寄り添って、ともに歩むケアを目指します
- ・医療と介護の連携により、日常生活における安心と活力をサポートします
- ・地域のニーズに応え、積極的に地域交流・貢献に努めます
- ・職員が切磋琢磨して、健全な経営を基盤にしたやりがいのある職場を目指します
- ・職員、その家族の物心両面の幸せを追求します

職場紹介

1. 職員構成

介護事業部 職員数 合計70名

《所属部署》

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス、介護事業栄養課、介護事業本部事務

2019年度を振り返って

2018年度事業再編後の年度であった。

2019年度は介護報酬改正など制度の大きな変更はなかったものの、各事業のサービスの質の充実に注力した年度であった。

スタッフの協力により、年度事業収支目標を各部署ほぼ達成する事ができた。

2020年度に向けて

《事業計画》

1. サービスの質を高め、地域に選ばれる事業部を目指す

既存事業の収支目標を達成する

2. 全世代（こどもから高齢者まで）に向けたケア・サービスの充実

栄光会ファミリークリニックとの連携強化

3. 地域ニーズに応える新規事業の計画立案・実行

空きスペースの有効活用

4. 栄光会における介護予防事業の確立

法人内連携強化

計画立案時には予想出来なかった新型コロナウイルスの感染拡大により、事業計画修正や新たなサービス形態の立ち上げが必要となっている。また、経費削減に関する意識を高め、取り組んでいきたい。

職場紹介

1. 職員構成

	資格	勤務形態	
管理者 主任介護支援専門員	介護福祉士	常勤	
主任介護支援専門員	社会福祉士	常勤	
	歯科衛生士	常勤	
介護支援専門員	介護福祉士	常勤	
	介護福祉士	常勤	
主任介護支援専門員	介護福祉士		非常勤
	合計	常勤 5 名	非常勤 1 名

2. 業務内容

契約者が居宅での介護サービスやその他の保健医療サービス、福祉サービスを適切に利用することができるよう

- ・介護にかかわるご相談
 - ・要介護認定申請・更新の手続きの代行
 - ・居宅介護サービス計画（ケアプラン）の作成
 - ・サービス事業者や行政との連絡調整
 - ・施設入所・退所支援
- 等が中心の業務となる。

2019年度を振り返って

医療介護施設かめやまより、栄光病院へ事業所移転し2年目を迎え、栄光会ケアプランサービスの認知度もさらに上がった。今まで以上に法人内部でも医療と介護の連携体制の構築が進み、病院から在宅への繋がりがスムーズにできやすくなってきていることを実感できた1年であった。

2020年度に向けて

今後もコーディネーター的な役割を果たし得て、「地域での連携のハブになれる役割」を担う職種として、法人内部でのケアマネジャーに課される役割を理解し、医療と介護の連携において、生活の全環境に配慮し、要介護高齢者の生活全般の支援する、医療と介護の連携のキーマンとなれるよう努力していきたい。

職場紹介

1. 職員構成

看護師： 常勤 7 名 非常勤 1 名
 ケアワーカー： 常勤 11 名 非常勤 4 名
 支援相談員： 1 名
 介護支援専門員： 1 名
 機能訓練指導員： 非常勤 1 名

2. 業務内容

施設入居者への生活全般に対する支援

2019 年度を振り返って

昨年度と比較すると、看取りの数は若干減少したが、稼働率は平均 10% 程の向上となった。申込者数は常時 10 名以上あり、入居の必要性が高い方から案内しているため、長期間待機とされている方も多い。

年間統計

稼働率

2019 年									2020 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
94.2%	100%	97.3%	93.1%	96.4%	96.5%	95.6%	92.1%	93.2%	96.4%	99.7%	98.7%

看取りの数

2019 年									2020 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0

平均年齢

2019 年									2020 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
88.9	89.1	88.7	88.7	88.7	88.8	88.9	89.4	88.9	88.6	88.9	89.1

■ 栄光会通所リハビリテーション

主任 松岡 康介

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士 3名 作業療法士 2名 リハビリ助手 1名
 看護師 2名 介護福祉士 6名 ヘルパー 1名
 相談員 1名 事務 1名 送迎パート 2名

2. 業務内容

利用者様の送迎、リハビリ 社会参加の支援

2019年度を振り返って

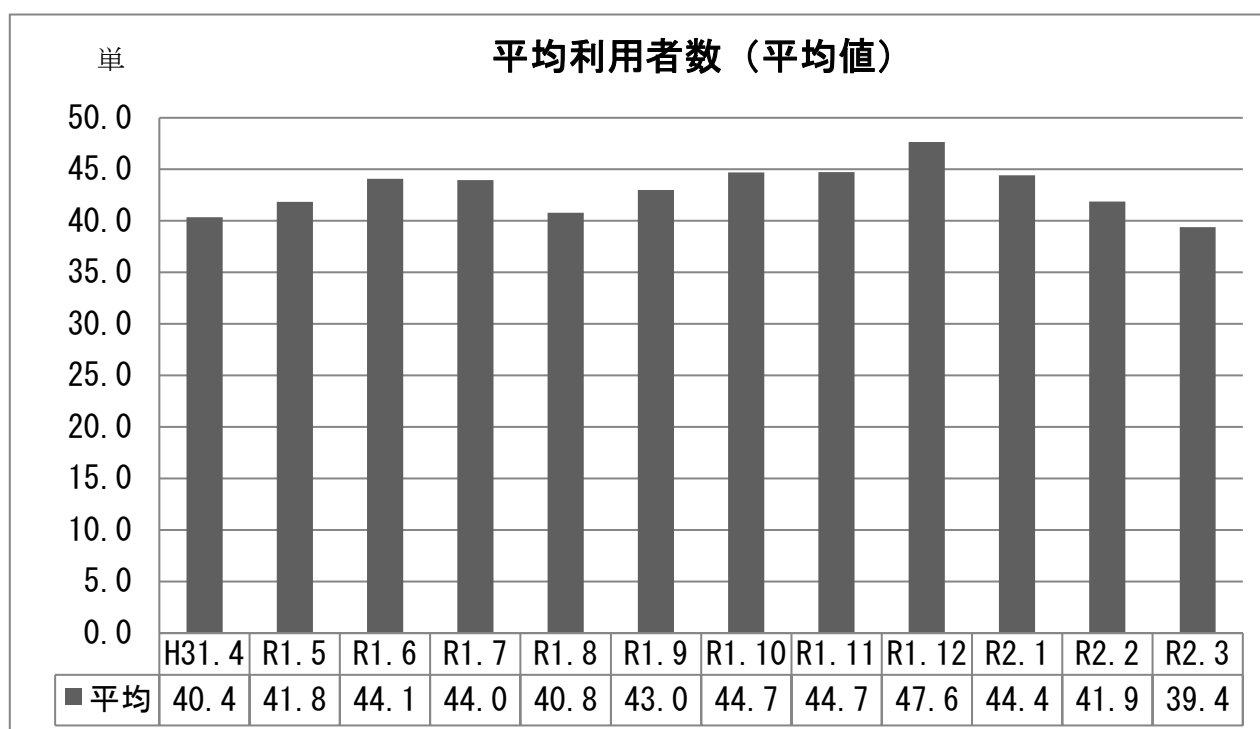
栄光会通所リハビリテーションでは、身体機能のみならず、その方の「生きがい」や「人となり」を大事にし、その方お一人お一人に添ったリハビリを提供しています。

2019年は、栄光会通所リハビリテーションを広く知って頂く機会が増え、当初は一日の平均利用者数40名程度でありましたが、平均50名弱まで多くの方が利用していただく事ができました。

当通所リハビリを利用される方が大変多くなり感謝しています。

しかしながら、次第に新型コロナウイルスの影響を受け2月、3月はご利用を控える方が多くなりました。早期の終息を願いながら利用者さまの安全第一を念頭に置き、感染対策を徹底しより安全に、より親身に、より活動性が保てるよう常時工夫しながら運営しています。

年間統計



職場紹介

1. 職員構成

介護福祉士（常勤専任）	：	2名
介護福祉士（非常勤専任）	：	2名
看護師（常勤兼務）	：	1名
ヘルパー（常勤兼務）	：	1名

2. 業務内容

ご利用者のご自宅に訪問し、生活の介護や身体介護をおこなう。具体的には、料理や掃除・洗濯などの家事全般から日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事や入浴・排泄などの各種身体介助などが中心となる。

2019年度を振り返って

限られた制度の範囲内で、いかにご利用者のニーズに応えるか、試行錯誤の連続であった。そんな中でも、アンケート調査では高評価を頂くことができたが、これに甘んじることなく、今後も研鑽を積み重ねていきたい。

また本年度は、上記業務内容に加え、法人内の他施設（通所リハビリや有料老人ホーム等）のフォローにも力をいれた1年間であった。各スタッフが、部署間の垣根を越えて協力しあえる体制と雰囲気構築できたことは、大きな収穫であった。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1 名 調理員 2 名

委託（日清医療食品株式会社） 調理師 2 名 調理員 1 名

2. 業務内容

献立作成・発注・施設入所者・利用者様食事提供・栄養管理

2019年度を振り返って

入所者・利用者様に栄養のバランスを考慮し、より家庭的な味を心がけ、安心安全な食事の提供を目標に取り組んできました。

行事食は施設側で行う事が多く、入所者・利用者様の意見を取り入れ、一緒に餃子を包み焼いたり、目の前で天ぷらを揚げあつあつを食べていただいたり、大豆から味噌を作ったりと、食を通して癒し癒される時が過ごせたと感じています。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で栄養の重症化を防ぎ個々の食事形態や喫食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等早期に身体状況の変化に気づき改善策を考える様に取り組んでいます。

2020年度にむけて

入所者様には、より家庭的な雰囲気を味わっていただける様に努めていきます。

通所リハビリ利用者様にはリハビリの状況を把握し、フレイル・サルコペニア予防のため、その方にあった栄養量の提供・補助食品の提案を行い、QOLを高めるよう栄養面からも支援できればと思います。

栄光会ファミリークリニックにおいては、生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解してもらい具体的な献立の提案を行う。

タニタ体組成計を用い、見える化による目標を設定し達成を目指す。

地域包括における栄養士の役割として健康教室・うきうきルーム・料理教室等に参加し、最新の栄養情報を伝え、食の支援活動を行う事で地域の健康増進、病気の予防、介護予防の役割をはたしていきます。

伝道部

職場紹介

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

1. 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」

—栄光会創立の精神—

- 1) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「わたしたちの信仰」に基づいてその目的達成につとめる。
- 2) キリスト者スタッフは、
まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、
他のスタッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

2. 伝道部目標

- 1) キリスト信仰に基づく病院理念の啓蒙
- 2) 院内キリスト教行事の充実
- 3) 病院理念に基づく魂の救い

3. 職員構成 チャプレン/グリーフカウンセラー 清田直人

4. 業務内容

- 1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員へのカウンセリング
遺族へのグリーフカウンセリング
- 2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰
- 3) 院内キリスト教行事の執行
- 4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行
- 5) NP0 栄光ホスピスセンター
- 6) 協力牧師会事務局 栄光ひまわり会事務局

2019年度を振り返って

1. 年度年間目標

病院理念に基づく魂のケア

- ・ホスピス病棟増床に伴って特に栄光病院でなされる“よきおとずれ会”参加者の増加を目指す。

2. 行事

- ・機関誌“たんぽぽ” 毎月発行
- ・祈祷会 毎週土曜日 8:00～8:15 栄光の間
- ・よきおとずれ会 毎週火、木、土曜日 9:00～9:30 栄光の間
毎週水曜日 13:30～14:30 多目的ホール
- ・聖日聖餐礼拝 第四日曜日 10:30～11:30 礼拝堂 出席者平均 20 名
 - 4月17日 イースター集会 患者・家族、職員対象
 - 8月26日 みんなの集い 職員対象
 - 9月15日 第55回追悼記念会 2018年10月～2019年3月（遺族対象）
 - 9月25日 召天者墓前記念礼拝 病院納骨堂へ納骨している遺族対象
 - 10月23日 秋の特別讃美集会 患者・家族、職員対象
 - 12月12日 4B病棟クリスマス会
 - 12月13日 いやしの家クリスマス会
 - 12月18日 5A病棟クリスマス会
 - 12月21日 特養こころクリスマス会
 - 12月21日 栄光クリスマス会&キャロリング
 - 12月25日 かめやまクリスマス会
 - 12月25日 ホスピス病棟クリスマス会
 - 12月30日 年末感謝礼拝 職員対象
 - 1月 6日 年頭感謝礼拝 職員対象

その他 院内葬儀 17件（3月31日現在）
納骨式 4件（3月31日現在）
洗礼式 1件（3月31日現在）
結婚式 1件（3月31日現在）

2020年度に向けて

年間聖句：「いつくしみと恵みが、私を追って来るでしょう」（詩篇 23：6）

病院理念に基づく魂の救い

ひとりでも多くの患者・家族・利用者の魂が救われることを祈りつつ病院理念に立脚したケアを提供する。

〇日々、祈りをもって業務に取り組み、神のいつくしみと恵みがあとから追ってくるという約束と希望に感謝しつつ自らの勤めに励む。

地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部長 下稲葉 主一 部長補佐 鷹尾 剛

地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています。

石元課長代理を中心とし、通所リハビリテーションメンバーの皆さん、介護事業部栄養課の皆さん、介護事業部事務の皆さん等、多数の方が協働をして下さいました。

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている仕事として従事する人の不足ゆえの事である。東京一極地集中、核家族・単身家族等、戦後の社会システムを高齢化の中で変化させる局面に入っている。

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をしている皆さまの幸せと幸せな人生最期に貢献する為に協働する仕組みをつくる事にある。

内容

栄光会と地域を繋ぎ、ネットワーク化する中で協働できる仕組みをつくる事

- ①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」と「健康教室」の運営
- ②「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局
- ③「NP0 法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局
- ④志免町内で活動する市民団体との協働

2019年度を振り返って

A 志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」と「健康教室」の運営。

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し、各種講座や運動を行う。

「健康教室」は、通所型で、病気や介護予防を目的に講座や運動を行う。

2019年度も11町内会及び健康課主催のセンターを担当しています。

B 「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局。

2019年度は、別府3町内会主催、志免西・地域協働ネットワーク後援で、認知症の方を対象とし、小学生から高齢者の方が参加した「やさしい声かけ訓練」を実施。今後、全町的活動に拡げる予定。

C 「NP0 法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局。

当活動を通じて、全町的にネットワークの構築が出来てきている。

D 志免町内で活動する市民団体との協働。

特に、「志免マルシェ」を運営する団体の皆さま、「ココからマルシェ」を運営する団体の皆さまには大変お世話になっています。

2020年度に向けて

新型コロナウイルスが蔓延した事により、人々の意識が変わったように感じる。死生観を含め、より本質を考え、意義や価値のある事を行いたいという意識が高まっているように感じる。

地域協働部としては、昨年度までの事業に加え、地域住民の方々に対し、遠隔による見守り活動や、オンライン上での病気や介護予防等の働きを、関係各所の方々と協働でチャレンジしたいと考えている。

年度統計

志免町委託事業 『うきうきルーム』 参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
別府 2	準備月	24	24	20	15	16	11	25	31	11	13	0	190
別府 3		66	66	59	19	66	65	65	64	67	22	0	559
南里 3		28	33	31	32	32	29	32	32	31	30	0	310
志免 5		13	28	29	28	30	28	29	23	9	22	0	239
志免 6		15	29	16	27	17	29	16	34	31	36	0	250
石橋台		16	11	11	17	13	14	12	16	12	0	0	122
向ヶ丘		17	20	17	16	17	19	15	17	14	0	0	152
王子八幡		29	24	32	0	25	26	22	23	32	0	0	213
モントーレ		14	16	13	14	9	12	13	15	11	14	0	131
御手洗		14	14	16	15	9	12	0	13	13	0	0	106
サンリヤン		12	0	8	0	8	0	12	10	0	8	0	58
保健センター		18	16	22	20	10	16	14	11	15	10	0	152
合計		266	281	274	203	252	261	255	289	246	155	0	2482

志免町委託事業 『通所型健康教室』 参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	14	27	24	25	17	16	11	25	27	27	25	0	235

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

主任 （ボランティアコーディネーター） 1名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2019年度を振り返って

定期的に活動してくださる方が増えました。これらの方々の来てくださるタイミングが患者さん、利用者さんや職員にもだんだん知られ、ボランティアの方にとっても、そのサービスを受ける方にとっても、充実した活動がなされるようになりました。それぞれの部署で、積極的に患者さん、利用者さんと関わりをもっていると思います。ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2月23日よりボランティアのみなさんには活動休止をお願いすることとなりました。やさしさ、あたたかさ、爽やかさ、いろいろな空気をボランティアさんが届けてくださっていたことを、コロナ禍にあってあらためて想い、感謝しています。2020年6月現在、法人の決定に従い、建物外の花壇でのボランティア活動のみ再開しています。またボランティアさん全員においでいただける日を心待ちにしています。

年間のボランティア活動

1. 主な活動

1) 生活支援活動

食事に関する支援—お茶パック作り ・ 配茶 ・ 手作りおやつを提供

清潔に関する支援—入浴時の送迎 ・ ビニール袋たたみ ・ おむつの袋詰め

移動に関する支援—催し会場への案内、移動介助

環境整備—いけばな ・ 花の水換え ・ 清掃 （床頭台 ・ キッチン ・ ロビー 等）

2) コミュニケーション、癒し

話し相手 ・ 寄り添い ・ 本の読み聞かせ

有資格者による セラピューティックケア ・ アロマセラピー ・ メイク

3) レクリエーション

フラワーアレンジメント ・ パステル画（カード作成） ・ お抹茶のサービス

オカリナ演奏と歌の会 ・ 三線演奏と歌の会 ・ フルート演奏とセラピューティックケアの癒し

の時間 ・ 音楽とお茶の会 （リハビリテーション課主催）のサポート ・ 認知症ケアサロンのサポート

病棟イベントでの患者さんとの関わり （お花見会・七夕会・お月見会・クリスマス会）

4) 製作、整備活動

介護用品の作成—各種カバー・医療機器携帯用の手提げ袋 ・ ベッド柵装着の整理ポケット
足拭きマット

季節の装飾の作成—折り紙の壁掛け ・ ペーパークラフトの花

器具機材の整備—車椅子

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

2. 行事

ボランティア総会

開 催： 6月12日 （水） 14:00～15:30

議 題： 前年度報告 ・ 今年度計画 ・ ボランティア表彰 ・ 意見交換

出席者： ボランティア 19名

（栄光病院 12名 ・ 医療介護施設かめやま 7名） ・ 職員 13名

年度実績

月	新規登録数	延べ活動 回数	延べ活動 時間
4	0	64	164:45
5	0	55	131:30
6	0	70	170:35
7	2	78	192:05
8	0	47	138:35
9	0	86	201:10
10	1	79	191:30
11	1	72	171:25
12	0	75	187:20
1	1	59	139:10
2	1	48	119:50
3	0	6	3:50
計	6	739	1811:45
月平均		62 回	151 時間

回数	人数
81～100	2
61～80	1
41～60	1
21～40	2
1～20	60

時間数	人数
200 以上	2
101～200	3
51～100	3
11～50	27
1～10	31

本部事務局

職場紹介

1. 職員構成

局長	1 名
局長代理	1 名
課長・課長代理	3 名
主任・副主任	8 名
一般職	6 名
【計】	19 名

2019年度を振り返って

『前年（2018年度）の業績不振が嘘のような、“好業績”の1年であった。』

栄光会は前期、大きな赤字を出しました。その理由は、一つは事業再編に伴う一時的な費用の増大、もう一つは病棟の稼働が一時的に大きく落ち込んだことにありました。この後者の経験を踏まえ、2019年度は年度当初より全部署を挙げて法人経営を意識した部署運営に取り組みました。結果的に、前期の一時的な病棟不振の確たる原因は究明できなかったものの、本年度は期中を通じて高い稼働を維持することが出来、法人創業以来 最高の業績を収めることとなりました。

2020年度に向けて

『前年（2020年度）の好業績が“幻”となりそうな、予測不能の年』

2020年度の好業績は上に述べたとおりですが、その最後の月に僅かな“傷”をつけたのがcoronaでした。3月の傷は幸い“僅か”なものでしたが、時が進むにつれその傷が癒えるどころか次第に大きくなり、早晩 経営の根幹にまで達する可能性が高くなるであろう事は、業種業態を問わずいずれの法人も同じと推察します。

いつか（相当先の事と思いますが、）coronaが収束した後に待っている世界はどのような景色なのか？そこで法人は、個人はどんな生業に努めることになるのか？ 楽しいような、ちょっと怖いような。。。“未来”とは常にかくあるものかな、と改めて感じ入る次第です。

職場紹介

経営管理部とは「京セラ式病院原価管理手法」、「新人事制度」の導入および運用支援を行うために、2013年4月から活動を開始した部署である。

1. 職員構成

本部事務局	事務局長	小池	英臣
	人事課長	近藤	智弘
	副主任	川口	佳代子
	職員	田中	義人
看護部	部長	的野	修一

2. 業務内容

1. MP、毎月の原価管理表作成
2. 全体 Mtg、部署 Mtg 日程調整および運用支援
3. 各部署からの問い合わせ対応
4. 各種課題の部署間調整
5. 新人事制度構築
6. その他

2019年度を振り返って

「京セラ式病院原価管理手法」「新人事制度」の意義、目的については法人全体に浸透しており、十分その役割を果たしているところではあるが、今年度目標とした「すべてのスタッフがこの意義、目的を理解、共有することができる」ことについては、運用開始から6年が経過し、職員の入れ替わりもかなりあることから、特に新入職員に対し「京セラ式病院原価管理手法」、「新人事制度」の意義、目的を周知することの難しさを痛感した一年となった。また、看護部における「教育ラダー」と「ステージ」をどうリンクさせるかを模索してきたが、結論を出すまでには至らず、今後の継続課題となった。

2020年度に向けて

2019年度が終わる3月、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い業務他にかなりの制限が必要となり、「京セラ式病院原価管理手法」「新人事制度」についても「必要収益の確保」に向け新たな形での継続を模索していくこととなる。しかしこういう状況だからこそ職員が一つになれば必ずこの危機を乗り越えていけるものと確信している。

職場紹介

「“経営の羅針盤”となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
内科	1,971	1,919	1,746	1,936	1,854	1,697
外科	346	321	328	381	384	380
循環器科	198	210	202	208	171	159
呼吸器科	229	195	198	229	204	214
整形外科	128	170	158	179	135	108
リハビリ	218	182	250	256	235	275
健診センター	286	332	465	514	448	383
在宅医療センター栄光	86	64	79	105	91	91
その他診療科	57	59	67	49	37	43
〈計〉	3,519	3,452	3,493	3,857	3,559	3,350

診療科	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内科	1,942	1,856	2,102	2,166	1,755	1,654	22,598
外科	340	332	356	263	291	218	3,940
循環器科	201	167	209	169	180	176	2,250
呼吸器科	208	213	221	204	195	195	2,505
整形外科	133	132	140	125	90	131	1,629
リハビリ	299	279	249	249	207	187	2,886
健診センター	※ 836	※ 1,121	※ 444	294	267	335	5,725
在宅医療センター栄光	92	69	76	91	100	109	1,053
その他診療科	※ 376	※ 698	※ 261	36	56	42	1,781
〈計〉	4,427	4,867	4,058	3,597	3,141	3,047	44,367

※予防接種を含む

医業収入

年			2019		2019		2019		2019		2019		2019	
月			4月		5月		6月		7月		8月		9月	
患者数	栄光病院	外来	3,147		3,056		2,949		3,238		3,020		2,876	
		健診センター	286		332		465		514		448		383	
		在宅医療センター栄光	86		64		79		105		91		91	
		訪問看護	838		743		804		854		769		818	
		亀山クリニック	745		683		739		757		694		704	
		こどもクリニック	942		825		948		955		742		856	
		通所リハ	1,020		1,053		1,110		1,197		991		1,082	
棟	・延患者数 ・1日平均	3A	669	22.3	731	23.6	664	22.1	678	21.9	647	20.9	640	21.3
		3B	677	22.6	729	23.5	647	21.6	667	21.5	713	23.0	640	21.3
		2C	617	20.6	687	22.2	646	21.5	629	20.3	677	21.8	625	20.8
		4A	1,274	42.5	1,356	43.7	1,207	40.2	1,378	44.5	1,364	44.0	1,327	44.2
		4B	765	25.5	805	26.0	819	27.3	836	27.0	816	26.3	725	24.2
		5A	990	33.0	1,010	32.6	983	32.8	1,030	33.2	944	30.5	932	31.1
		全院	4,992	166	5,318	172	4,966	166	5,218	168	5,161	166	4,889	163
	・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3A/24	93%	34	98%	30	92%	37	91%	43	87%	51	89%	41
		3B/24	94%	29	98%	35	90%	38	90%	29	96%	31	89%	37
		2C/23	89%	43	96%	31	94%	39	88%	38	95%	32	91%	25
		4A/45	94%	95	97%	86	89%	86	99%	107	98%	85	98%	76
		4B/28	91%	12	93%	11	98%	6	96%	8	94%	19	86%	8
		5A/34	97%	25	96%	33	96%	33	98%	25	90%	28	91%	31
		全院	93%	238	96%	226	93%	239	95%	250	94%	246	92%	218
	有老くかめやま> 35室	%	94%	99%	97%	93%	96%	95%						
その他	・時間外比率	%	24%	29%	21%	15%	20%	22%						
	・死亡退院	人	33	35	48	39	48	36						
	・救急車来院回数	回	16	20	14	20	24	16						

年			2019		2019		2019		2020		2020		2020	
月			10月		11月		12月		1月		2月		3月	
患者数	栄光病院	外来	3,499		3,677		3,538		3,212		2,774		2,603	
		健診センター	836		1,121		444		294		267		335	
		在宅医療センター栄光	92		69		76		91		100		109	
		訪問看護	825		778		777		755		741		840	
		亀山クリニック	1,013		905		724		594		675		679	
		こどもクリニック	1,434		1,695		1,389		762		843		739	
		通所リハ	1,216		1,168		1,198		1,029		1,052		1,032	
棟	・延患者数 ・1日平均	3A	682	22.0	720	24.0	755	24.4	727	23.5	624	21.5	654	21.1
		3B	687	22.2	676	22.5	753	24.3	691	22.3	616	21.2	667	21.5
		2C	647	20.9	622	20.7	709	22.9	646	20.8	535	18.4	590	19.0
		4A	1,265	40.8	1,236	41.2	1,187	38.3	1,249	40.3	1,076	37.1	1,257	40.5
		4B	773	24.9	771	25.7	784	25.3	758	24.5	677	23.3	713	23.0
		5A	1,001	32.3	885	29.5	991	32.0	961	31.0	921	31.8	1,007	32.5
		全院	5,055	163	4,910	164	5,179	167	5,032	162	4,449	153	4,888	158
	・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3A/24	92%	56	100%	17	101%	24	98%	32	90%	35	88%	42
		3B/24	92%	41	94%	35	101%	31	93%	36	89%	38	90%	47
		2C/23	91%	36	90%	49	99%	37	91%	45	80%	40	83%	36
		4A/45	91%	98	92%	92	85%	99	90%	88	82%	75	90%	81
		4B/28	89%	11	92%	17	90%	11	87%	11	83%	17	82%	9
		5A/34	95%	29	87%	25	94%	34	91%	31	93%	25	96%	26
		全院	92%	271	92%	235	94%	236	91%	243	86%	230	89%	241
	有老くかめやま> 35室	%	98%	91%		94%		96%		98%		97%		
その他	・時間外比率	%	20%	21%		30%		37%		21%		16%		
	・死亡退院	人	51	38		36		49		53		44		
	・救急車来院回数	回	15	20		20		23		13		12		

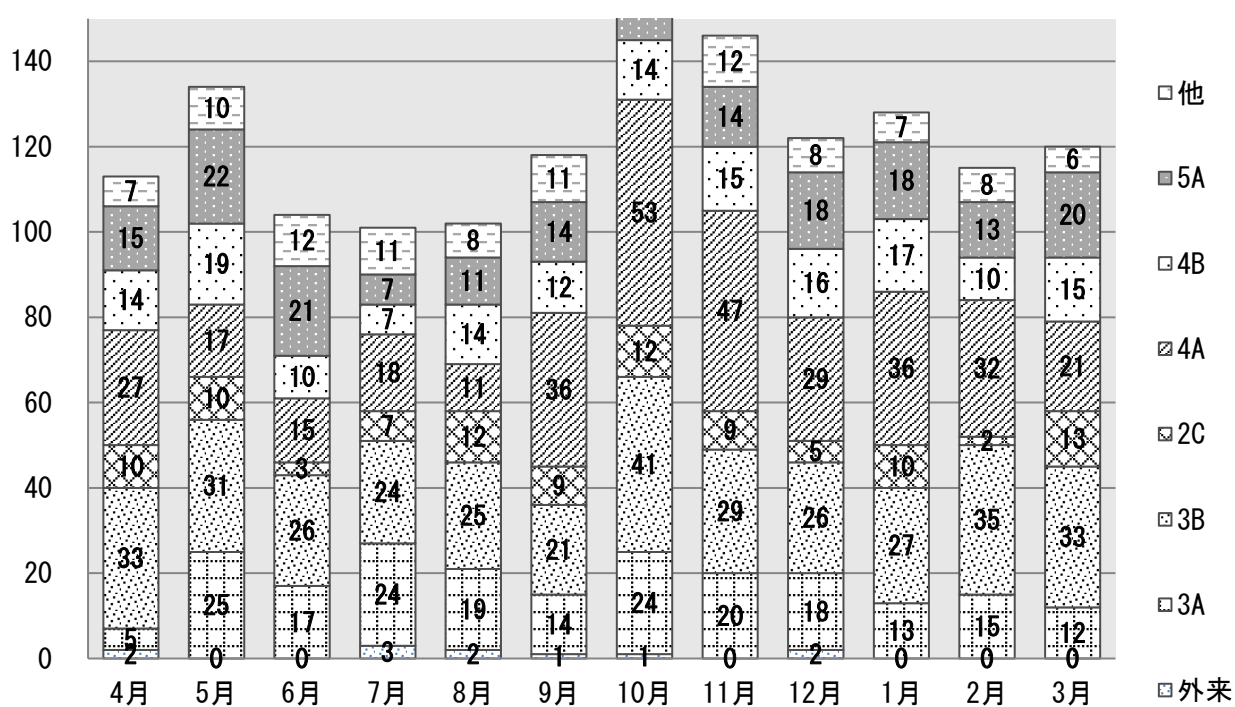
その他

医療安全管理委員会

2019年度インシデント・アクシデント報告年間集計（2019.4.1～2020.3.31）

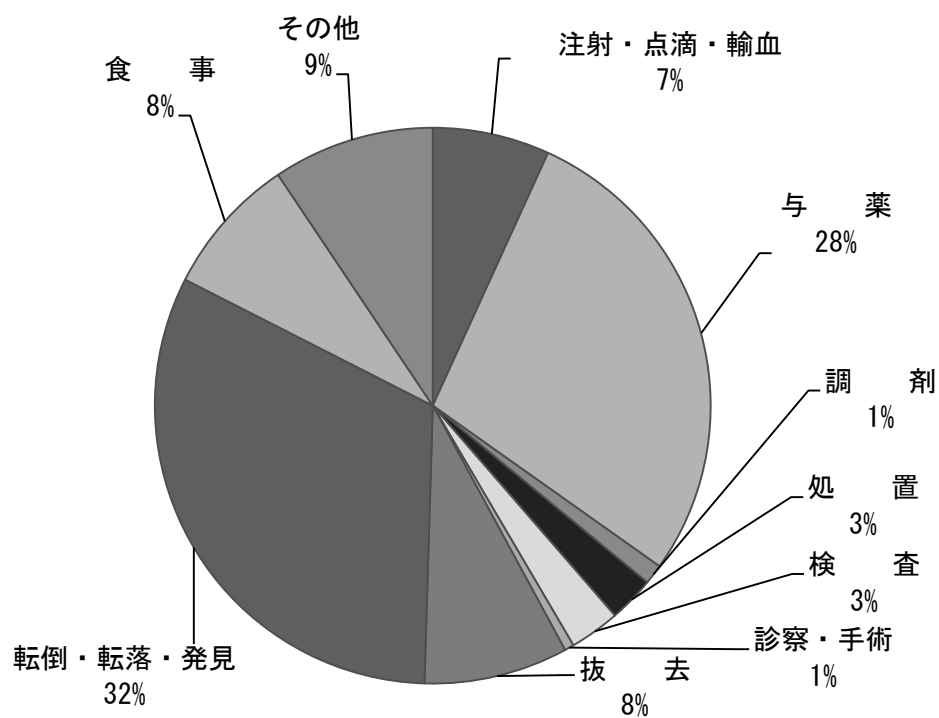
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	2	0	0	3	2	1	1	0	2	0	0	0	11
3A	5	25	17	24	19	14	24	20	18	13	15	12	206
3B	33	31	26	24	25	21	41	29	26	27	35	33	351
2C	10	10	3	7	12	9	12	9	5	10	2	13	102
4A	27	17	15	18	11	36	53	47	29	36	32	21	342
4B	14	19	10	7	14	12	14	15	16	17	10	15	163
5A	15	22	21	7	11	14	12	14	18	18	13	20	185
他	7	10	12	11	8	11	8	12	8	7	8	6	108
計	113	134	104	101	102	118	165	146	122	128	115	120	1,468

2019年度インシデント・アクシデント報告件数年間推移



2019年度インシデント・アクシデント報告内容内訳（2019.4.1～2020.3.31）

	外来	3A	3B	2C	4A	4B	5A	他	合計
注射・点滴・輸血	1	17	25	7	29	15	4	2	100
与薬		70	100	18	124	60	37	2	411
調剤		1	4	2	3	1		6	17
処置	1	8	5		7	13	2	3	39
検査	3	1	7	1	15	1	8	7	43
診察・手術	3				3		1	1	8
抜去		37	45	5	5	11	17	3	123
転倒・転落・発見		65	108	68	105	19	90	15	470
食事			24		12	30	8	45	119
その他	3	7	33	1	39		18	37	138
計	11	206	351	102	342	150	185	121	1,468



研修状況

院内・院外研修状況

■ 2019年度 新入職員研修スケジュール

≪ 新型コロナウイルス感染症対策 対応版 ≫

研修場所 2F 大会議室

4月1日（水）

8:30～ 9:00 開院記念日・入職式＜礼拝堂＞

9:10～ 9:30 井上院長訓辞

9:30～10:00 法人の概況・職員の心構え 小池事務局長

10:00～10:30 人事・労務関係配意事項Ⅰ 川原課長代理

10:40～11:10 人事・労務関係配意事項Ⅱ／「人事制度について」 近藤課長

11:10～11:50 感染管理「院内感染防止対策について」 下稲葉（道）師長・副部長

11:50～12:30 「看護部の紹介」 的野看護部長

13:30～13:40 名札写真撮影（本部事務局内撮影場所）

13:40～14:20 「地域包括ケアについての法人の取り組み」 ～医療看護介護の連携～ 下稲葉（主）本部長

14:30～15:00 「栄光会の医療理念～いのちを支える～」 青戸理事長

15:10～16:10 「栄光ホスピスマインドとその実践」 下稲葉（康）会長

16:30～17:00 人事・労務関係入職時提出書類説明 布川副主任

4月2日（木） 全て中止

4月3日（金）

8:30～ 9:00 永年勤続表彰式＜礼拝堂＞

以下中止

4月4日（土） 全て中止

※資 料 （今回の講義では使用しません）

- ・「医療安全」、「臨床倫理」 吉田副院長
- ・「京セラプロジェクトへの取り組み」 的野部長
- ・「特別養護老人ホーム ころろ」 ご紹介 坂本施設長

第 12 回 T Q M 研究発表会

栄光会第 12 回 T Q M 研究発表会を開催した。目的は、栄光会の患者様・利用者様に対するサービス向上、医療・看護・介護のレベルアップ及び勤務モラル向上を期したもの。栄光会全部署が参画し、病院主催により開催。従来通り、発表内容に対する審査と報奨を検討し、各部署創意工夫を凝らした準備と発表を行った。

司会・進行等：看護部及び本部事務局合同

開催日：2019 年 9 月 28 日（土）14:00～16:00 栄光病院 礼拝堂

発表部署：4 A 病棟・栄養管理課・2 C 病棟・リハビリテーション課・放射線室
特別養護老人ホームこころ・3 B 病棟・有料老人ホームかめやま・5 A 病棟

発表時間等：発表時間 8 分×9 部署 挨拶・講評 20 分 計 120 分

審査員：下稲葉会長・青戸理事長・折田総院長・井上院長・吉田副院長・小池事務局長
後藤事務局長代理・的野看護部長・谷副看護部長・下稲葉副看護部長・下稲葉介護事業本部長
田ノ上介護事業副本部長・坂本施設長 計 13 名

時 間	部 署	テーマ
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:13	① 4 A 病棟	「体交の意識改革」 ～映えるポジショニング～
14:15～14:23	② 栄養管理課	「栄養指導の取り組み」
14:25～14:33	③ 2 C 病棟	「よりよく生きるための退院支援」 ～心から安心して暮らせる場所はどこですか～
14:35～14:43	④ リハビリテーション課	「リハビリテーション課と病棟の連携」
14:45～14:53	⑤ 特養こころ	「『お茶ちょうだ～い』の声が聞こえる」 ～介護環境の工夫と実践～
14:53～15:05	休憩	
15:05～15:13	⑥ 3 B 病棟	「社会的苦痛を抱える患者へのチーム アプローチを通して学んだこと」
15:15～15:23	⑦ 有料老人ホームかめやま	「一人一人に合わせた排泄ケアから コンチネンスケアへ」
15:25～15:33	⑧ 放射線室	「CT プリセットの有効活用」
15:35～15:43	⑨ 5 A 病棟	「朝の申し送り廃止への取り組み」 ～業務の効率化看護ケアの充実に繋げるために～
15:45～16:00	講評	

※なお、審査採点の結果

最優秀賞：特別養護老人ホームこころ

優秀賞： 優秀賞：有料老人ホームかめやま、優秀賞：5 A 病棟 が表彰された

■ 栄光これから研修会

栄光これから研修会 実施状況

月	日	研修会名	講 師	出席者数
5	8	『認知症ケアについて』	大野 脳神経内科部長	102
6	5	『医療ガス用ガスの安全な取り扱いについて』	朝日酸素商会	54
7	3	『医療安全』	鎌倉 副センター長	174
8	7	『臨床倫理』	e-ラーニング	89
9	4	『感染対策』	e-ラーニング	183
12	4	『医療安全』	吉田 副院長	162
1	8	『医薬品の取扱いについて』	野村 薬剤課主任	59
2	5	『感染対策』	安藤 内科部長	129

院内研修会実施状況 -新入職員研修-

4	1	『感染管理』（新入職員研修）	下稲葉（道）師長・副部長	27
---	---	----------------	--------------	----

院内研修会実施状況 -その他-

9/13・1/24	『接遇』	82
3/30	『臨床倫理』	63
10/11	『防災講習』	55
9/13・1/24	『接遇』	82

■ 看護部 院内研修

看護部 教育計画（院内研修）

実施日	モニター担当	研修テーマ	講師
6月12日	2C	浮腫の対応について	2C
7月10日	3A	発達障害の方の対応について	チャプレン
8月14日	3B	ハンドマッサージ	3B
10月 9日	4A	看護必要度	
11月13日	4B	経管栄養の合併症とその対策	ネスレ社
12月18日	5A	看護必要度(テスト)	
1月15日	外来	透析予防指導の改善について	外来
2月12日	2C	ポジショニングについて～実践	創傷委員会 リハビリテーション
3月11日	3A	ハンドマッサージ	3B

師長（管理研修）

実施日	4月22日	6月 3日	7月22日	8月 5日	8月26日	9月30日
	10月28日	11月25日	12月30日	1月27日	3月 2日	(4月 6日)

院外研修・院外発表の状況

2019年4月～6月

部署	日付	主催	テーマ	参加数	参加率
2C	4/20	メディカル情報サービス	退院支援における看護部の役割	1	
Mrs/NA : 25/2	5/25	NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会九州支部	ホスピス・緩和ケアのこころ	1	
				計 2	7 %
3A	6/29	日総研	看護記録の書き方&時間短縮のコツ	1	
				計 1	%
3B	4/20	九州がんセンター 緩和ケア勉強会	終末期がん患者・家族支援 親との死別が避けられない子供を支える	1	
Mrs. 23 名 NA2 名	5/14	博多区医師会	いのちを受け止める町づくり ～在宅・食・栄養～	1	
	5/21	九州心血管カンファレンス、 大塚製薬株式会社	九州心血管カンファレンス ～循環器疾患の地域医療を考える～	1	
	5/25	NPO 法人 日本ホスピス緩和 ケア協会九州支部 2019 年度大会	ホスピス緩和ケアのこころ	1	
	6/13	公益社団法人	正しい知識で感染を防ごう 看護における感染予防の実践	1	
	6/22	大阪府看護協会	「渡辺式」家族看護研究会	1	
	6/26	九州がんセンター	高齢者がん患者への老年医学的アプローチ	1	
				計 5 名	5 %
4A	4/5	福岡県介護支援専門員協会	ケアマネジメントの展開	1	
NS : 25 名	4/12	福岡県介護支援専門員協会	脳血管疾患に関する事例	1	
CW : 6 名	4/19	福岡県介護支援専門員協会	認知症の理解	1	
	4/21	博多トレーニングセンター	心電図セミナーコースⅠ・Ⅱ	1	
	4/26	福岡県介護支援専門員協会	ケアマネジメント（筋・骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例）	1	
	5/10	福岡県介護支援専門員協会	ケアマネジメント（内臓の機能不全に関する事例）	1	
	5/17	福岡県介護支援専門員協会	ケアマネジメント（看取りに関する事例）	1	
	5/24	福岡県介護支援専門員協会	居宅サービス計画総合演習、振り返り	1	
	5/16	日本光電	ベーシックコース心電図	1	
	6/13	公益社団法人福岡県看護協会	正しい知識で感染を防ごう！～看護における感染予防の実践～	1	
	6/14	粕屋糖尿病懇談会	糖尿病網膜症の診断と治療	1	
	6/22	糖尿病セミナー、福岡市医師会、ノボノルディスクファーマ株式会社	インスリンとそれを取り巻くツール	2	
	6/30	日本臨床看護マネジメント学会、ヴェクソンインターナショナル株式会社	2019. 重症度、医療、看護必要度評価者院内指導者研修	1	
	7/18	福岡県看護協会	災害支援ナース養成研修	1	
	7/19	福岡県看護協会	災害支援ナース養成研修	1	
				計 16	5.16%
4B	5/16	日本光電	モニター講習会（ベーシックコース）	1	
看護師	5/23	日本光電	モニター講習会	1	

20 名					
看護助手 7 名	6/11	メディカル情報サービス	医療安全活動とリスクマネジメント	1	
	6/29	日総研	ケアの「実践根拠」を押さえた看護記録の書き方&時間短縮	1	
	3/2	福大	「生の看取り、死の看取り」実践臨床宗教・看取りとメンタルヘルス・緩和ケアと看護	1	
				計 5 名	5. 4%
5A	6/12	看護協会	人工呼吸器に強くなろう	1	
Nrs18 CW7	6/30	ヴェクソンインターナショナル株式会社	重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修	3	
計 25				計 4 名	6. 25%

2019年7月～9月

部署	日付	主催	テーマ	参加数	参加率
2C	7/6	日本死の臨床研究会 九州支部	第 45 回研究集会	1	
Nrs/NA : 25/2	7/10	厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業	H I V 感染症患者地域支援者実地研修	1	
	7/12	福岡県看護協会	最新知識に基づいた褥瘡ケア（基礎編）	2	
	7/13	福岡県看護協会	在宅医療の現場から～切れ目のない看護～	2	
	7/21～23	福岡県看護協会	入退院調整看護師育成研修	1	
	7/27～28	京都大学医学研究科人間健康科学系専攻	看護実践に活かせるスピリチュアルケアセミナー	1	
	7/30	福岡県看護協会	リーダーシップ入門	1	
	8/3	福岡県看護協会	看護倫理～ケアの受け手を支える倫理的関わり～	1	
	8/3	株）ケーブ	C A P E 褥瘡予防ケアセミナー	1	40. 7%
3A	7/12	看護協会	最新知識に基づいた褥瘡ケア（基礎編）	1	
	7/25	モルテン	メディカルケアサポートセミナーIN 福岡	1	
	8/3	看護協会	看護倫理	1	
	9/5	看護協会	家族看護—家族に向き合う力を高めよう	1	%
3B	7/18. 19	日本看護協会	災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基本知識～	1	
Nrs. 23 名 NA2 名	7/19	福岡徳洲会病院	がん患者のこころと身体の痛みを理解する	1	
	7/21	福岡県看護協会	看護師が行う入退院調整	1	
	7/21～23	福岡県看護協会	入退院調整看護師育成コース	2	
	7/25	モルテン	メディカルサポートセミナー 褥瘡対策	1	
	7/27	京都グリーフケア協会	第 5 回グリーフケアシンポジウム 「悲嘆のケア」	1	
	8/24	エムハंक	ナースが行う退院支援と在宅支援	2	
	8/27	福岡県看護協会	排泄を考える看護①～排便障害のケア～	2	
	9/13	九州がんセンター	がん患者と妊孕性について	1	
	9/19. 20	福岡県看護協会	災害支援ナース養成講座（実践編）	1	52%

4 A	7/2	福岡県看護協会	実践に活かす摂食・嚥下障害の理解と看護	1	
NS:24 名 CW:8 名	7/4	メディカル情報サービス	フィジカル所見と画像検査～アセスメントに役立つ画像診断をリンクして解説～	1	
	7/7	雪印ビーンスターク株式会社	災害時に備えた平時からの高齢者の口腔機能管理、要介護高齢者への口腔健康管理	1	
	7/9	武田薬品工業株式会社	効果的な糖尿病療養指導を目指して糖尿病療養指導カードの活用	1	
	7/13	福岡看護協会	在宅医療の現場から～切れ目のない看護～	1	
	7/18	福岡県看護協会	災害支援ナース養成研修	1	
	7/19	福岡県看護協会	災害支援ナース養成研修	1	
	7/25	公益社団法人日本看護協会 神戸研修センター	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	

	7/26	上に同じく	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	7/29	看護協会	不整脈の看護について学ぼう	1	
	8/2	福岡看護協会	フィジカルアセスメントⅠ呼吸・循環のアセスメント	1	
	8/9	福岡看護協会	災害看護研修	1	
	8/22	日本看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2	
	8/23	日本看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2	
	8/24	地域連携センター	臨床看護師（みまもりし）	1	
	8/27	福岡看護協会	排泄を支える看護①～排便障害へのケア～	1	
	7/21～23	福岡看護協会	入退院支援マネジメントを実施する為のアセスメントとスクリーニング	1	
	9/10	メディカル情報サービス	糖尿病患者さんと運動療法～実践と継続のコツ～	2	
	9/11	千鳥橋病院	認知症・せん妄サポートチームの取り組み～認知症ケアの地域連携を考える～	1	
	9/19～20	看護協会	災害支援ナース 実務編	1	
	9/25	メディカル情報サービス	退院支援における看護師の役割	1	
	9/28	地域連携センター	臨床看護師（みまもりし）	1	計 23 名 71.9%
4 B Ns18 名 CW 7 名	7/25	メディカルケア サポートセミナー in 福岡	①医療・福祉機器の（ニガテ）意識をなくすとケアはこう変わる ②実践！傷を減らすケア ③安全な医療安全対策とは パビヨン 24 ガスホール	2	
	7/25	福岡県難病ネットワーク	神経難病患者の口腔ケア 神経難病患者の栄養管理	1	
	9/13	地域交流研修会	安全管理 K Y T	1	
	7/29	看護協会	不整脈の看護について学ぼう	1	
	8/3	同上	看護倫理 ケアの受け手を支える倫理的関わり	1	
	8/10	日総研	看護過程の適切な展開方法と根拠がある指導法	1	
	8/22	看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	8/23	看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	8/10	チーム C E 九州研究会	呼吸療法セミナー	1	
	8/11	チーム C E 九州研究会	呼吸療法セミナー	1	
	8/25	教育促進委員会	家族看護実践セミナー 基礎編	1	
	7/25	看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	7/26	看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	6/30	看護協会	リーダーシップ研修	1	56%

5A	7/1	福岡県看護協会	実践に活かす摂食・嚥下障害の理解と看護	1	
Ns : 17	7/12	福岡県看護協会	最新知識の基づいた褥瘡ケア	1	
CW : 8	7/29	福岡県看護協会	不整脈の看護について学ぼう	1	
	9/30	福岡県看護協会	実践 脳卒中看護の基本	5	61%
外来	7/20		DM	1名	
NS/21	7/21		DM	1名	

CW/1	7/29		不整脈の看護について学ぼう	1名	
	8/3	看護協会	看護倫理	1名	
	8/3		高齢者DM	1名	
	8/9		災害看護	1名	
	8/27	看護協会	排泄を支える看護①	1名	
	9/1		DMセミナー	1名	
	9/5	看護協会	家族看護	1名	
	9/18		DMと運動・食事	2名	
	9/30		脳卒中基礎看護	1名	54.5%
訪看	8/22・23	福岡県看護協会	高齢者の看護実践に必要な知識	1	
	10/26	済生会福岡総合病院	意思決定支援を支える家族ケア	2	

2019年10月～12月

部署	日付	主催	テーマ	参加数	参加率
2C 25/2	10/24	福岡県看護協会	看護記録の本質とは何か	1	3.7%
3B	10/3	福岡県医師会	看護師卒後研修会 ～看護者に必要な医療経営と知識～ 「看護経営」	1	
Nrs. 23 名 NA2 名	10/9	聖マリア病院	特別講演会 「医療界に広がるユマニチュードを語る」	2	
	10/11	福岡県医師会	看護師卒後研修会 ～看護者に必要な医療経営と知識～ 「人材育成」	1	
	10/15	福岡県医師会	看護師卒後研修会 ～看護者に必要な医療経営と知識～ 「人材管理」	1	
	10/24	福岡県看護協会	看護記録の本質とは	1	
	10/25	福岡県看護協会	がん疼痛の看護ケア	2	
	10/26	大分県立看護科学大学	のぞむ最期を支えるケア	1	
	10/29	福岡県看護協会	大人の発達障害への上手なかかわり方	1	
	10/31	福岡県医師会	看護師卒後研修会 ～看護者に必要な医療経営と知識～ 「看護教育」	1	
	10/31	福岡県看護協会	リスクマネジメント	1	
	11/3. 4	日本アロマテラピー学会	学術大会「未来にはばたくアロマテラピー」	1	
	11/3. 4	日本死の臨床研究会	生と死をめぐる葛藤を支える	1	
	11/4	福岡市	ユマニチュード一般講義	1	
	11/15	福岡県徳洲会病院	院内感染	1	

	11/17	日本褥瘡学会	福岡県：在宅褥瘡管理者要請セミナー	1	
	11/19	福岡県看護協会	排泄を支える看護②排尿障害へのケア	2	
	11/21	(株)エクサウィザーズ ユマニチュード事務局	福岡市ユマニチュード入門1日間コース	1	
	11/26	福岡県看護協会	最新の心不全看護	1	
	11/27	福岡県徳洲会病院	感染対策	1	
	12/12	福岡県看護協会	がん化学療法・放射線療法の看護ケア	3	
	10/5	福岡県医師会	看護実践②知っておきたい基本的なフィジカルアセスメント	1	
	10/9	聖マリア病院看護部	聖マリア病院特別講演会 医療界に広がるユマニチュードを語る	1	
	10/12	ジネストマレコッティ研究所日本支部	第85回ユマニチュード入門1日間コース	1	
	10/14	メディカル情報サービス	急性期看護における認知症看護 ～認知症とせん妄の関係～	1	
	10/15	福岡市医師会糖尿病食事療法考える会、MSD 株式会社	ガイドラインのから考える糖尿病の食事療法、糖尿病治療薬の効果と食事療法	1	
	10/22	心臓病看護協会研究所	ハート先生の心電図セミナー初級入門コース	1	
	10/24	福岡看護協会	療養型病院・介護施設の感染対策研修	1	

	11/4	メディカル情報サービス、エムハंक	輸液管理の基礎知識～ショークの輸液から病態別輸液まで～	1	
	11/9	日本認知症学会	認知症ケア学会ブロック大会～認知症とともにによりよく生きる様に向けて～	1	
	11/11	福岡県看護協会	フィジカルアセスメントⅡ事例を用いた緊急時のアセスメント	1	
	11/12	福岡看護協会	フィジカルアセスメントⅡ事例を用いた緊急時のアセスメント	1	
	11/14	福岡看護協会	再診知識に基づいた褥瘡ケア	1	
	11/16	福岡県看護協会	これからの生活を支える地域包括ケア～保険・医療・福祉の連携に向けて～	3	
	11/17	一般社団法人日本褥瘡学会	在宅褥瘡管理者養成セミナー		
	11/26	メディカル情報サービス	ゼロから学ぶ！NPPV	3	
	11/27	福岡県看護協会ナースプラザ	新人教育について	1	
	12/11	メディカル情報サービス	ナースのための実践！血ガス分析	1	
	12/12	メディカル情報サービス	明日から出来る認知症ケア	1	
	12/14	福岡県糖尿病セミナー、福岡市医師会、ノボノディスクファーマー株式会社	第66回福岡糖尿病セミナー「食育」	3	
	12/20	武田薬品	糖尿病患者さんのアドボカシーを考える～スティグマのない社会を目指して～	1	
	12/22	ニュートリー	スキンテア	1	計12名 40%

2020年1月～3月

部署	日付	主催	テーマ	参加数	参加率
4A	1/13	(有)メディカルサービス m hank	人工呼吸器の基礎から観察ポイント	2名	
NS22名	1/16	心臓病看護教育研究会	ハート先生の心電図セミナー上級者編	1名	
CW7名	1/18	福岡県看護協会感染管理委 員会	流行性疾患研修	1名	
	1/18	メディカル情報サービス	退院支援のエッセンス	1名	
	1/19	日総研	退院支援看護師として学び育成する要点	1名	
	1/26	栄光会	医療徒手リンパドレナージ総論	2名	
	2/9	福岡県看護協会	医療安全研修	2名	
	2/20	栄光会	粕屋地区 DM 地域連携セミナー	8名	
	2/21	福岡県看護協会	災害支援ナース フォローアップ研修	2名	
	2/22	(有)メディカルサービス m hank	胸部レントゲンの読み方と実践 血ガス分析	1名	
	2/26	栄光会	医療徒手リンパドレナージ療法	3名	
	3/28	日本医師会 JMAT	JMAT 研修	1名	86.2%
外来	1 / 18		流行性疾患研修	1名	
NS/20	2 / 9	看護協会	医療安全	2名	
CW/1	2 / 15		大腸がんのこともっと知ってほしい	1名	
	2 / 20		第2回粕屋地区糖尿病地域セミナー	1名	42%

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、特別医療法人 栄光会 栄光病院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、当院ホスピス3年間の経験を踏み台とし、さらに多くの方々の現場でのご経験を提供していただき、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み末期がん患者とその家族の生活の質を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会」を設立し、セミナーを開催してまいりました。

	演題 又は テーマ	講師 (敬称略)	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療(ホスピス)に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	37
第4回 89.12.9	ホスピス～全人格的ケア 4つの痛みはどう應えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 －がん患者の心理をめぐって－	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 (医師部会)	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 －どのように告知するか－ がん告知と精神的援助 －どのように援助するか－	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 －死の彼方よりの医療－	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの困難は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川サト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライオン代表幹事	(第16回死の臨床研究会 記念講演会)	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について モルヒネによる疼痛コントロールの実際 －非経口的使用法を中心に－	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって －精神的援助のあり方を考える－	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「ホスピス・ナースの一日」 事例検討	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川サト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川サト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォrmコンセプトとがん告知 がん告知、その理論と実際 がん告知、その精神的援助 がん告知、看護婦の役割 終末期薬剤使用の理論と実際	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長 武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	事例発表	354
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを －コミュニケーションをどのように－ 全人的ホスピスケアの実践	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島美知子 ホスピタリズム中島医院院長		154
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて ホスピスに生きて20年	迎 恵子 テレビ西日本報道部 チーフマネージャー・ディレクター 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおけるブラザリナシグ 症例発表－ブラザリナシグの関わり－	大内 裕子 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう －モルヒネ使用の理論と実際－	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 －全人的理解・全人的ケア－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	症例発表	184
第32回 96. 5. 18	死を生きる －ホスピスケアに従事して－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 河野 博臣 河野胃腸科外科医院院長	栄光病院開院10周年記念	399
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 浜口 至 北九州がんを語る会 代表 阿蘇品スミ子 久留米大学医学部 看護学科助教授 森山 健也 栄光病院協力牧師 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士		325
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピス－看取りを通して－ 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取り－訪問看護の実践から－	海尾 弘 栄光病院在宅看護士長 青戸 雄司 栄光病院内科部長 紅林 みつ子 訪問看護婦		256
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ターミナルにおけるコミュニケーション	山田 由香里 福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦 青木 福代 トータル・カンセリング・スクールセミナー講師	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部 死にゆく人への心のケア 藤江 良郎 栄光病院理事長 森山 健也 栄光病院協力牧師 第二部 家族の悩み・家族への援助 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 池田 典子 患者家族 熊谷真実・松田美由紀 女優	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子 死生学者・作家 高宮 有介 昭和大学病院医師		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	日野原重明 聖路加国際病院・理事長		377
第41回 99. 3. 13	家族への援助－家族に聞く－ 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 協力牧師 広瀬 典子 総婦長 青戸 雄司 内科部長 後藤 隆子 緩和ケア病棟婦長 平井 美幸 医療ソーシャルワーカー 松山やよい 患者家族 佐伯 洋文 患者家族		99
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 朔 元則 九州医療センター外科部長 中村 浩子 患者家族 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士 森山 健也 香椎バプテスト教会牧師		132
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 吉田 晋 栄光病院緩和ケア病棟医師 堺 千代 栄光病院緩和ケア病棟婦長		132
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事 崎田 雅子 ケア訪問看護ステーション訪問看護婦 荒瀬 泰子 福岡市保健福祉局高齢者部長		163

第45回 00.05.13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00.09.01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01.03.10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01.6.16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01.10.27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 Susan Lee 栄光病院ホスピス長		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02.03.02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事長		1950
第51回 02.06.08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03.01.18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのち支えて」 講演「海外看護留学」 ～オーストラリアの緩和ケアにふれて学んだこと～ 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03.09.13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフケアを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04.01.17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表「積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って」 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリオン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04.06.19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカンゼンスクール主宰		292

第56回 05.03.05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか ーホスピス医として20余年ー 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 ー癒し癒され、癒されつつ癒すー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤江 良郎 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NP0法人 設立記念 フォーラム 05.06.18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすもの～癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアを支えるいのち」	千住真理子 ヴァイオリニスト 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木哲夫 金城学院大学学長 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06.03.04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心ーホスピス長としてー 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語るー理事長としてー	吉田 晋 栄光病院ホスピス医長 麻生 直子 栄光病院MSW 林 邦男 栄光病院理学療法士 原田 公栄 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 石津 暁子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤川富佐子 栄光病院栄養士 徳永 悦子 患者家族 藤江 良郎 栄光病院理事長		218
第58回 06.09.30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み ー在宅ホスピスケアの普及に向けてー ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 福岡県保健福祉部 理事兼医監 柏木 哲夫 金城学院大学学長 沼野 尚美 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07.03.10	こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語る～コミュニケーション こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの聲に寄り添って～チャプレンの立場から～	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 吉田 晋 栄光病院ホスピス長代理 赤司 宏子 栄光病院ボランティア 中島 祐子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン		129
第60回 07.10.20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 ー栄光病院ホスピスの現場からー やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08.03.08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee 明治大学看護学科シニアレクチャー 下稲葉かおり 明治大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08.10.25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケア～今、一番伝えたいこと～ 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ～ともに感じるひとときを～ グリーフケアを考える ～ちいちゃんの歩みをとおして～ 悲しむ人と共に	武田康男 北九州市立総合療育センター歯科部長 金城亜紀 九州大学病院口腔外科歯科医師 須堯晴美 星の会 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09.03.14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 下稲葉順一 栄光病院ホスピス医長 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09.10.24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ～がん終末期患者を支えるとは～ 「緩和ケア認定看護師への道」 ～よりよい看護をはぐくむために～ 「死について考える」 ～オーストラリア・心のケア教育プログラムに参加して～	山岡憲夫 やまおか在宅クリニック院長 梅野理加 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 部屋和子 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10.03.13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』 心をときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 工藤涼子 栄光病院ホスピス看護顧問 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム: 「温かいもてなし」ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区代表リーダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふあみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス病棟看護師 いやしの家施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナシュ大学看護助産師学科 レクチャラー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会いたいのに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者が教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエトリ・グリーフ・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18.11.17	メインテーマ「悲しみとともに生きること」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with：悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり 明治大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19.3.2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20.1.18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきっかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

■ 院外からの研修

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
令和1(2019)年					
1	5/7(火) - 7/6(土)		理学療法実習	柳川リハビリテーション学院	1
2	5/9(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	杉森高等学校	48+引率2
3	5/15(水) - 5/17(金)		地域医療実習	九州大学	1
4	5/30(木) & 6/6(木)		地域医療実習	九州大学	8
5	6/5(水) - 6/7(金)		地域医療実習	九州大学	1
6	6/10(月) - 6/14(金)		ホスピス医師臨地研修	安岡病院	1
7	6/17(月) - 8/9(金)		臨床実習Ⅱ	国際医療福祉大学	1
8	6/24(月) - 6/29(土)		栄養士養成 病院実習	精華女子短期大学	1
9	6/25(火)	13:30-16:30	リハビリ病院見学	宗像医師会病院	3
10	6/25(火)		地域医療実習	九州大学	1
11	7/1(月) - 8/24(土)		言語聴覚学科臨床実習	麻生リハビリテーション大学校	1
12	7/1(月) - 9/7(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1
13	7/1(月) - 9/7(土)		作業療法学科臨床実習	麻生リハビリテーション大学校	1
14	7/3(水) - 7/5(金)		地域医療実習	九州大学	1
15	7/4(木)	13:30-16:30	リハビリ病院見学	宗像医師会病院	3
16	7/5(金)	13:30-16:30	ホスピス研修	福岡高校	40+引率2
17	7/22(月) - 7/26(金)		ホスピス医学生研修	産業医科大学	3
18	7/31(水)	8:30-12:30	職業体験	須恵高等学校 普通科	4
19	8/26(月) - 8/30(金)		ホスピス医学生研修	産業医科大学	2
20	9/2(月) - 9/5(木)		認定看護師臨地実習	久留米大学認定看護師教育センター	2
21	9/4(水) - 9/6(金)		地域医療実習	九州大学	1
22	9/9(月) - 10/4(金)	(うち、17日間)	認定看護師臨地実習	久留米大学認定看護師教育センター	3
23	9/10(火)		地域医療実習	九州大学	1
24	9/10(火) - 9/11(水)		訪問看護実習	済生会福岡総合病院	2
25	9/18(水)	8:30-17:00	作業療法学科 臨床見学実習	福岡リハビリテーション専門学校	2
26	9/18(水) - 9/19(木)		訪問看護実習	済生会福岡総合病院	3
27	9/20(金)	8:30-16:30	訪問看護師養成講習	二日市徳洲会病院 訪問看護ステーションおおぞら	2
28	10/7(月) - 11/29(金)		作業療法学科 臨床実習Ⅱ	福岡リハビリテーション専門学校	1
29	10/15(火)		地域医療実習	九州大学	1
30	10/15(火) - 10/25(金)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2
31	10/24(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	佐世保市医師会看護専門学校	38+引率3
32	10/24(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	唐津看護専門学校	35+引率2

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
33	11/5(火) - 11/7(木)		ターミナル口腔ケア研修会	阿蘇温泉病院 かのう歯科医院	2
34	11/5(火) - 11/30(土)		臨床実習Ⅱ(評価実習)	帝京大学 福岡医療技術学部	1
35	11/9(土)	14:30-16:30	法人責任者職員研修会(ホスピス)	社会福祉法人キリスト者奉仕会	20
36	11/21(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	福岡医療専門学校	40+引率2
37	11/21(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	昭和学園高等学校	55+引率
38	12/4(水) - 12/6(金)		地域医療実習	九州大学	1
39	12/5(木)	13:30-17:00	ホスピス研修	大村看護高等専修学校	12+引率6
40	12/9(月) - 12/20(金)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2
41	12/17(火)		地域医療実習	九州大学	1
42	12/24(火)		地域医療実習	九州大学	1

令和2(2020)年

43	1/6(月) - 2/1(土)		臨床実習Ⅱ(評価実習)	帝京大学 福岡医療技術学部	1
44	1/9(木)	8:00-16:30	ホスピス見学	福岡市民病院	1
45	1/15(水)	14:00-16:00	ホスピス施設見学	釧路労災病院	2
46	2/3(月) - 2/27(木)	月・火・木(週3日)	医師ホスピス研修		1
47	2/4(火)		地域医療実習	九州大学	1
48	2/10(月) - 2/15(土)		基礎演習	麻生リハビリテーション大学校	1
49	2/10(月) - 2/21(金)		評価実習	麻生リハビリテーション大学校	1

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 20 号

2020 年 6 月 26 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局

総務・システム支援課

〒811-2232 福岡県粕屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています



栄光会グループ

<https://www.eikoh.or.jp/>